

ナレハ、凡テ現ニ存在ノ連續スルニハ、時間ヲ地トナシ、之ニ因テ、其存在ノ情狀ヲ占ムレハナリ、是猶空間ハ、凡テ延長アリテ、以テ形體ヲナセル存在ノ、地ヲナスカ如ク、一般ナリ、所謂無則不ニシテ、は無レハ、吾人ノ觀念ニ、云々ノ存在ヲ、理會ス可ラサル耳ナラス、併セテ、其物モ有ル可ラサルナリ、今若シ時間ヲナシトセハ、此心ニ就テモ、此有質物ニ就テモ、現ニ連續シテ、存在スル者ハ、有ル可ラサルナリ、何トナレハ、此心即チ人ノ精神ト云フ者、其様法ハ、如何タルモ、必ス多少連續シテ常アリ、而テ、一様法ヨリ、他ノ様法ニ變シテ、消長盈虚ヲ經ルニハ、必ス連續ヲ要スレハナリ、故ニ、時間ノ心ニ於ケルハ、空間ノ有質ニ於ケルカ如ク、有質體ハ、空間ニ開張シ、心ハ、時間ニ開張ス、况ヤ、時間ハ、之ヲ空間ニ比シテ、一層純粹ナル主觀ニ屬スト、謂フ可ラサルチヤ、今若、有質體ト、空間ト、兩ツナカラ、唯主觀ノ現象ニシテ、唯我カ理會タリト謂フニ、然レ、此ノ眞ノ理會ニシテ、眞ニ主觀ニ屬シタル此心ノ情狀ニモ、時間ハ、其本體トシテ、少ク可ラサル者タレハナリ

吾人時間

其由テ來ル所ヲ論スレハ、時間ノ觀念ニテモ亦空間ノ觀念ト、一般ナリ、

ノ觀念ハ  
何處ヨリ  
來ルカヲ  
論ス

致知學上ヨリ、之ヲ論スレハ、時間ハ、凡百存在ノ先天ニ在ル情狀ニシテ、凡テ連續セリ存在ト、凡テ意識ノ存スルト、皆是ニ係レハナリ、然レ、曆譜的ニテハ、後天ニ屬シ、吾人ニ在リ、知覺、經驗ニ供スルノ事タリ、吾人ノ覺性機會ニ遭ヒ、依テ以テ、時間ノ觀念、始メテ我カ心裏ニ生ス、初頭、吾人、先存在シ、而テ、此存在アルチ自覺シ、是連續シテ、意思トナリ、感觸トナリ、感覺トナリテ、意識ニ供シ、而テ後ニ、時間ノ觀念ヲ、得ルナリ

時間ハ、連續ニ、須要タリト雖レ、其連續、未タ我カ知覺ニ、供セサル時ハ、吾人絶テ時間ノ觀念ヲ、得ルコトナシ、是ヲ以テ、我カ時間ノ觀念ト、其物トハ區別セサルヲ得ス、然ルニ、祿可ハ、其物ニ就テ、之ヲ思慮シ、特ニ我カ知識ニ就テ、視サル時ハ、連續ノ觀念ハ、長久ノ觀念ニ、先ツトセルハ、誤レリト謂フヘシ、此事ニ於テハ、項參ノ祿可ノ哲學ヲ、辨定セルハ、穩當ニシテ、且正シト謂フヘシ

時間ハ相  
關スル觀  
念タルチ

今、時間ヲ唯我カ心ノ觀念理會タリトシテ、觀ル時ハ、是只關係ノ知覺タルノミ、其關係ハ、即チ、諸事件ノ交互ニ、經過スルノ關係、我カ存在ノ諸種ノ様法、情狀、意思、感觸等ノ關係ナリ、此關係ハ、交互ニ連續シ、又外部ノ物



論ス

體事件ニ就テモ、相連續ス、言ハ、其人周圍ノ景況、現在ノ意識ニ供スル者ハ、皆其内部、若シハ、外部ニ於テ、現在ニ經過シ、若クハ、經過シタル景況ト相關ス、現在ノ我ナル者ハ、前時ノ我ナル者ト、相關シテ、内部、若シハ、外部ノ連續ト、相對較スルナリ、此心、其意識ニテ、前時ノ自己ノ情狀ヲ知ルト、或ハ、外部ニ經過スル景況ヲ、知ルト、全ク、此ニツキ除キ去レハ、總テ時間ノ觀念ヲ、亡失スルハ、是カ爲ナリ

睡中ハ、此ノ如キヲ論ス

是吾人、睡中ニ於テ、此事例アルヲ知ル、一タヒ睡ニ就ケハ、意思消滅シ、現在ノ自己ト云フ觀念、未ダ止息セサルモ、我カ周圍ニ、實在ナル諸物體トノ關係ニ於テ、自己ヲ視ルコトナク、又其自己ノ存在ノ直チナル諸部トモ相關スルコトナシ、此時、猶關係ノ存スルト、見ユルハ、想像ニシテ、眞ナラス、既ニ我ハ何處ニ在リヤ、又我ハ何人、タリヤチ、知ラスシテ、外界ト相通スル諸癢ハ、悉ク之ヲ閉チ、耳目等モ、皆其活機ヲ止メ、精神モ、外部ヨリ自己ノ内ニ退縮シ、漸次ニ、内部ニ窒スルナリ、然レ、體ト心トノ連絡ハ、猶存スルチ、睡眠ト云フ、此時ニ當テ、此心ノ前時ノ事物ト現物ノ事物トニ、相關係スルハ、悉ク忘失ニ屬シ、總テ知覺ニ供スルコトナシ、此時、其效驗

何如ト云フニ、吾人、總テ時間ノ觀念ヲ失フ、睡リニ沈ムヨリ、醒覺ニ至ラ

ムトスルノ時間ハ、其睡意、極メテ酣ナレハ、同一時間タリト、見ユルナリ、故ニ、睡後、此意識ノ復スルハ、初頭、先、時間ノ系ノ半斷セルチ、結合スル如ク、事物ノ相連續スル列次ノ間ニ、再ヒ、我カ位地ヲ占ルナリ、是晝夜早晚ノ別ナク、睡起ノ時ハ、再ヒ、我カ身ヲ、待ルカ如ク、然リ、故ニ、俗語ニ、恰モ能、此時ノ事例ヲ形容シテ、汝ハ汝ノ身ヲ忘レタリト云フナリ、而テ、汝ノ身ニ就テ、忘レタルハ如何ト問ハ、唯外部ノ事物、及ヒ、内部ノ意思、感觸ノ次序ト、連續トニ就テ、其列次ノ間、汝カ占ムヘキ地位、即チ關係ヲ忘レタルナリ、故ニ、睡中ニテハ、其存在チ、意識ニ供スルノ目的ト、立ル時ハ、總テ唯、各自ノ經過ノ時間、獨在ノ存在タルナリ

又事業ニ心ヲ委シテ此ノ如クナルヲ論ス

然ルニ、又、汝カ醒覺ノ時ニ在テモ、全ク汝カ時間ノ觀念ヲ失フコトアリ、是唯、現在ノ存在ト過去ノ存在トノ關係、及ヒ連續トチ、全ク失ヒ、又我ナル者ト、我ナラサル者ト、ノ關係ヲ、忘ル、ナリ、是日常有ル所ナリヤト云フニ、今我ノ意ヲ注スル所、甚ク切要ナル事業、若クハ、習學ノ上ニ在テ、專テ心ヲ、是ニ委スル時ハ、全クナラサルモ、幾分カ、茲ニ至ルナリ、此時、吾



人、我カ周匝事物ノ列次ヲ去リ、他ニ注意スルヲ止メ、加旃、我カ自己ノ意思ニテ、云々ナリト、思フコトモナク、全ク是カ爲ニ、我カ精神ヲ、吸收セラ

又病ニ因  
テ然ルヲ  
論ス

ノ關係ヲ忘ル、而テ、是カ爲ニ、時間ノ意ヲ失フナリ、此ノ如キ心遊、最後ニ

兒童ノ時  
間ノ概念  
ヲ論ス

遊嬉ニ出テ、我カ家ヲ離レ、迷行スルヲ、再ヒ探尋スルカ如シ  
又酷烈ナル慢性病ニ罹ル時、是ト同一ナル一類ノ事アリ、譬へハ、此時ハ、  
此心、其算則ヲ失フコト、猶船艦ノ颶風ニ遭ヒ、經緯度ヲ失ヒ、其船路ヨリ  
迷行シ、久シク、其日時ノ觀念測量ヲ、爲スコト、能ハサルカ如シ  
汝、カノ兒童ノ時間ノ觀念ヲ有スル、殊ニ少ナキヲ如レルコト、疑ヒナシ、  
時間ノ念、兒童ニ在テハ、今日モ、昨日モ、此週モ、彼ノ週モ、殆ト同一ニシテ、  
又、朝モ、晝モ、夜モ、其差ナシ、凡テ時ヲ區別シテ、認識シ、又此時ヲ以テ、彼ノ  
時ヨリ、別ナリトスルハ、兒童ニ在テ、極メテ漸チ以テ、之ヲ認メ得ル所ニ  
シテ、容易ナル事ニ非ス、兒童ニハ、自家意識ナク、又事件ノ列次、交互ニ相  
關係スルモ、現今ト、過去ト、ナ、曉解スルコトナシ、是皆、時間ノ觀念中ニ、合

兒童ハ、大  
人ヨリモ、  
時ヲ一層  
長ク思フ  
ヲ論ス

有スル者ナレハナリ、故ニ、兒童ハ、甚ダ睡中ノ人ノ如ク、又夢中ノ人ノ如  
ク、又幻想ノ中ノ如ク、全ク現在ノ上ニノミ、專ラニシテ、唯現在ノ意識ノ  
ミ、存スルナリ  
上ニ云ヒタル道理ニ因テ、世ニ能ク、知レタル事實ニテ、兒童ハ、大人ヨリ  
モ、時ヲ一層長ク思フト、云フコトヲモ、解釋スへシ、上ニ云ヒシ如ク、時間  
ノ觀念ノ生セシ時ノ本則トナスヘキ者ハ、内外ノ變化ニ就テ、過去ノ我  
ト、現在ノ我トノ關係ナリ、今過去ヲ代現スル線、愈、短カケレハ、是ト比較  
シテ、測リタル現在ノ長久ハ、愈、長カルヘキハ、當然ナリ、兒童ハ、過去ノ意  
思ヲ有シ、過去ノ事件ヲ記スル、一層少ナク、之ヲ以テ、現在ノ時ト、比較ス  
ルヲ以テ、一層長ク覺ユ、而テ吾人ハ、過去ノ存在ト、過去ノ意識トチ有ス  
ルコト、兒童ニ比スレハ、其線脈、一層長クシテ、之ヲ以テ、現時經過スル所  
ニ、比較スルカ故ニ、一層短カキヲ覺ユルト、相表裏スルナリ、吾人長生シ  
テ、愈、久シケレハ、歲月ノ逝クコト、愈、速カコシテ、同一時間ナレハ、一定ノ  
時限ハ、愈、短縮ナリト、見ユルハ、是カ爲ナリ

遠永悠久

汝、應ニ此意思ヲ以テ、カノ遠古ヨリ、存在シテ、悠久無疆ナル一體ニ就テ、



ノ時ニ當<sup>テ</sup>之ヲ思惟スヘシ、汝乃チ一ノ新見ヲ得テ、カノ希伯來ノ詩人ノ美妙ナル  
テ、論ス 意ニ達シ、カノ一體ニ在テハ、千歲唯一日ノ如シト云フ旨ニ、曉通スヘシ、  
蓋シ此遠永ノ心ニ在テハ、カノ其命令ノ刻下ニ、初頭ノ第一星、暗夜ノ穹  
窿ヲ、照明セシ時ノ、遂古ナルモ、唯曠昔ノ事件ノ如ク、至近ノ事タルヘシ

第三 同一

講解ノ難  
キヲ論ス

性靈上ノ哲理ヲ論スルニ其全體連絡ノ中、許多ノ紛雜ヲ起シ、許多ノ煩  
難ヲ生シタルコト、恐ラクハ、此事頃ヨリ甚ダシキ者ハ非ス、是此事頃ニ  
在テハ、之ヲ了解シ、之ヲ解釋スルコト、至難ノ題目タルニ由レリ、吾輩、同  
一トハ、云々ノ事ヲ、徵スト云フヲ知ル、然レ、其意ノ如何ヲ説キ、其事ヲ、明  
亮ニ述ヘテ、之ヲ哲理上ニ、講解スレハ、自ラ他ノ事ニ涉ルナリ、是ヲ以テ、  
諸觀念ノ混雜ト、眞ニ錯繆ナル説トナシ、避ル爲ニ、此問題ヲ、研究スルニハ、  
稍注意ヲ用ウルコト、必要ニシテ、此題目ハ、其神理學ノ關係ニ於テモ、亦  
其純粹ナル哲理上ノ關係ニ於テモ、稍切要タル者ノ一タリ

類似ナラ  
サルヲ論

同一ハ、類似ニハ非ス。唯其相似タルヲ指スニ非ス、故ニ、相似タル物ハ同  
シ物ニハ非ス、今、假設シテ、兩個ノ圓球若クハ、圓體アリトシ、其狀、何レニ

就テモ、密ニ一様ニシテ、大小モ、色澤モ、形狀モ、同シク、以テ製シタル材料  
モ、又化學上ノ混合實質モ、悉ク同一ニシテ、目ニ見ユル所モ、手ニ觸ル、所  
モ、他ノ官能ニ、感スル所モ、同シク、其形容形質、一モ異ナルコトナク、之ヲ  
別々ニ看ル時ハ、總テ其異物タルヲ、認ムルコト、能ハサル如キニ至ラム、  
然レ、此兩個、同一ニ非スシテ、此假設ニテモ、二個ノ別々ナル圓球トシ、二  
個ノ本體トシ、二個ノ實體トス、今是兩ナカラ、同一タリト云フハ、二物唯  
一ナリト云フコトニテ、類似ハ、同一ニ非ルナリ、是大宗牧師、<sup>フットリ</sup>多來氏ノ  
能ヲ指示セルカ如ク、類似ハ、同一ト別ナルノミナラス、同一ニ、必須ナル關  
係ヲモ、有セサルナリ、今、人アリ、其形容、長短、大小、等ノ如キ、其以前ヨリ、全  
ク同シカラサル變化ヲ受ク、然レ、之ヲ同一人ナリト、謂フヲ得ヘシ、今二  
個ノ觀念同一ナルアリ、是全ク別ナルノミナラス、其一ハ、他ノ一ト、並立  
スルコトヲ、拒ムノ能力ヲ有シ得、又多分ハ、實ニ、其力ヲ有スト雖レ、亦同  
一トスルヲ得ヘシ、故ニ類似ト云フハ、多分同一ノ反體ニシテ、物體ノ相  
異ナル所以ナ、意中ニ合メリ、甲ト乙ト、相似タリト謂フハ、其我ニ見ユル  
所ニテハ、甲乙一物ニハ非ス、同體ニハ非ス、同一タラスト、謂フコトナリ、



唯同一ノ物體時チ異ニシテ、我カ認識内ニ入ル時、譬ヘハ、曾テ知リタル所ノ物體ト、今知リタル所ノ物體ト、比較スル時ノ如キ、類似ト、同一ト、一次ニ、其物ニ就テ、命證スルコトヲ得ヘキコトアリトス

同一ト云フハ、同シコト、「拉丁イテム」ト云フ義ノ、他ノ一語ニシテ、同シコト、云フ義チ解スル人ハ、同一ト云フ意チ解スヘクシテ、同シト云フハ、唯似タリ、又肖タリト、云フ意チ解サルチヤ

化學上混  
合物ノ同  
一ニ非ル  
ヲ論ス

化學上ノ混合物ハ、同シ物タリト雖也、之ヲ同一ナリト、謂フ可ラス、是唯類似タルノミ、今二個ノ體、同シ化學上ノ原行ヨリ、同シ分量ニテ、之ヲ煉化シ、同シ形狀ト、同シ性質トチ有ス、然也、是同シ體ニハ非ス、又樹材、若クハ、鐵材ノ若干チ以テ、分割シテ、若干ノ小部分トナスニ、各個共ニ、相似、其形狀、大小、形容、色澤、重量モ、皆同シク、化學上ノ混合ノ度モ、亦同シトス、然也、是一モ、交互ニ同一タルニ非ス、此ノ如キ時ニ、此數個ノ體ハ、同シ物質ノ者タリト云フハ、同シト云フ語チ、稍廣ク用ヰタルニテ、此物嚴密ニ、同シ分子ヨリ、成レリト、謂フニ非ス、其一個ノ實體ハ、他ノ實體ト、眞ニ同一ナリト、徴シタルニハ非ス、唯此物質ニ就テハ、同シ種類同シ品屬タリ

言ハ、材木ハ材木ヨリ、鐵ハ鐵ヨリ、成レリト云フ耳ニシテ、是決シテ、同一ト云フ者チ、ナスニ非ルナリ

若此ノ如キ同一ノ考定ニテ、諸體ノ同一タルコトチ、理會シ得ヘキ時ハ、其數限極アル可ラス、今一ノ化力アリ、化學上一定ノ原行ヨリシテ、其形狀性質トモ、一定セル一體チ、結成スル時ハ、此力ニテ、二個、若クハ、十個チ、結成スルチ得ヘク、而テ、其初頭ノ二個チシテ、同一タラシメハ、餘ノ十個モ、亦同一タリ、是皆同一時ニ於テ、其交互ニ、同一タルカ上ニ、十個共ニ、同一ニ存在シ得ルナリ、然也、十個ノ中、各自ニ同一タルチ以テ、又各自ニ別々ナリトス

同一ハ相  
比較シタ  
ル語ナル  
ヲ論ス

同一ハ相關シタル語ニシテ、凡テ他ノ形質チ表スル語モ、多少此ノ如シ、今直ト云フ語ハ、其中ニ、不直ト云フ觀念チ含ミ、美妙ト云フ辭ハ、醜惡ノ觀念チ包ミ、大ト云ヘハ、反體ノ小チ表シ、凡テ他語モ、此ノ如シ、而テ、同一ハ、其反對トシテ、殊異ト相關シテ、立テ、故ニ同一ノ觀念チ有スレハ、又殊異ノ觀念チモ、有スヘシ、而テ、同一ナリト、肯定スレハ、殊異ナラズト、否定スヘク、又否定スルト云フハ、其否定シタル觀念チ有スルコトナク、蓋



シ殊異ナケレハ、同一無シト謂フニハ非レト唯他ノ一ツト云フノ觀念  
無シニ此一ツト云フ觀念ノ在ラサルコトヲ謂フニテ矮人ノ觀念ナシ  
ニハ、長人ノ觀念ナキカ如ク、殆ト一般ナリ  
然ラハ則チ同一ナリト肯定スルハ唯殊異ナラスト、否定スルコトハ合一  
ナリ、同ナリ、一ナリト命證スルコトナリ、他ノ諸物モ、此物ノ如クニアリ、  
凡テノ目的ニテ、此物ニ同シク、此物ト混合シテ見ルヘク、又誤リテ、此物  
トシテ取ルヘキコトアリ、又取ルヘキコトモアリ得ルト雖モ、是皆他物  
ニシテ、此物ニハ非ス、故ニ、今同一ナリト肯定スルハ、此物ヲ肯定スルニ  
テ、殊異ナラスト、他物ナラスト、云フナリ、然ルニ其一物ヲ、凡テノ他ノ一様  
ナル、或ハ一様ナラサル物ト、區別シテ、表徴スルニハ、何事タルニ拘ハル  
ニ非ス、又其物ノ一體ヲナシ、本體ヲナシ、以テ其同一ヲ成ス所以ノ者モ  
何物タルニ拘ハルニ非ルナリ

此語ノ適用諸種ナルヲ論ス

上節ノ意ナルヲ以テ、此語ヲ諸種ノ物ニ適用スル時ハ、各自ニ稍異ナル  
意味ヲ有スルコト、明カナリ、何トナレハ、其物ノ一體若クハ、本體ニ、差異  
アレハナリ、然ルニ、其物ニ三種ノ別アリテ、各自ニ、此語ヲ適用スヘシ、是

第一ニ、精神ノ存在、第二ニ、機性體、即チ、生活體ノ存在、第三ニ、無機性ノ物  
質ナリ

第一種ニ適用スルヲ論ス

第一種、即チ、精神ノ存在ニ就テハ、其同一ナルコト、單純ニシテ、且、連綿タ  
ル存在ノ中ニ在リ、カノ靈魂、即チ、精神ハ、存在スル者ニシテ、其存在、連綿  
タリト云ハ、明カナリトス、其存在シテ、連綿タル間ハ、同一ヲ以テ、之ヲ  
命證スヘシ、然レ、此存在、熄ム時ハ、同一モ、又、熄ム、是其物既ニ、存在セサレ  
ハ、是ニ就テ、肯定スヘキ者ナケレハナリ、又、其代リニ、他ノ精神、創造ヲ受  
ケ、且、其天稟、毫モ、前時ニ異ナルナク、其形質ノミナラス、其意識モ、亦同ウ  
シテ、前時ニ自知スル所ハ、凡テ之ヲ自知スルニ堪エタリト、假定スルコ  
トヲ得ルモ、是猶前時ノ者ト、同一タリト、謂フ可ラスシテ、此假説ニテハ、  
他ノ精神ニテ同シ精神ニハ、非ルナリ、故ニ、之ヲ同一ナリト謂フニハ、即  
チ前時ノ真ノ本體、若クハ、存在タルヘクシテ、其代タル他ノ一本體ナル、  
可ラサルナリ

故ニ同一ト云フ義ノ、嚴密十全ナルハ、本來唯性靈上ニシテ、物質ナラサ  
ル存在ニノミ、之ヲ適用スヘシトス、何如トナレハ、性靈ノミハ、存在ノ中



コテモ、其單純ナル本體ノ同一ヲ、連綿損壞ナク、保存スルノ一種タレハナリ

人體ノ同一ヲ論ス

今人體ノ同一ト云フ時ハ、即チ其精神、其靈魂、其我ナル者ヲ、形體上ノ物質ノ部ト區別シテ、之ヲ指スナリ、故ニ、人體ノ同一ナル明證ハ、此意識ニシテ、吾人今、自己ト呼ビ、又我ト唱ヘ、意思アリテ、意識ヲ具ヘタル今日ノ存在ハ、昨日亦意思アリテ、意識ヲ具ヘ、自己又我ト稱シタル者ト同一タルヲ知リ、他ノ同質同狀ノ人タル存在ナリトハ、知ラサルナリ

祿可氏ノ觀ヲ論ス

祿可氏ハ、誤リテ人體同一ノ明證タル者ヲ、其同一ナル者ト混シテ、吾人ノ同一ハ、意識ニ在リト、肯定セルハ、怪ムヘシトス、果シテ然ラシメムカ、則チ、吾人ノ意識、間斷スルアリテ、譬ヘハ、熟睡、眩暈、癡昏ノ時ノ若キハ、我カ同一ハ、既ニ去リタリト、謂フヘシ、此謬語ハ、學士來德、及ヒ宗教師佛多列爾ノ指目シテ、十分ニ解釋セル所ニテ、中ニモ、來德ハ、一ノ比喻ヲ設ケテ、曰ク、今モシ、一個ノ人アリ、其生涯ノ時限ニ從ヒ、或ハ、學校ノ少年、或ハ陸軍ノ鄉勇、或ハ一軍ノ司令タラム、而テ其少年タルヤ、園菓ヲ盜ミテ、鞭撻ヲ喫シ、兵卒タルヤ、敵中ニ入テ、軍旗ヲ奪フ、而テ、此時ニ當リ、兒タリシ

時ノ鞭撻ヲ、追懷シテ、明亮ナリトシ、然ルニ、司令官トナリテハ、唯軍旗ヲ奪ヒシ事ヲ、記スレトモ、鞭撻ヲハ、記セストセム、然ルニ、祿可氏ノ説ニ從ヘハ、兵卒ハ、少年ト同一ナリトシ、都督ハ、兵卒ト同一ナリトス、何トナレハ、是其事ニ就テ、意識ヲ存スレハナリ、然モ、都督ハ、少年ト同一ナラストス、何トナレハ、其事ノ意識ヲ有セサレハナリ、今式ニテ言ハ、甲ハ乙ナリ、乙ハ丙ナリ、然モ、甲ハ丙ニ非ルナリト、謂フカ如シ、蓋シ其眞理ヲ指シテ、之ヲ同一ト謂ヒ、眞理ノ明證ヲ指シテ、意識ト謂フ、是自ラ、二事ナリ、故ニ、縱ヒ過去ノ事ニ就テ、意識ヲ有セサルモ、其人存在ノ合一連綿タル者、存スル間ハ、猶同一存ストスヘシ

第二種ニ適用シタル同一ヲ論ス

今機性物質ノ存在ニ就テ、之ヲ觀レハ、動植ノ別ナク、其同一ハ、其物ノ本體ヲナス者ニ在リテ、此本體、即チ之ヲシテ、動物タラシメ、植物ナラシムル者ナリ、是唯其體ヲ、本體ト指スニ非ス、又唯云々ナル數目性質ノ分子ヲ指スニ非ス、且其分子ノ位置結構ノ所ヲ指スニモ非ス、此數ノ者ト共ニ、其體中ニ一層高キ本元アリ、是即チ生活ノ本元ナリ、此隱微ナル生活ノ本元ハ、物質分ノ同シ結構官具中ニ、一貫シテ、一ノ組織セル合一ヲナ



シ、一ノ具體ヲナシ、一ノ本體ヲナシ、縱ヒ、其官具ヲ混成スル諸部ト、分子トニ就テハ、許多ノ變化ヲ受クルル有ルモ、其物體ノ同一ヲナス者ナリ。然レ、此同一ハ、既ニ十全ニ非ス、又至純ニ非ス、何トナレハ、精神ノ存在ノ如クニ、其本體同一ナルコト、既ニ已ニ、純全ナラサレハナリ、今ソレ、論題ナル動植二體ニ於テ、其組織セル者ノ中、活生ノ本元ハ、實ニ其存在ノ間、諸時限ヲ一貫シテ、同一タレハ、物質ノ官具ハ、同シ純全ナル本體ヲ存保セス、唯其結構形狀ト、諸部ノ用法トハ、同一ニシテ、其諸部ト、其分子トハ、自ラ陸續變化ヲ受ル者ナリ、然ラハ、吾人物質機性ノ存在ニ就テ、同一ナリト、命證シ得ルモ、密ニ哲家語ノ用法ニ合セス、唯稍差異ヲ帶ヒテ、其一分ヲ見タル意ニ取リタルナリ、故ニ同一ト云フト雖レ、唯其結構官具ノ總體、同一ニシテ、生活ノ連綿タルヲ指スニテ、其生活ノ本元、一貫シテ、合一ナルタケノ所コトハ、同一ト稱シテ可ナリ、是ニ由テ、此ノ如キ一物體ヲ、凡テ他ノ是ト同種類ノ物體トハ、區別スヘキヲ、知ルコ足レリトス。

第三種ニ  
單素ナル無機性ノ物ニ就テ、觀レハ、其同一ハ、更ニ、其純全ナル同一ノ中ニ在リテ、其分子ニ變化ナキヲ、主トスヘシ、然レ、論題ナル諸物ニ至テハ、

ル同一ヲ  
論ス

其本體タル定形モ、結構モ、生活ノ本元モ、悉ク無キ者コト、一モ一定セルコト、ナキ者ナレハ、唯其物ノ一塊、即チ實體ヲナス所ノ數ト、分子ノ性質トノ中ニ、其本體在リトスルナリ、而テ、少シコトモ、是ニ變化アレハ、既ニ已ニ、同シ本體ニハ、非ルナリ、故ニ、此ノ如ク、觀ル時ハ、元來此論題ナル一例ニ於テハ、一モ同一トスヘキ者ナシトス、何トナレハ、物質ノ實體ハ、何レモ、陸續トシテ、其變化ニ屬スヘキ者タレハナリ、故ニ、吾人、今唯、無機性物質ノ實體ニ就テ、同一ナリト云フハ、唯第二義タル俗用ノ意味ニシテ、嚴密ニ言ヘハ、畢竟是、同一タル者ニ、非スシテ、少シコトモ、二個ノ瞬間ヲ分テハ、同一ニ存スル者ニ、非ルナリ。

然ルニ、吾人、日常ニ、葉ノ紙アレハ、唯其兩ツナカラ、白ク、若クハ、兩ツナカラ、赤キヲ指シテ、同シ色ナリト云ヒ、又二個ノ貨幣アレハ、唯其二個ノ同種類タリ、同色タリ、其純雜ノ同量タル等ヲ指シテ、同シ純質同シ大小同シ分量ナリト云フ、然レ、其一ノ色澤、純質、大小ト、他ノ一個ノ、色澤、純質、大小ト、極メテ本體ヨリ同一ナリト云フ意ニハ、非ス、是ト同シク、吾人物質ノ實體ニ就テ、唯其物ノミニ就テ論シテ、同一即チ、同シ物ナリト云フハ、



語ノ用法ノ然ルコト、嚴密ナル本來ノ意ニ非ス、唯第二義ナル、泛用タルノミ、嚴密ニ言フ時ハ、其實體毫モ變化ナキニ、非ルヨリハ、之ヲ同一ト謂フ可ラス、然レ其變化ナキコトハ、物質ノ存在ノ中、何ニテモ、時ノ陸續相繼ク限内ニ、多分保ス可ラスシテ、繼ヒ是アルモ、實ニ稀ナルナリ

習俗ノ用法ヲ論ス

此語ニ就テハ、習俗ノ用法アリテ、猶表章ヲ要スルナリ、吾人山川樹木若クハ、自然ノ此ノ如キ物ニ就テ、同一タリト云フコト多シ、此ハ是、余カ稚兒タリシ時、看シ所ノ同シ山ナリ、此ハ是、少年ノ時、其下ニ憩ヒシ所ノ同シ樹ナリ、此ハ是、幼時濯浴若クハ、漁釣セシ所ノ同シ川ナリト云フ、然ルニ、是亦、一意アリテ、同一ト云フモ、其真ヲ失ハスシテ、正シキ用ヒナリ、其實體ニ就テハ、變化アリシコト、固ヨリ疑ヒテ容レサレハ、純全ナル同一ナラサルハ、固ナリ、然レ是亦畢竟員數上ノ同一ナリ、此員數上ノ同一ヲ指シテ、此物ノ同シキコト、即チ其同一ナルヲ云フナリ、是此ノ如キ語ノ用法ニハ、十分ノ根據アリ、今汝書籍山河等ヲ見テ、之ヲ以前曾テ見タリシ者ナリト、認ムルカ如シ、又今一樹アリテ、汝朝々ニ其下ニ逍遙セムニ、其樹ハ曾テ十度前ニ其下ニ盤踞セシ所ノ樹ニシテ、決シテ他ノ樹ナラ

サルヲ認ムルカ如シ、然レ其樹葉ハ、固ヨリ、既ニ年々ニ變シタリ、其樹皮モ、材維モ、亦既ニ變シタリ、而テ其枝條ハ、亦一層大イニ、且、數多ナルコト至リテ、其標梢ハ、或ハ時ヲ經、暴風ノ爲ニ、摧折セラレタルヲ免レズ、是其變化ヲ受ケタルコト、汝カ變化ヲ受ケタルカ如ク、四時變遷ニ從ヒ汝ト共ニ、老大ナルニ至リ、其綠葉蒼然タリシモ、汝カ志望圖略ト同シク、凋落四散スルニ至ルヘシ、然ルニ猶是汝ニハ同シ樹タルヘシ、何ソヤ、是皆員數上ニテ、同シ合一ナリ、爰ニ千萬株ノ相類似セル樹木アリ、其種類、生長、形狀、諸部ノ姿勢、大小、色澤、總テ其形容等、悉ク相似サルナシ、然レ唯此一個樹ハ、即チ汝カ曾テ認メタリシ所ノ、一個樹ニシテ、他處ニ生シタル同種類ノ、他ノ一個樹ニハ非ルナリ、是即チ員數上ニテ、同シ合一ニシテ、一列中ノ他ノ一個ナラサルナリ、此ノ如キ同一ナル語ノ用法ハ、世俗ノ意義ナレレ、是スラ猶同一ト云フ意ニ存在ノ陸續タル義ヲ存スルナリ、若シ其諸部、全然變シ去リ、漸シキ者、相替ハリ、譬ヘハ、幻技刀子ノ如ク、刀中刀ヲ含ミ、柄中柄ヲ藏メ、陸續トシテ、新形ニ變スルカ如クナラムカ、或ハ又一船舶ノ如ク、其本來ノ材板、索繩、悉ク時ト共ニ朽廢シ、年々修覆シテ、全船



ノ實體、悉ク新物ト、相代ルカ如クナラムカ、吾人、此物ニ就テ、既ニ之ヲ同一物タリト思ヒ、且同一物ナリト謂フ可ラサルコト固ナリ  
 是純全ナル同一ニ  
 上ニ論述シタル事例ハ通俗ノ語法ニテ其物ヲ指シテ、同シ又同一ナリト謂フハ、嚴密ニ然ルニ非スト雖モ之ヲ純全ナル合一、若クハ同一ナリト謂フヨリモ、寧ロ比較ヨリ生スル合一ナリト謂フニ若カサルナリ、蓋シ此等ノ事例ニテハ、必ス他ノ同種、同類、同部屬ノ物體アリテ、是ト相關係シテ、同一ト謂フニテ、此同種類、同部屬ノ中ニテ、現ニ認ムル物體、其一ニ屬シ、其部中ニテ、其物體ノ以前ニ有セシト同シ關係ヲ、現在モ有スルナリ、譬ヘハ、卓子上ニ數種ノ卷帙アリ、汝、中ニ就テ、其一卷ヲ取リテ、又數時、數瞬間ノ後ニ復之ヲ取ルカ如シ、而テ曰ハク、余、今取ル所ノ書ハ、前時取リシ所ノ書ト、同一ナル物ナリト、然ルニ、此時、汝、心裏ニ、其實質、純乎トシテ、變化ナクシテ、是前時ノ書ト同一ニシテ、其卷篇中、章句ノ數、一モ異ナルコトナシト、謂フニ非ス、汝カ、心裏、總テ此ノ如ク、思慮セサハ、明カニシテ、唯此ノ如ク、徵シタル合一ハ、以前ニ徵シタルト同シ合一ニシテ、同種類中ノ、他ノ一書ニハ、非ルコトヲ示スノミ、是即チ、其觀念モ、既

此中動モ  
 スレハ多  
 岐ヲ含ム  
 ナ論ス

ニ彼此ノ比較ヨリ、生スル者ニテ、比較上ノ同一ナリ、而テ、其中ニテ、員數上ノ合一ヲ首トシテ、其原行ト立テ、觀タル者ナリ  
 總テ、吾人ノ心裏ニ、同一ノ觀念、生スル時ハ、動モスレハ、物體ノ多岐ナルアリテ、其品性、概スルニ、亦相同シク、之ト共ニ、其觀念中ニ、含蓄セリ、此ノ如キ異種多岐ノ觀念、心裏ニ現ハレ、此觀念ニ本ツキテ、認識ノ差ヲ生スルナリ、其觀ル所ノ物體ハ、同一ナリト雖モ、之ヲ觀ルノ人、亦同一ニシテ、觀ル所ノ時、異ナルアリ、又或ヒハ、觀ル所ノ時、同一ニシテ、觀ル所ノ人、異ナルアリ、此ノ如キ時ニハ、其物體ハ、全然同一ナリト雖モ、之ヲ認ムルハ、各別ニシテ相濶レリトス、此認識ノ多岐ニシテ、差異アルコト、其物體ハ、一ナレモ、動モスレハ、諸種ノ觀念ヲ生スルノ本トナルニ至ルナリ、譬ヘハ、今日見タル書籍ト、昨日見タル書籍ト、我カ意思ニ於テハ、各別ナルニ物タリトシ、今ノ認識ト、後ノ認識ト亦此心ノ各別ナルニ發作タリトス、是ニ於テ、其物體各別ナリヤ、其認識各別ナリヤト、云フ疑問ヲ來スナリ、是同一ノ疑問ニシテ、汝將ニ直チニ、此數様ノ認識ニ供スル物體ハ、同一タリト云フ、不易ノ的證ヲ得ルニ至リ、其事例ノアル所ニ從ヒ、其同一ノ



同一ノ理  
會ハ其總  
計幾個ア  
リヤチ論  
ス

純全タルト、比較ニ生スルトヲ、定ムルニ至ラムトス  
故ニ、總テ同一ナリト、肯定シタル事例ニ當テハ、動モスレハ、目的多岐ニ  
出ルコトアリ、是之ヲ認知スル人同ウシテ、時ノ異ナルニテモ或ヒハ、又  
時同ウシテ、人異ナルニテモ、一定ノ物體ニ認識ノ差異アル是其一ナリ、  
此認識ノ差異ナル物體ニ就テ、動モスレハ、多岐ニ出ルハ、現實ニ多岐ナ  
ルカト云フ疑問、是其二ナリ、此疑問ノ然ラサル的證、物體ハ同一ナリト  
云フ決定、又此同一合一ナルコトハ、嚴密ナル哲學上ノ本來ノ意ニテ、此  
語ヲ用キル時ト、通俗ノ泛用ノ時トニ從ヒテ、純全ナルト、比較ニ生スル  
トノ異アリト云フ、是其三ナリ、故ニ其一ノ事例ニテハ、至極ノ本體ノ同  
一ナリトシ、他ノ事例ニテハ、名目上ニテ、其一系列、若クハ、一種中ニテ、彼此  
相關係シタル同一ナリトス

第四 因縁

因縁ノ觀念ハ、人各心ニ慣用スル所ト一タリ、然レ、此語ニテ、何チカ徵ス  
ルト、云ハ、細密ニ之ヲ解釋スルコト、容易ナラス、又其語義ノ經界ヲ定  
メ、且ツ其由來ヲ摘發スルコト、其ニ難キ所ナリ

余謂フ、此語ヲ、尋常ニ用ヒタル時ハ、其意、此上ニ、一ノ應效ノ相關スル者  
ヲ指スナリ、是カ爲ニ、一モ、事件ト、現象トノ生セサル者ヲハ、徵セサルナ  
リ、故ニ今一物アリテ、他ノ一物ノ因縁タルチ、肯定セムト欲セハ、此兩ツ  
ノ者、相連絡シタルチ、知ルヘキ耳ナラス、且其一ノ存在ハ、他ノ一ノ存在  
ニ關スルコトヲ、知ラサル可ラス、是ヲ以テ、因縁ト云ヒ、前兆ト云ヒ、共ニ  
一定不易ノ者ナリト雖、因縁ハ、唯前兆ニハ非ス、譬ヘハ、風雨ノ起ラム  
トスルハ、晴雨儀ノ變化ニ因テ、前兆ヲ見ルヘキコト、不易タリト雖、其  
變化ハ、唯風雨ニ先タツ耳ニシテ、風雨ノ因由ニハ非ルナリ

此觀念ノ  
由來ヲ論  
ス

因縁ノ觀念ハ、吾人何レノ處ヨリ、之ヲ取り來ルカト云フハ、一切要ノ疑  
問ニシテ、許多ノ講論ヲ、費セシ所ナリ

此觀念ハ、吾人ノ覺性ヨリ來ラサルハ、明カナリ、譬ヘハ、余今、火ノ前ニテ、  
雪ノ解クルチヲ視、又蠟燭ノ熔際ニ、蠟ノ解クルチヲ視ルカ如シ、熔際ニ當リ  
余カ見ル所ノ者ハ、何シヤ、唯此ノ如キ現象ノミニシテ、別ニ見ル所ナキ  
ナリ、故ニ、總テ覺性ノ示ス所、總テ目力ノ呈スル所ハ、唯一實體アリテ他  
ノ一實體ノ近傍當面ニ於テ、溶解スルコトニテ、余其因縁ト云フ者ヲ見



又一モ、一ノ形状ヨリ、他ノ形状ニ移ルヲ見ス、又一モ、一ノ物ヨリ、他ノ物ヲ攪動スルヲ見ス、唯兩ノ者、相近ツキテ、其一物中ニ變化ノ起ルヲ見ルノミ、是ニ因テ、余引證シテ、以謂ヘラシ、此變化ハ、相接近スル故ニ、生スルナリト、余之ヲ信シテ、後來屢試験ヲ反覆シテ、同シ效ヲ得レハ、其必ス此ノ如クナルヲ疑ハサルナリ、故ニ、因縁ノ觀念ヲ、心ニ提起スル者ハ、余カ見タル所ノ者ナリト雖、<sup>此</sup>之ヲ覺性ヨリ得タルニ非ルナリ、其因縁ナル者ハ、隱微ニシテ、固ヨリ見ルニ由ナク、其性質ハ、全然知ル可ラスト雖、其存在ノ眞ナルハ、能知レタル所ナリ、然レ、是現實ニ見タル者ニ由ルニ非ス、唯斯心ノ理法ニ由ル者ニシテ、此理法、余ヲシテ、各自ノ事件ハ、必ス其因縁アルコトヲ信セシメ、何如ナル境遇ニ處スルモ、一ノ因縁アレハ、必ス一定ノ變化事件ト相連絡スルコト、不易違フコトナシト、思ハシムル者ナリ

心意ノ結構ナルヲ論ス

此ノ如キハ、心意自然ノ結構ニシテ、其發作ノ理法、自ラ此ノ如シト云フハ、一モ疑フヘキ道理ナシ、吾人乍チ一事件、若クハ、一現象ヲ視レハ、目下直チニ、是其應效タルヲ断定シテ、其因縁ヲ求メムトスルナリ、是吾人ノ

覺性ヨリ來ルニ非ルヲ論ス

性ニ、本ツク者ニシテ、吾人強キテ、理會ヲ起シ、自ラ欺イテ、絶テ因縁ナル者ナシト、定メムト欲スルモ、亦得ヘカラサルナリ  
然ルニ、此因縁ノ元理ハ、經驗ヨリ來ルニ非ス、之ヲ覺性ヨリ取ル者ニ非ルハ、前既ニ、之ヲ云ヘリ、固ヨリ既ニ自ニテ、蠟ノ溶解スル因縁ヲ見ス、況ヤ又、其見ル所ノ物ノ中ニ、各自ノ事件ニハ、必ス因縁アリト云フ元理ヲ、含メルヲ見シヤ、是覺性ノ賦與スル者ニ非ルコト、明カナリ

意識ヨリ來ルカヲ論ス

是覺性ノ賦與スル所ニ非スト雖、或ハ、此經驗ニ屬スルノ事ニシテ、意識ニ由テ、之ヲ取ルニ非ルナキヲ得ムヤ、是或ヒハ、他ノ一道ナリト、是亦然ラス、譬ヘハ、余今、一定ノ意ヲ提起スレハ、我ノ意識、之ヲ知ル、而テ、此發意ハ、又一定ノ筋維ノ運動ヲ伴ヒ起シ、而テ、此筋維ノ運動ハ、又我ヲ圍繞スル、周匝ノ諸物ニ及ヒ、再ヒ、一定ノ感觸スヘキ應効ヲ、起スニ至ルナリ、此外部ノ諸物ノ上ニ、生シタル變化ハ、直チニ、復我カ自己心裏ノ情狀變化ト、相連絡シ、是ニ依テ我カ意思如何ハ、亦直チニ、我カ意識ニ供スルナリ、故ニ我カ方ニ在テハ、先意ヲ起スト、是ト相通スル筋維ノ努力ト有リテ、而テ、外部ノ變化ヲ生スルニテ、此ノ如ク、意ヲ提起スルコトナキ時ハ、



未ダ曾テ變化ノ生スルヲ觀サルナリ、故ニ、余我カ意ヲ以テ因縁トシ外  
部ノ變化ヲ以テ應效トスルコトヲ知ルナリ、而テ、又、余他人ノ意力ヲモ、  
亦同シ様法ニテ、變化ヲ生スルヲ觀ル、此ニ依テ、概シテ、因縁ノ觀念ヲ得  
ル故ニ、意識ト、經驗トニ因テ、之ヲ賦與スト云ヘ、其實、未ダ盡サ、ル者  
アリ

因縁ノ觀  
念ハ此ノ  
如クニシ  
テ生スル  
ニ非ルヲ  
論ス

佛朗西ノ才名伎倆アル哲家、吾人因縁ノ觀念ノ元ヲ、此源ニ歸着セルハ  
蓋シ、斯ニ取レルニテ、其哲家トハ、余實内德比蘭ヲ指スナリ、吾人自己ニ  
テ、意ノ努力ヲナシ、是ニ因テ、應效ヲ生スルコトハ、皆我カ意識ニ、供スル  
ノ事ニシテ、是初頭我ニ因縁ノ念ヲ賦シ得ル者ナリト云フ説ニ至テハ、  
余カ説モ、亦比蘭氏ト一致セリト雖、是我ニ、因縁觀ノ理法ヲ、賦スル者  
ニ非ルナリ、是唯一一定ノ事例ニ當リ、正ニ然ル者ニシテ、唯其事例ヲ、解釋  
スルニ足リ、之ヲ過キテ以テ、一モ依テ以テ、解釋スヘキナク、一步モ、進  
ムコト能ハサルナリ、上ノ如キ事例ニ當リ、首唱ト、後和ト、ヲ取り、之ヲ一  
連接ノ運用ニ、屬シタル時ニ、一定ノ應效、發生スルハ、固ヨリ余カ意識ニ  
供スル所ナレ、此ノ如キ様法ニテ、事件ハ、各因縁アリト云フ元理ハ、意

識ニ供セシテ、余カ經驗ハ、絶テ此ノ如キ專斷ヲ許サ、ルナリ、是ヲ以  
テ、事實ト、事例トヲ、歸納スルハ、絶テ此事ヲ例ス可ラス、歸納ハ、唯其事  
ト、事例トヲ、擴充シテ、又之ヲ概括スルコトヲ、得ヘシト雖、然、徒ニ慣  
習上ニ屬スル偶然ノ事實ニ、絶テ全稱必然ノ烙印ヲ押スコト、能ハサル  
ナリ、約シテ言ハ、因縁觀ノ理法ハ、一定ノ事例、若クハ、其事例ノ若干ヨ  
リ、全ク別ニシテ、之ヲ現在ニ視實シタル因縁トハ、區別スヘキナリ、故ニ、  
一場ノ事實ニ、就テ、因縁ヲ知ルハ、意識上經驗ノ疆内ニ、入ルヘクシテ、因  
縁ノ理法ニ達スルハ、總テ之ヲ言ハ、即チ第一元ノ真理、道理ノ觀念ニ  
シテ、斯心ノ理注外ナラザルナリ

學士包然  
ノ説ヲ論  
ス

此事ニ就テハ、學士包然、尤モ能ク、其意ヲ表章セリ、其言ニ曰ク、事件ハ各  
其因縁アルヲ必トスト、云ヘル元規ハ、所謂天然ノ理法ノ如ク、唯經驗上  
ニ本ツキタル歸納ニテ、一事例ノ、是ト相反スル者ニ遭フマテハ、別ニ異  
論ナシト、云フノ比ニハ、非ルナリ、是ハ乃チ、必然不易ノ真理ナリ、是天然  
ノ現象ヲ、視察シテ得ル所ニ非スシテ、人智ノ必前ニ出テ、此ノ如キ視察  
ヲナスニ其上ニ、卓爾タル者ナリ、故ニ、之ヲ知ルハ、五官ノ能力ニ由ラサ



レハ、視テ以テ、假冒ナリトスルコトノ、能クヌ可ラサル耳ニ非ス、此ノ如ク理會スルコトモ、能クヌ可ラサルナリ、然ルニ、吾人ナシテ、因縁アルヲ知ラシムル因縁ハ、天地間ニテ見ルヘキ者ニ非ス、徒ラニ、有形理學ノ徒、之ヲ講求スレバ、勞シテ功ナク、世界ノ創造以來、恒ニ之ヲ、一事例ニ於テ、求メムト欲シ、竟ニ久ウレテ、志ヲ委シテ、達ヌ可ラサルヲ知リ、今日ニ至テハ、唯自然ノ現象ヲ類集シテ、以テ足レリトスルニ至レリ、蓋シ、此現象ノ眞因縁ニ至テハ、之ヲ物質ノ境裏ニ、求ム可ラスシテ、之ヲ心意ノ域内ニ、求メサル可ラサルナリト

何者カ、因縁ヲ造スヲ論ス

上論ニ援用シタル著家ノ、論及セル所ハ、何者カ因縁ヲ造スト云フ、輕淺ナラサル問題ナリ、然ルニ、今ハ此問題ノ講究ニ、就クノ暇ナキヲ以テ、唯一事ヲ表章シテ足レリ、本來此語ノ用法ハ、心意ヨリ、外ノ物ニテモ、因縁トシテ、徵スヘキ者多クシテ、唯一定ノ應效アラサル耳、故ニ鐵鎚若シハ、此等ノ器械ハ、鐵釘ヲ打入スルニ、少ク可ラサル者ナレハ、鐵鎚ヲ呼ヒテ、打入セラレタル釘ノ、因縁トスルヲ得ヘシ、又其鎚ヲ用ヒテ、打ナメル打撃モ、亦因縁トシテ、徵スルヲ得ヘシ、又一層本來ヲ語レハ、其打撃ヲ起セ

シ手臂ヲモ、猶一層正シク推サハ、其手臂ヲ動カシ、是ニ繼テ、鎚ヲ動カシ、以テ打當スルニ、至ラシメタル心意ヲモ、因縁タリト謂フヘシ、故ニ、吾人至極眞實ノ因縁ヲ、求メムト欲セハ、竟ニ心ノ域内ニ反歸セサルヲ得サルコト、疑ヒナシ、是皆斯心ニシテ、何レノ事例ニテモ、最第一ノ動手トシテ、其應效ヲ生セシムル者ハ、此心ニ非ルナシ、故ニ、心ヲ指シテ、第一心因、又諸因ノ因ト、名クルコトヲ得ヘシ

因縁ノ說ノ記傳○

亞立斯度德ノ見解

因縁觀ノ說ノ記傳ハ、諸家ノ考定異論百出、固ヨリ一定ノ說ナシ、今茲ニ、舉示スル所ハ、其梗概ヲ示スニ、過キサレノミ、此因縁觀ノ區別分類ノ、最古ナルハ、亞立斯度德ヲ鼻祖トシ、次ノ分解ヲ立テタリ、曰ク、總テ諸作物ノ、全備ニ至リタル者ハ、四者ヲ其中ニ含メリ、其由テ以テ成ル所ノ作者、其資ヲ以テ成ル所ノ材質、原行、其依テ以テ形狀樣法ヲ、定ムル所ノ圖畧、觀念、其爲ニスル所ノ最後目的ナリ、是ヲ以テ、今、一ノ彫像ヲ造ラムトモハ、彫工、花蕊石塊、彫工、心裏ノ意匠、此作物ヲ作ル爲メ初念トハ、是ナキヲ得サルナリ、此中ニテ、第一ナル者ヲ實力ノ因ト名ケ、第二ヲ材質ノ因ト名ケ、第三ヲ形體ノ因ト名ケ、第四ヲ最後ノ因ト名ルナリト、此分類ハ一



祿可氏因  
緣觀ノ異  
ヲ論ス

般ニ士歌羅斯<sup>スラスタ</sup>加派ノ諸哲之ヲ誦法シ、又今猶僅カニ之ヲ奉スル徒アリ、余ハ更ニ此中ニテ實力最後ノ二因緣ニ就テ之ヲ論スヘシ。因緣ノ觀念ノ源由ニ就テハ其說甚々多岐ニ涉レリ、祿可ハ之ヲ覺性ヨリ來ル者トシ、又感覺學家ノ諸哲モ之ヲ取レリ、以謂ヘラク吾人唯萬象諸體ノ交互ニ相制シ相化スルヲ觀ル、因緣ノ念斯ニ生スルニ非スシテ、何ッヤ

虎護并ニ  
不羅昂ノ  
考定

虎氏ハ、因緣ト名ル者ノ存在ト、一物ノ他物ノ上ニ及ホス勢力トハ、是アルナシト拒ミ、唯之ヲ分解シテ諸物ノ相續キ相續<sup>ツ</sup>キテ其次序整々タル者トシ、而テ之ヲ吾人ノ意思中ニ受テ亦相伴ビテ現ハル、者トセリ、不羅昂ノ考定モ其實是ト同クシテ、因緣ト應效トチ分解シテ唯先ツ者ト、隨ク者トシ、是ヲ超エテ以往ハ吾人一物ヲモ知ルコト能ハス、一事ヲモ肯定スルコト能ハスト云ヘリ

萊武尼多  
ノ考定

萊武尼多ノ考定ハ殆ト表裏ノ極點ニ位シ、此勢力ノ原行、即チ因緣ノ實カアルコトヲ總テ存在アル諸體ニ歸着シテ、是ナキハ莫シトシ、實體ハ其力ヲ有ス、是即チ其因緣ナリト

韓圖ノ考  
定

韓圖并ニ其門派ニテハ、因緣ヲ以テ唯主觀上ノ念トナシ、吾人ノ悟性ノ理法ニシテ、外物來ル時ハ、此理法ニ依テ、悟性ニ印象スル者タレハ、我カ意思ノ情狀ニ過キスト、且謂ヘラク吾人、外界ノ諸現象ヲ視察シテ、此我ニ具スル靈智上ノ理法ニ依テ、之ヲ因緣トナシ、應效トナシテ、位置スルハ、性ノ必須タリ、然レ、是我カ理會タル耳ニシテ、此理會ノ存否ニ關セス、此觀念ト相通スル者、實在トシテ存セリヤ否ヤハ吾人ノ知ラサル所ナリト、此考定并ニ虎護、不羅昂ノ考定共ニ終始一貫セル疑感學ニ、偏セルコト一目瞭然タリト、謂フヘク、カノ質内、德比蘭ノ考定モ之ニ源セルコト、前ニ表章シタルカ如シ

第五 美妙并ニ正直ノ觀念

此二觀心  
ノ直覺ニ  
屬スルヲ  
論ス

固有直覺ノ理會ノ能力ニ因テ、斯心ニ提起シタル本元ノ觀念中ニ、美妙ノ念并ニ又、正直ノ念ヲ加フヘシトス、此本元ノ觀念ハ、或著作家ニ從ヘハ、之ヲ名ケテ、道理ノ觀念トスルヲ善シトセリ、而テ中ニモ、美妙并ニ正直ノ二觀念ハ、各自立シテ、一層切要ナル觀念ニシテ、人間ノ福祉ニ關スルコト、殆ト他ノ心裏ノ觀念ニ勝レリ、而テ此二觀念ハ、到底根究スレハ



固有直覺ノ能力タルコト、亦疑ヒテ容レザル所ナリ、兩ノ者皆單純本元ノ觀念ニシテ、又普通必須ノ品性ヲ具ス、而テ、又覺性ニ因テ、合當ノ時機ニ觸ル、時ハ、直チニ其瞬間ニ、心裏ニ提起セラル、今一定ノ物體アリ、或ハ、天工ニ屬スルモ、或ハ、人作ニ屬スルモ、一タヒ之ヲ知覺スル時ハ、吾人直チニ其美妙タルニ感シ、又一定ノ品性履行アリ、一タヒ之ヲ觀察スル時ハ、吾人直チニ其德義上ニ於テ、正タリ邪タルヲ覺ユ、此ノ如クニシテ美妙ト正直トノ兩觀念ハ、外界ノ相通スル物ヲ知覺スル時ニ、斯心ニ提起セラル、ナリ

此二體念ニ就テ論スヘキ事

今之ヲ以テ、直覺能力ノ生スル念トシ、即チ固有觀念トシテ、觀ル時ハ、首トシテ、此兩觀念、各發生スル所ノ境遇ト、其各自ノ品性ト、并ニ兩者ノ事例ニ當リ、何物カ之カ目的タル、ハ、タ美妙ト、正直トハ何物タリヤ、一層特別ニ、論スヘキ所タリトス  
然ルニ、此事ハ、爰ニ表章スルヨリモ、一層廣ク、一層充分ナル購究ヲ要シ、論題ナル二觀念ハ、唯理性ノ理會、即チ直覺ノ能力トシテ、觀ルヘキ耳ニ非ス、心意ノ發作ニ於テ、二ツノ個別ニシテ、且、切要ナル局部ノ、材料ヲ爲

此題目ハ個別ナル購究トシテ後篇ニ

讓ルヘキヲ論ス

ス者ニシテ、其辨決ノ種類、各、別ニシテ、一チ美妙論、一チ道德學ト名ク、蓋シ、斯心ノ固有直覺ノ勢力ニ因テ、供スル所ノ美妙ト、正直トノ理會ハ、一ノ材料基礎ノ如ク、此上ニ、カノ省察力ヲ用ヒテ、一個ノ建築ヲナスナリ、此ノ如クシテ、心意ノ發動、各個別ノ成形ヲ占ムルハ、尋常雅趣ト獨知トノ名目ニテ、世ノ知ル所タリ、今之ヲ名ケテ、美妙、并ニ道德ノ能力ト、稱スルヲ得ヘシ、此ノ如キ者ナルヲ以テ、今此次篇ニ於テ、之ヲ個別ノ論ニ讓ルヘシ、然ルニ之ヲ別論ニ付ストハ、雖、其繼續ノ際、此所謂二能力、本來斯心ノ新勢力ニハ、非スシテ、唯此別種ナル二觀念ノ上ニ、省察力、即チ論辯ヲ施シタル一成形タルコトヲ、心ニ忘ル可ラサルナリ

第三篇 美妙ノ理會、并ニ其認識ヲ論ス

第一章 美妙ノ理會

此事ヲ論スル科學ヲ論ス

此題目ノ講明ハ、吾輩チ、一ノ新科學ノ區域内ニ導ケリ、然ルニ、此科學ハ、頗ル近日ノ發明ニシテ、僅カニ能ク、哲學上諸學ノ間ニ、其位ヲ占ムルニ至レリ、是即チ、エスセチックス、譯シテ、美妙ノ學ト云フ

字義ヲ定

然ラハ、何ヲカ美妙ト云フト、此ハ、是門闕ヲ越ユレハ、即チ發スル疑問ナ



ムルノ難  
キヲ論ス

レ此問ヲ受ル源由ハ亦一ニシテ足ラサルナリ故ニ其答辭モ亦多方  
 異岐ニシテ殆ト此講究ヲ擔承セル諸家ノ數ノ如シ今美妙ノ一例ヲ特  
 ニ掲出シテ其數ヲ論スルナク其變化ノ不測ナルヲ語ルコトナキハ容  
 易ノ事ニ屬スルモ是其義ヲ限定スルノ事ニ非ス是ト相表裏シテ其義  
 ナ限定スレハ殊ニ其難事ヲ増スナリ何トナレハ今美妙タル者許多ア  
 リトシ而テ其中諸種交互ニ相異ナル時中ニ就テ其共ニ相通シテ有ス  
 ル所ノ一性質即チ美且妙ナル者ハ何ナリヤ之ヲ決スルハ吾人果シテ  
 如何ノ方法ニ從フヘキ譬ヘハ談論ノ章アル彫像ノ味ヒアル星宿ノ察  
 爛タル戯曲ノ風趣アルカ如シ是皆吾人チシテ其美妙タルニ驚カシメ  
 亦皆吾人チシテ情緒ヲ醒起セシムル者ナリ然ルニ其中唯一美妙ノ能  
 ク我ヲ興起セシムルアル耳然ルニ此四者相通シテ何物ヲ有スル今其  
 彫像ト星宿トノ事例ニ當リテハ此二物ノ我ニ供スル快樂ヲ取リダラ  
 ハ恐ラクハ中ニ就テ一事ノ上ニ限定スルコト難キニ非ルヘシ然レ是  
 チ談論ノ文章ト音樂ノ曲調トニ比セハ既ニ同一事ノ當ラサルヲ知ル  
 ヘシ此ノ如クナレハ此ノ方法ニテカノ疑問ヲ解カムト欲スルモ殆ト

望チ失スル如ク見ユルナリ然リ而テ爰ニ猶一ノ本則即チ一定ノ歸着  
 スヘキ性質アリテ吾人ノ美妙ト呼フ所ノ此諸物共ニ一致スル者ハ莫  
 キヲ得サルコト見ユヘシ此一致スル性質ハ即チ此諸物ノ美妙ノ秘  
 密ナル實ニシテ此諸物皆吾人チ興起スルニ一致ノ効ヲ奏スルノ源由  
 マリ之ヲ以テ諸哲家此問題ニ就テ種々ノ解釋ヲ下シ或ハ一事ノ上ニ  
 限リ或ハ他ノ一事ヲ定メタリ是此諸定義ノ中其一ニチ聯過スルハ入  
 門ノ便法タルヘシ

或人ハ、  
 之ヲ感覺  
 トナスヲ  
 論ス

美妙ノ何タルカヲ定メムト擔承シタル者ノ中ニテ或人ハ之ヲ唯斯心  
 ノ感動即チ感覺トナシ外部ニ客觀ノ實在ハ何種ニ限ラス是アル莫ク  
 外界ノ物體ノ此形質若クハ其形質他ノ形質ト云フ差別ニ非ス唯主觀  
 ノ情ナルノミ故ニ是我カ内部ニ在リテ外部ニ在ラスト故ニ雅治馬京  
 雖氏ハ之ヲ叙シテ曰ク是斯心ニ印象シタル愉快ナル効驗ニテ其一定  
 ノ種類ノ一定ノ度ナリト又早堡ノ哲學博士給樓曼モ其美妙學論中ニ  
 亦此ノ如ク美妙ノ定義ヲ立テ曰ク感觸ヨリ發スル理性其意識ニ供  
 シテ驅リナキ者ナリ蓋シ靈智若クハ智識ノ用理性ノ發動ニ供スルハ



眞理タリ、意ノ用トナリテ現ハル、時ハ、理性ノ疆域内ニ、善トナルカ如ク、感性ノ界區内ニ於テモ、理性ノ發動ハ、美妙タルナリト、英吉利亞黑利加ノ諸家ノ中ニテハ、不羅昂、阿巴感等諸人、皆屢、美妙ノ情ト謂ヘリ、是恰モ美妙ヲ以テ、情ノ一ツトナセルカ如シ

他家ハ又之ヲ伴生トナスヲ論ス

美妙ハ氣力中ニ存スト云フ考定ヲ論ス

此一種ノ著述家ト、密ニ一致シテ、殆ト分別シ難キハ、美妙ヲ以テ、觀察シタル物體ニ就テ、觀念ト感發ト一定ノ伴生ヲナス中ニ、生スル者ト、スル諸説ニシテ、即チ蘇格蘭ノ無形理學諸家ノ、最モ好メル説ナリ、故ニ、カノ伯爵熱佛來氏ノ如キ、此題目ニ就テ、極メテ明亮、且有力ノ書ヲ著ハセルニ、美妙ハ、全ク伴生ノ上ニ、係ハレリト視テ、吾人、自己内部ノ感覺ノ、反射スル者ナリト云ヘリ、此見解ニテハ、是、外部ノ物體ノ形質ニハ、非スシテ、唯吾人、心裏ノ情タリ、故ニ、其坐ヲ占ムル、内ニ在リテ外ニ在ラズト又上ト、同シシ概スヘキ一種ノ中ニ、一類ノ諸家アリ、是、亞理孫、來德、項參諸人ノ、主唱スル所ニテ、美妙ハ、一ノ形質上ノ表象、即チ氣力ニ在リト視、是我カ愉快ナル情ヲ、醒喚スルニ、足ル者ナリト、故ニ、此諸家ハ、物苟モ、心意上、即チ、道理上ノ形質屬性ニ於テ、氣力アルニ非レハ、絶テ美妙ノ云フ

凡テ此考定ハ之ヲ主觀トナスヲ論ス客觀上ノ考定ニ諸種ノ狀アルヲ論ス

ヘキ莫シト云ヘリ、亞理孫曰ク、美妙ハ、一定ノ形狀色彩ノ、固有獨立形ノ質ニ非ス、何トナレハ、吾人、物ヲ製シテ、美妙ヲ取ラシメムト欲スレハ、之カ爲ニ、一定ノ規矩アルヲ、以テナリ、是、畢竟、心ノ中ニ存シテ、物ノ中ニ存スルニ非ス、物ハ、唯其心ノ形質ヲ、類例ト、伴生トニ因テ、胚胎セシメタルニ從ヒテ、美妙ヲ表スル者ナリト、古昔ノ伯羅多派ノ兒解モ、實ニ此説ニ同シ又韓圖以來、叔拉列兒、並ニ非布逐ノ相繼ケル所モ、大抵主觀ノ見解ヲ取リ、美妙ヲ、唯想像ノ希演トナセリ  
然レハ、今美妙ヲ以テ、唯情トナシ、外界ノ物體ト意思感興ノ、相伴生スル者トシ、或ハ心裏ノ形質ノ表象、即チ、氣力トナセルモ、皆是、到底之ヲ主觀トナシテ、外界客觀ノ實在ヲ、取ラサル者ナリ  
上論ト相反セル見解ヲ、取ル者ノ中、或人ハ、美妙ノ隱微ナル本源ヲ、新奇ノ中ニ求メ、又他人、噶邁馬爾門、珥爾ノ若キハ、之ヲ、利便ノ中ニ求メ、又他ノ沙布逐、斯佛黎、哈車孫、苛加爾多諸人ハ、之ヲ、差異中ノ、合一ニ求メ、又他ノ諸人ハ、之ヲ、次序及ヒ平均ノ中ニ求メ、是、亞立斯度、德澳、加斯丁、加流雪、多ノ輩ナリ



凡テ此諸家ハ、美妙ハ、外部ノ物體ニ存スルコトヲ取リタレ、物ノ形質ト、成形トノ中ニ、直チニ存スル者ナリトセリ

精神美妙ノ考定ヲ論ス

美妙ノ考定ニ、又猶他ノ一説アリ、是外界客觀ノ實在タルヲ許セ、上ニ舉タル諸家ノ表セル如キ、其物質上ノ性質ヲ脱却セムト欲シ、其本體ヲ精氣精神ノ本元ニ求メタリ、此見解ニテハ、美妙ハ、其直チニ感觸スヘキ表象中ニ、生存スル精神ナリト、是即チ、隱微ニシテ、見ル可ラサル本元ニシテ、物質上ノ形體ヲ、生活セシメ、其中ニ表顯シ、其中ニ洞觀スヘクシテ、物質トハ、別ナル精神ナリ、是ヲ以テ、是本、徒ニ物質ニ非ス、又徒ニ精神ニ非ス、何ソ況ヤ、之ヲ徒ニ、心意ノ形質、心意ノ感發ト、ナスヲヤ、是感觸スヘキ物質ノ形體中ニ存シテ、見ル可ラサル精神ノ表象ナリト、此見解ハ、初頭、ズムルリシゲヘイケル酒兒林、アヴグストル俾歌兒ノ二氏、盛ニ之ヲ表彰シ、其大格ハ、ジュウフ、ロウ柔弗條ノ美妙學課本、又北勤斯勞大學校ノ學士、アヴグストル奧烏士多、アヴグストル流列爾的ノ美妙學範ニ、之ヲ取レリ、後書ハ、極メテ好本ナリ、其他、歐羅巴ノ有名ナル哲學諸家、多ク之ヲ取レリ

疑問ノ論 上諸條ノ如ク、其義タル種々ニシテ、且相矛盾スルヲ以テ、左ノ疑問ヲ發

スヘキ者ヲ論ス

シ、先ッ其初頭ニ於テ、眞ニ疑點ノ在ル所ヲ舉ケ、以テ其講究ヲ要スルナリ  
第一 美妙ハ、客觀上ノ者タリヤ、ハタ唯主觀上、即チ、情ニ發スル者タリヤ  
第二 之ヲ客觀上ノ者ナリトセハ、其美妙ヲナス物ハ、何ナリヤ

第一〇問 題ヲ述フ

所謂美妙ハ、唯我カ自己心上ノ情ニシテ、全ク主觀ニ屬スルカ、ハタ物體ノ形質タリヤ、今譬ヘハ、山水ノ美妙若クハ、畫圖ノ美妙ヲ言ヘハ、徒ニ我カ感覺アル性ニ、一定ノ感興スルヲ徵スルカ、其物體ニ因テ提起セル感動ヲ、徵スルカ、ハタ、此物體ニ屬セル形質ト、性質トチ、徵スルカ、果シテ、其形質ヲ徵ストセハ、此ノ如キ形質ヲ、其物體ニ屬スルコト、豈至當ナラスヤ

情タルヲ許スヲ論ス

今美妙ト號スル一定ノ物體アリ、之ヲ觀テ、心裏ニ、一定愉悅ノ情ヲ提起スルハ、疑フ可ラサル所ダリ、然ル、此物體、此ノ如キ情ノ因由機會タルハ、亦疑フ可ラス、其物體、好機會ヲ得ルニ臨ミ、其情ヲ生セシムルノ勢力ヲ有シ、且其物體、其已ニ屬スル形質、若クハ、性質ノ功德ニ因テ、此感動ヲ興スノ勢力ヲ有スルハ、皆疑フ可ラサルニ屬ス、是皆美妙ハ、客觀ノ實在メ



ルヲ否定スル諸家ト雖也、固ヨリ許ス所ナリ、故ニ其疑問ハ其物體中ニ  
我情ノ機會トナリ、原因トナルノ形質アリヤ、否ヤト云フニ、非ラスシテ、  
美妙ト云フ語ハ、本來、此源由ノ名ナリヤ、ハタ此源由ノ生スル情ノ名ナ  
リヤト云フニ在リ

美妙ハ情  
ノ名ナラ  
サルヲ論  
ス

此疑問ハ、通常理會ニ付スレハ、甚ダ明晰ナリト見ユルカ如シ、何人ニモ  
セヨ、美妙ト、高妙トハ、我カ心慮ノ情ニシテ、物體ノ形質ナラスト云フ説  
ヲ、思慮心カチ盡シテ、思索シタル後ニ、執守スルハ、甚ダ訝ルヘキ事ナラ  
スヤ、今人アリテ、此ノ如ク説クヲ聽カハ、我其人ノ言チ曉會シ得サルカ、  
或其人自ラ之ヲ曉會シ得サルカト疑ハサル者ハ、蓋シ鮮ナカルヘシ、今  
ソレ、日將ニ没セムトシテ、紅霞燦爛タルヲ望ミ之ヲ呼ヒテ、美麗ナリト  
ス、此時ニ當リ、其美タリ麗タル者ハ何ソヤ、蒼然タル其霄、淡然タル其雲  
燦爛タル其光彩、悠然トシテ、浮動常ナク、余カ一機スルノ際、既ニ其態度  
ヲ變スル雲影、碧空晴暉ノ裏ニ、銀鑲陽識ノ線ヲナセル返照、恰モ、是煌輝  
アル神使ノ飛揚スル時、其光衣ヲ脱却シテ、夕星ノ金門ニ入ル時、一盼シ  
テ、微笑チ雲烟ニ、印レタルカ如シ、是皆美妙タル者ニシテ、美妙ハ其處ニ

存シテ、其之ヲ望ム者即チ我ニ在ラサルコト明カナリ、故ニ情ハ、我カ心  
裏ニ在レ也、此情ハ、美妙ニハ、非スシテ、唯感興タル耳、即チ分別シテ、之ヲ  
言ハ、驚キト、樂ミタルニ過キス、カノ美妙ノ情ト云ヘル如キ、泛然タル  
首句ト、相通シテ、美妙ト指スヘキ情ハアラス、今情ト指ス者ニハ、恐懼、望  
願、歡喜、憂苦等ノ目アリテ、皆吾人體験スル所ナレハ、此名目ノ意チ、知ル  
ヘシト雖也、美妙ノ情ニ至テハ、會テ之ヲ體驗シタルコトチ、自ラ知ラサ  
ルナリ、唯天工、若クハ、人工ノ美妙タル者チ觀ル毎ニ、屢我レノ胸懷ニ賞嘆  
悅樂ノ心アルチ、覺ユルノミ、余今、恐懼若クハ、望願若クハ、歡喜若クハ、憂  
苦ノ情チ、體驗スル時、其恐懼、望願、歡喜、憂苦チナス者ハ、何ソヤ、即チ是我  
カ心ニシテ、言チ約シテ言ハ、我自己タルニ外ナラス、而テ、其我チシテ、  
此情チ與サシムル物體ハ、何ソ曾テ恐懼セム、何ソ曾テ望願セム、何ソ曾  
テ歡喜愛苦セム、是レ同シク、美妙チシテ、情ナラシメハ、余ノ體驗スル所  
ハ、此情ニシテ、其美妙タル者ハ、我カ心ナルコト、固ナレハ、其觀察シタル  
物體ニハ、非ストスヘシ、然ラハ則チ、カノ美麗巧妙ナリト云フハ、日没ノ  
光景、畫圖、山水、等總テ何ニテモ、此ノ如キ類ニハ、非スシテ、唯我レニ在リ、自



己ニ在リトセムカ、是皆我ヲシテ、唯美妙ノ念ヲ生セシムル者ナリ、今若、  
美妙ノ念ハ、果シテ我ノ情タリトセハ、人體容貌ニ於テ、殊ニ醜陋ヲ知ル  
ノ人ニ在テハ、此說ニ因テ以テ、其心ヲ慰藉スルヒ、足レリトセムカ、豈亦  
妄ノ甚シキナラスヤ

尋常ノ見  
解ノ正シ  
キヲ論ス

余請フ、此論ニ就テ、姑ク、尋常理會ノ見解ヲ、取ラムコトヲ、是此論題ニ於  
テハ、敢テ至正ナリト、謂フヲ得サルモ、余ハ稍理ニ近シト思フナリ、是即  
チ、物體ヲ美妙ト見、又物體ニ就テ、美妙ト指シテ我カ自己ノ心ヲ、取ラサ  
ルニテ、尋常ノ字義ト、此語ノ用法ト實ニ此ノ如ク、且哲學上ノ嚴密ナル  
穿鑿ニテモ、此字義ヲ捨ツヘシト云フ道理ハ、見エサルナリ、故ニ、此美妙  
ト云フ語ヲ、心裏ニ生シタル情ヲ、指スコトニ、用井ルハ、極メテ無益ノコ  
トナリ、何トナレハ、其情ハ別ニ新ダナル名ナキ者タルニハ、非スシテ、唯  
驚愕ト、悅樂ト、混合シテ、驚奇ト名ケ而テ、動モスルハ、有リ得ル如ク、好愛  
ニ變スル者タレハナリ、故ニ、美妙ヲ取テ、情トナスハ、一次ニ、二謬ヲ犯ス  
ニテ、物體ノ形質、此情ヲ提起スレモ、未ダ全ク名ナキ者ナルコト、之ヲ名狀  
スルコトナク、却テ、此緊要ナラサル名ヲ以テ、既ニ本來ノ名アル者ニ、命

美妙ハ縱  
ヒ心ヨリ  
反射スル  
ニ猶客觀  
ナルヲ論  
ス

スルナリ

今上論ニ對シテ、答辨スル者アラム、以謂ヘテク、美妙ハ、吾人ノ驚歎スル  
所ニシテ、外部物體ノ性質タリト見ユレモ、反テ是其本ツク所ハ、内部ニ  
在ル者ニシテ、唯其物體ヘ、我ヨリ轉過シ、其物體ト共ニ、我カ自己ノ心ヨ  
リ、一定ノ意思ト、感興トヲ、伴生シテ、我カ自己ノ意識ノ、我ニ反射シ、我カ  
周圍ノ諸物ニ、金色光華ヲ布クナリ、故ニ、我ヨリ觀テ、其物體、其自色ノ光  
華美妙ヲ有スル如ク見ユルナリト、余猶是ニ答ヘテ、謂ハム、此假設ニ就  
テ、論スルモ、猶此ノ如ク光彩アリトシタル外部ノ物體、我カ内部ニ愉快  
ナル情ヲ、興起セシムルノ勢力ヲ有ス、而テ、其土力、即チ、其美妙タレハ、元  
來ハ、此心ヨリ、假テレタリモ、猶物體ノ性質形質タリト、謂フヘシ、之ヲ譬  
ヘハ、猶カノ月ノ如シ、本暗體ナレハ、其照光ハ、反射ナリト雖モ、是猶其月  
ノ照スニテ、其自己ノ美妙タルカ如シ、故ニ、其新思、其感興、心裏ニ隱伏シ  
テ、轉過スルコトナク、外部ノ物體ト、相伴フコトナキ以前ハ、是美妙ニハ  
非ルナリ、其物體ニ、裝テシムルニ、情ヲ以テシテ、其情、此物體ノ性質トナ  
リタルニ至ラサレハ、心裏ノ眼中ニ、美妙ノ形質ヲ現スルコトナシ、然ラ



ハ、則チ、美妙ハ此辨解ニ於テモ、猶客觀ノ實在ニシテ、我ノ外部ニ在テ、内  
部ニ在ラサル者タリ

并ニ客觀  
ノ形質ヲ  
表言スル  
ノ勢力ヲ  
論ス

上論ト同シク、美妙ト云フハ、唯心ノ形質ノ標徴表言ナリト爭フ者アラ  
ハ、余ハ將ニ謂ハムトス、之ヲ標徴セシメ、之ヲ表言セシムルノ勢力ハ、物  
體ノ性質タルコト、明確ニシテ、其性質ハ、即チ所謂美妙ニシテ、客觀ノ物  
ニ屬シ、單素ナル情ニ非ルコト、亦明確ナリト

凡テ美妙  
ハ、反射ニ  
モ非ヌ又  
表言ニモ  
非ルヲ論  
ス

余ハ却テ、美妙ヲ以テ、凡テ心裏ニ生シタルコトノ反射トシ、又之ヲ表言  
セル者トナスノ説ヲ、容レ難シトス、今物體ノ中、如何ニ、之ヲ想像シ、如何  
ニ、心ノ情狀、其物ニ轉過伴進スルモ、曾テ之ヲ、美妙トナサ、ル者アリ、又  
是ト相反シテ、此ノ如キ轉過伴進ヲ、要セスシテ、自カラ其固有ノ明亮光  
輝アル美妙ヲ以テ、我ヲ照動スル者アリ、假設ヘハ、資性穎敏ニシテ、眞ニ  
美妙ヲ好ム小兒ノ如シ、蓋シ風景ヲ愛スルハ、何レ處ニ、眺過スルモ、小兒  
ノ性質ニ、好處アル最織路ナリ、然ルニ、此ノ如キ兒ヲシテ、初メテ、カノ望  
洋タル大海ヲ眺マシメムニ、其海面ハ、兒ノ眼前ニ開張シ、不意ニ新奇ナ  
ル美景ヲ呈シ、四面眼界ノ盡ル處、水天唯一抹ノ界線アリ、又水陸ヲ分畫

シテ、土地ヲ著ハス處モ、亦界限アリ、而テ、其色ハ、則チ深綠濃蒼、是今日マ  
テ、唯仰キテ、上天ニノミ、見シ色ナリ、此深翠裏ニ、白帆ヲ印シテ、其凸刻タ  
ルヲ疑ハシメ、又雪白ナル水鳥ハ、其淵々タル中心ニ、翱翔シ、又曙光ニ際  
シ、靜寂活潑ノ裏ニ、止棲シテ、動シコトナキカ如ク、其表面ノ圓凸形ハ、殊  
ニ奇ニシテ、直チニ水平天際ニ達シ、而テ、水天相接スル處、紅靄一抹、漸ニ  
空中ニ消滅ス、凡テ此等ノ物ハ、此兒ノ初度ニ、觀ル所ナレハ、其往時ノ經  
驗ト、一觀念ヲ伴生スヘキナシ、是未ダ曾テ見サル所、此ノ如キ景色ハ、曾  
テ夢ニタモ、看サリシ所ナレハ、其意思、若クハ想像ノ反射セル者ニ非ス  
然ルニ、此等ノ物、此兒ノ爲ニハ、新奇ナル奇觀タルヲ、免カレスシテ、此初  
度ノ印象ヲ、後來尋思スル毎ニ、終生、其胸懷ニ、往來スヘシ、然リ、而テ此兒  
ヲシテ、後來此事ヲ取テ、哲理ヲ講セシムルニ當リ、當時此ノ如ク、驚歎セ  
シ所ノ者、其自己ノ想像ニ出テ、其自己ノ心情ノ轉過シタルコト、其前ナ  
ル物體ト、自己ノ意思感興ノ、伴生シタル者ナリト、證知セシムルハ、亦難  
カラヌヤ、然ルチ、猶此ノ如ク、此兒ヲ愉悅セシメシ美妙ハ、凡テ觀察セル  
物體ニ、在ラスシテ、唯其自己ノ心ニ、在リト謂ハムヤ



其他ノ疑問ヲ論ス

吾人ノ知覺スル美妙ハ、物體ノ形質ニテ、徒ニ主觀ノ情ニハ非スト、又其物體ノ中ニ、一物アリ、其名目ハ、何ト呼ヒナス也、此物、即チ我カ心ニ、情ヲ生スルノ原由タリト、又此客觀源由タル者、其如何ナル者タルニ拘ハラズ、此語本來ノ用法ニテ、之ヲ美妙トナシテ、認識スヘキ者タリト、是上論ニテ、講究ヲ盡シタル所ナリ、然ルニ、姑ラク、此地歩ヲ占ムルヲ許シテモ、猶疑問ヲ生スルナリ、是吾人物體ノ中ニ就テ、美妙ト呼フ者ハ、畢竟此美妙ノ印象シタル心ニハ、關スルコトナク、純然タル獨立ノ存在ヲ、有スルカト云フニ在リ、今余、彼ノ山水ニ逢ヒテ、若クハ、此余カ脚下ニ、花サク野草ノ花ヲ見テ、驚歎シテ、美妙トナスハ、實ニ唯山水ト、草花トノ美妙ニシテ、我カ心ニハ關スルナク、專ラ其物體ニ屬シ、其物體中ニ、棲在シテ、我ニハ在ラストシ、而テ、其美妙ハ、全ク視察者タル我ニ關スルナク、我ハ之ヲ看ルナキモ、獨立シテ存スルカ、今若、其美妙ヲ看テ、之ヲ感スル靈知上ノ視察スル心、莫ラシムルモ、其物體ハ、猶今ノ如ク、依然トシテ、美妙タルヤト、是此疑問ニ供スル所ニシテ、所謂美妙ナル者ハ、其物體中ニ、全然タル固有ニシテ、純然タル恒常不易ノ形質獨立存在スル者ナリヤ、或ハ、視察

者ノ心ト、視察シタル物體トノ中間ニ、在ル關係ヨリ、生シタル者ナリヤト、云フニ在リ

其存在、其効驗ヲ外ニシテハ、一モ明證ナキヲ論ス

此美妙ト云フ者ハ、關係ヨリ生シテ、純全ナル者ニ非ルハ、一ノ事實ヨリ、論證スルヲ得ヘシ、吾人、心ノ發用、即チ、我カ心ニ生スル効驗ニ據ラズシテハ、一モ此ノ如キ形質、若クハ、源由ノ明證ヲ、得ルナシ、而テ其美妙タル者、既ニ生シタル効驗ニ、據ラサレハ、一モ其源由ノ存在ヲ、引證スルコト能ハサル故ニ、其美妙、自ラ發用ノ際ニ表現セサルニ當リ、即チ之ヲ視サル時ト、之ヲ視サル處ニテハ、吾人、假リニモ、其存在アリト、定ムル道理ナキナリ、是猶燧錮ヨリ發スル火華ハ、直チニ、之ヲ鋼鐵ノ性質トシテ、視ル可ラス、又嚴ニ取テ、火石ノ性質トシテ、視ル可ラス、唯此二個ノ撞着ヨリ發シテ、相關係シタル現象トナシテ、視ルヘキカ如ク、所謂美妙ナル者モ、其物體ノ中ハ、純然獨立シテ、撻在スルニモ非ス、又靈智アル主者ノ中ニ、存在スルニモ非スシテ、二個ノ關係ヨリ、發生スル現象タリト、謂フヲ得ヘシ

其他効驗

上論ト同一ナル旨趣ハ、其生スル効驗ノ異ニシテ、一ナラサルヨリモ、論



ノ一ナラ  
サルニ就  
テノ論證  
ヲ論ス

證スルコトヲ得ヘシ、若美妙ヲ以テ、物体ノ純全固定ノ形質ヲシメハ、其效驗モ、一致シテ、同一タラサルヲ得スト、謂フチ得ヘシ、然ルニ、反テ其實ハ、絶テ此ノ如キ一致ナク、美妙ニ、一定ノ本規ナク、雅趣ニ確定ノ常則ナシ、而テ、一人ニ、甚タ精巧ナリト、見ユル者モ、他人ニ在テハ、厭棄嫌惡ヲ生シ、加旃、同一ノ人ニテ、同一物ニ於ケルスラ、時異ナレハ、感動モ異ナルコトアリ、故ニ、美妙ハ、唯心ト、觀察シタル物体トノ關係ニテ、其心ノ變スルニ從ヒ、物モ亦轉スル者ナリト云フチ、引證スヘシトス

第一ノ論  
證ニ答フ

余、上ノ第一ノ論證ニ答ヘテ、以謂ヘラク、初頭、其源由ハ、獨立シテ、恒常ノ存在ヲ有スル者ナリト、斷定スル爲ニハ、其源由、吾人ノ眼前ニ於テ直チニ現實ノ發用ニ、顯ハルヘシト、云フチ要セサルナリ、若其機會ヲシテ、來ラシメテ、效驗ヲ觀察シ得レハ、其源由ハ、獨立シテ存在シ、唯我トノ關係ニハ、非ルコトヲ、斷スヘシ、若此ノ如クナラサシメハ、吾人、一物ト雖、バクレーヒユム曾テ其純全ノ存在ヲ、信スルコト能ハスシテ、バクレーヒユム如ク、物質ノ存在ヲモ、疑惑シテ、唯我カ五官ニ關係シテ、生スル現象トナスニ、至ルヘシ、今、蓄薇アリテ、其美艶ヲ取テ、唯視ル者ニ關係レテ、此色アリト爲セハ、

第二ノ論  
證ニ答フ

是ト同一ノ論證ニ據リ、其蓄薇樹ヲモ、唯我カ五官ニ、關係シタル存在トスヘシ、此時、何チ以テ蓄薇ノ存在ヲ、知レリヤト言ハ、答ヘテ、余之ヲ視之ニ觸レ、之ヲ嗅キ、是此卓子上ニ在テ、我カ五官ヲ、攪動スル故ナリト、云フヘシ、然ルニ、今其處ヲ去リ、其室ヲ出タル時、方<sup>○</sup>何チ以テ、其蓄薇存在セリヤト云ハ、答ヘテ、是既ニ、我カ五官ヲ、攪動スルコトナク、其源由タル者、既ニ發用ニ供セステ、其效驗モ、既ニ生セサレハ、之ヲ存在ナシト謂フヘシト、ソレ其蓄薇ヲ見サルカ故ニ、取テ以テ、存在ナシトセハ、何チ以テ、之ヲ觀サルカ故ニ、取テ以テ、既ニ美妙ナシト云フニ、異ナラムヤ  
余、效驗ノ、一ナラサルニ本ツク論證ニ、答ヘテ、以謂ヘラク、其事實ハ、上ニ説ク所メ如ク、同一ノ物体モ、心ノ異ナルニ從ヒ、其視ル所モ、亦異ナリト云フチ許ス、其差異ハ、二ツノ源因ヨリ、生スル者ニシテ、其一致ナラサル所以ハ、其源由ノ中ニモ在リ、又源由ヨリ、攪動スル心ノ中ニモ、在リ得ルナリ、故ニ之ヲ感動スル源由、諸種ノ異アレハ、之ニ依テ生スル效驗モ、亦諸種ノ異アリトシ、又其源由ノ發用ヲ受ル心ニ、諸種ノ異アレハ、此時モ亦、其效驗ハ、異ナルヘシ、然ラハ、則チ、其效驗ニ、諸種ノ異アルチ以テ、其



源由一致ナラストハ、断定ス可ラサルナリ故ニ、其真ヲ語レハ、美妙ナル  
物體ハ一ツナレトモ、其視察者ノ異ナルニ由テ、其攪動ニ、諸種ノ異ヲ生ス  
ルナリ、故ニ、其異ニ出ルノ道理ハ、視察者ニ在テ、物體ニ在ラサルナリ  
然ラハ則チ、其事實ハ、何如凡テ視察者ノ心ハ、美妙ヨリノ印象ヲ、孰レモ、  
均シク受ルヤト言ハ、否、然ラサルナリ、其之ヲ視察スル者ハ、教育ニ於  
テモ、思慮ノ慣習ニ於テモ、藝術ノ練磨ニ於テモ、風趣ニ於テモ、生來ノ感  
性ニ於テモ、其他百般ノ事ニ於テ、異ナル者ナリ、故ニ、苟モ二人アレハ、此  
妙テニ就異ナラサル者ハ、非ス、然ラハ、吾人其純全ナル一致ヲ、何處ニ於  
テ望マムヤ

一致ナシ  
ト言フ説  
ノ容ス可  
ラサルヲ

然ルニ、美妙若クハ、雅趣ニ就テハ、其本規タルヘキ者ハナク、美妙タル者  
ト、美妙タラサル者トニ於テ、人々ノ中ニテ、一モ相通セル一致ナシ、又依  
テ以テ、生スル所ノ情モ、絶テ一般揆一ノコト、ナシト云フハ、斷シテ容ス  
可ラサル言ニテ、其一致アルハ、兩ツノ目的ニ就テ、疑フ可ラス、是一定ノ  
界限ニ至ルマテハ、必ス揆一ノ所アリテ、備ハレルコト、明カナリ、故ニ、天  
然ノ風景ヨテモ、又藝術ノ諸作ニテモ、一定ノ物アリテ、古今ヲ通シ、衆目

チ概シ、美妙ナリトシテ、視ラル、ナリ、是ヲ以テ、羅馬ノ消夏園裏ノ亞波  
魯ノ像ノ如キ、又其軍神廟内ノ威那斯ノ像ノ如キ、吾カ徒、今人ニ於ケル  
モ、猶古人ニ於ケルカ如ク、美妙ノ極ニ非ルナシ、羅畢埃拉ノ巨作ノ如キ、  
其死前ニ至リ、僅カニ能ク、稿ヲ脱シタルモ、今人之ヲ讀ミ、猶新クニ其手  
ヨリ受ルカ如シ、此書ヤ、其輓車ノ上ニ懸リシ時、大衆ノ目ヨリ泣キ涙カ  
シメ、大衆ノ胸ニ歎息ヲ滿タシ、メタル者ナリシニ、今人ニ至テモ、猶驚歎  
玩賞ノ物タルヲ失ハスシテ、將來數百年間ト雖ト、亦然ルヘキナリ、然ル  
チ、美妙ノ觀察ニ於テ、生スル所ノ情ニ於テ、差異アリト、謂フ可ムヤ、今カ  
ノ觀念ノ伴生ニ、習慣アリ、心上ノ教育ニモ、生質ノ敏鈍ニモ、差異アリト  
許スモ、吾人ノ見得ル所ニテハ、天然ノ物ニテモ、巧藝ノ物ニテモ、人其美  
妙ニ因テ、攪動セラル、ハ、多ク同一ニ出ツ、蓋シ此事ニ就テ、其種類ト、境  
界ノ同シキ者ニ在テハ、同一ノ物體ニ於テ、同一ノ感覺ヲ體驗スルハ、尤  
モ居多ニシテ、一世一國ノ農夫ハ、他ノ一世一國ノ農夫ト、其感チ同ウシ  
一代ノ哲人ハ、他代ノ哲人ト、其感チ同ウシ、一時一地方ノ富豪、俗流、時輩  
ハ、亦他時他地方ノ此ノ如キ者ト、之ヲ同ウスルカ如シ、是ニ由テ、之ヲ觀



レハ、此世界ニ在テ、美妙ニ係ハレル巧藝ニ至テハ、其種多シト雖也、古今ニ亘リ、唯同一遍通ノ理法アリテ、之カ本源トナリ、之カ規制ヲ立ルヤ、亦明カナリ

美妙ヲ以テ徒ニ關係ヨリ生スルト云フ考定ノ結果ヲ論ス

今、美妙ハ、純全ナル者ニ非ス、唯關係タルノミト云ハ、**第一ニ**天工、若クハ、巧藝ノ物アルモ、觀者微リセハ、一モ、美妙ヲサレハシ**第二ニ**直下ニ、其物ヲ見サルカ爲ナリト言ハ、海中ノ蜃珠ノ如キ、坑底ノ寶石ノ如キ、匣裏ノ珠玉珍玩ノ如キ、是其中ニ伏藏スル時ニ當テハ、一モ、妙美ヲ有セサルナリ、**第三ニ**人心其印象ノ感受ニ差アリ、故ニ同一物タルモ一人ニ美妙ニシテ、他人ニ美妙タラス、一時ニ美妙タルモ、他時ニ美妙タラス、加旃、同一瞬間ナリト雖也、視察者ノ心、差異アルニ從ヒ、一ハ、美妙ト見ユ、一ハ、美妙ナラズト見ユト言ハムカ、乃チ今、此瞬間ニ聖彼得廟ノ鑲工、東帝ノ大、金剛石ヲ稱シテ、實ニ美妙ナル尤物ナリトスルハ、眞ニ得可ヲサル所ナルヘシ、何トナレハ、今、此瞬間ニ於テ、誰カ之ヲ觀ル者アリヤ、之ヲ知ル由ナケレハナリ、故ニ、上ノ考定ニ據レハ、論シテ、此ニ至ラサルヲ得サルナリ

心ト物體トノ親密ナル關係ヲ論ス

然ルニ、余、美妙ノ存在ハ、物體ノ純全獨立ナル形質タルヲ、固執シテ、特ニ之ヲ知覺シテ、其樂ヲ享ル心ニ、關スル者ニ非スト、曰フト雖也、然也、此處ニ至リ、之ヲ知覺スル心ト、知覺ニ供シタル物體トノ中間ニ、甚ダ親密ナル關係ノ存スルヲ、敢テ、忽略看過ス可ラサルナリ、蓋シ、美妙ハ、先ッ、第一ニ五官ニ感覺シテ、依テ以テ、我ヲ悦ハシメ、我ヲ誘フ者ナリ、然ルニ、此ノ如ク、我ヲ動かス者ハ、是吾人、此ノ如キ、物體ニ因テ、我カ娛樂ヲ取ルニ、供スルノ、五官ト、性質トヲ以テ、賦セラレタルニ、非スシテ、何ソヤ、而テ、吾人、形體ノ質ト、心性ノ質トヲ以テ、カノ、外界ニ存スル物質上諸物ノ、次序體勢ト相合和スルノ中ニ、其美妙人類ヲ感動スル、隱微ナル、勢力ハ、存スルナリ

人ノ資質ヲ賦スル他道ナシト謂フ可ラサルヲ論ス

吾人、性ヲ受ケ、形體ノ質ヲ稟クルニ當リ、今ノ所謂至美絕妙ナル物モ、之ヲ視テ、愉快トナスヨリ、寧ロ取テ以テ、厭惡ス可シトナシ、紫色ヲ視テ、醜豎厭フヘキノ物トシ、音樂ノ好調ヲ聽テ、喧擾粗鄙トナス如キモ、初メヨリ賦與ス可ラサルノ事ニ非ルハ、疑ヒナシ、蓋シ、五官ノ紛亂ナル、心意ノ猖獗ナル、世固ヨリ其人乏シキニ非スシテ、吾人美妙ト呼フ者、此輩ノ人



ニ在テハ、乃チ視ルコト、此ノ如ク顛倒ス、然ルニ、今吾人ニ在テハ、此感觸ノ性、外界ノ物體ト和合シ、而テ外界ノ物體ハ、我カ感觸ノ性ト適合シ、是ニ依テ以テ、知覺アル心ハ、知覺ニ供スル物體ノ美妙ヲ、認識感覺シテ、其樂ヲ取ルヲ得、是全ク大造物主ノ仁聖ニ依頼シ、其恩恵ヲ蒙ル所ナリ

前説ノ固  
今吾人ノ稟賦、固ヨリ現今ノ如シトナシ。又此心ト、物ト相和合スルコト  
守スヘキ  
モ、亦現今ニ異ナラストナシ。テモ、猶美妙タル者ハ、其物自ラ獨立ノ存在  
ヲ論ス  
ヲ有スル者タルヲ、肯定シテ、此知覺スル心ノ攪動ヲ、ナスノミニ非ルヲ  
證スルナリ、唯其美妙ヲ知覺シテ、之ヲ享用スルハ、主觀ニ屬シ、此心ト物  
ト、相關シテ生スル所ナリト雖、其美妙ト稱スル者ニ至テハ、然ルニ非  
ルナリ

第二ノ疑問ヲ論ス

然ラハ則チ、所謂美妙ナル者、果シテ、吾カ信スル所ノ如ク、全ク主觀ノ事  
ナラスシテ、外物ノ形質性分ナリトセムカ、次ノ疑問ヲ生スヘシ、曰ク、其  
美妙ヲ混成スル者ハ、其物體中ノ、何物ナリヤ

第二〇新  
然リ而テ、其一説ヲ舉クレハ、先、新奇トス、然ラハ、物ノ新奇ナル者、果シテ  
奇妙タリヤ、新奇ハ以テ美妙トスヘシヤ、曰ク、新奇ナル者ノ吾人ヲ樂シ

スル考定  
ヲ論ス

マシムルヤ、疑ヒナシ、蓋シ、其人ヲ樂シマシムルハ、新奇ト、美妙ト、通シテ  
共ニ、之ヲ有スト雖、物ノ新奇ナルハ、必ス美妙ナリト謂フ可ラス、穀物  
ヲ碾末スル風車ノ如キ、未タ曾テ、此ノ如キ機關ヲ、見サリシ所ノ人ヲシ  
テ、之ヲ見セシメハ、極メテ新奇ナリト思フヘシ、然、是人ヲシテ、一見、其  
特ニ美妙タルニ、愕カシムル者ニ非ルナリ

凡テ物ハ、最初一見スル時ニ方テハ、新奇ナレ、是即チ、美妙ニハ非ス、今  
所謂新奇ト云フ者ニ就テ、一層密ニ、其本原ヲ求ムレハ、吾人ハ唯新マナ  
ル者、即チ、吾人初度ニ於テ、之ヲ見ル物ハ、新奇ナリトス、故ニ、我カ靈智ニ  
於テハ、新ラシキ觀念ハ、新奇ナルヘク、感性ニ於テハ、新ラシキ感動ハ、新  
奇ナルヘク、意ニ於テハ、新ラシキ作爲ハ、新奇ナルヘシ、是ヲ以テ、新ラシ  
キ觀念ハ、能ク吾人新奇ヲ好ム情ヲ發足シ、新ラシキ感動ハ、能ク吾人ノ性情  
ヲ開發シ、新ラシキ意思ハ、能ク吾人發作ノ園區ヲ擴張ス、然レハ、此理ヲ目  
的トシテハ、新奇ナル者、我ヲ樂マシムト雖、然、凡テ此中ニ就テ、一モ  
美妙ニ似タル者ヲ、發見セサルナリ

新奇ハ美  
然ルニ、多クノ事例ニ於テ、新奇ナル者ハ、能ク物體美妙ノ度ヲ、増加スルハ、



妙ノ度ヲ 否定ス可ラサル者ニテ、之ト尋常慣熟スルニ及ヒテハ、吾人常ニ稍其物  
増スヲ論 ノ我ヲ挑發スルヲ覺エサルニ至リ、初度之ヲ見タル時ノ快樂ニハ、若カ  
ス

サルナリ、蓋シ吾人尋常慣熟シタル物ヨリハ、我ノ感性絶テ一層ノ興起  
チナサ、ルナリ、故ニ、山嶽ノ巍峨、雀鬼タルヲ樂マシムト欲スルニハ、其  
人恒ニ其山間ニ住ス可ラス、那伊亞加羅ノ瀑布ヲ樂シマムト欲スルニ  
ハ、其人終日其前ニ立ツ可ラス、故ニ、所謂美妙ナル者ト、其美妙ヲ享樂ス  
ルトハ、二事ニシテ、一物ニ非サルコト、知ルヘク、而テ、新奇ナル者ハ、我カ  
心ニ、美妙ノ力ヲ、十全ニ起サシムルニ、是カ相佐タル者ニシテ、且少ク可  
ラサルノ加味ナリ、然レ、新奇自ラ、美妙ノ原行タルニ非ス、又其基本實體  
タルニハ、非ルナリ

新奇ハ、必  
ス樂ムヘ  
キニ非ル  
ヲ論ス

猶佛魯哇ハ、然カモ新奇ハ、恒ニ樂ムヘシト云フヲモ否定セリ、因テ之ヲ爭  
ヒテ、以謂ヘラク、物、或ハ其新シキカ爲ニ、却テ因テ以テ、吾人之ヲ厭フ者  
アリ、而テ、絶エス是ニ慣熟シテ已マサレハ、之ヲ厭フノ心止ム、是概言ス  
レハ、カノ人種色澤ノ差異ノ如キ、其一例ナリ  
利用ノ考 然ラハ、則チ、利川タル者ハ、美妙タリヤト、此考定ハ、吾人ノ注意スヘキ第

定ヲ論ス

ニノ口實タリ、自然若シハ、巧藝ノ物ノ、美妙ヲ以テ、吾人ノ心裏ニ、挑發シ  
タル情ノ根本ハ、利用ノ知覺ニ在リ、吾人見ル所ノ物體ニ於テ、或ハ其吾  
人ノ康寧ニ、歸スヘキ性質アルヲ覺エ、或ハ其吾人ノ目的ニ供用スヘキ  
ヲ知ル、故ニ此道理ニ本ツキテ、吾人之ヲ樂ムナリ、故ニ、利用ハ、則チ美妙  
ナリト

最モ利用  
タル者、最  
モ美妙タ  
ラサルヲ  
論ス

一物ノ美妙ナル、吾人、之ヲ知覺スル時ニ、此物一ノ好ムヘキ目的ヲ、達ス  
ルニ足ルコトヲ、發見スル時ハ、其美妙ノ度ヲ長スト云フハ、固ヨリ可ニ  
シテ、其利用ハ、物體ヲ觀ルニ當リ、我カ感スル所ノ快樂ニ幾分カ加ヘ得  
ル者ナリト云フハ、全然有ル可キコトニ屬ス、然レ、其利用タル者、一ハ我  
カ方ニ於テ、美妙ノ情ヲ生セシメ、一ハ彼ニ在テ、其情ヲ挑起スル隱微ナ  
ル一大原行タリトハ、謂フ可ラサルコトニ屬ス、然ルニ、果シテ然ル者ナ  
リトセハ、物ノ最モ利用タル者、必ス物ノ最モ美妙タル者ナルヘシト、謂  
ヒテ足レリトス、果シテ此言ヲシテ、信ナラシメハ、舟楫ヲ通スヘキ運河  
中ニ、流ル、水流ハ、同シク流水ナリト雖、激流奔湍ノ潺湲タル、若クハ、  
懸崖絶壁ヨリ、飛落スル水ヨリ、一層利用タルハ、明カナリ、今波爾加氏ノ



粗俚ナレド、激切ナル比喻ヲ擧テ、之ヲ譬ヘハ、猪仔ノ啄ハ、爲ニ設ケタル  
目的ニ供シテ、極メテ其用ニ適セリ因テ以テ、草根ヲ掘リ、木株ヲ覆ヘス  
ニ、其利用ナル、豈是ニ過ル者アラムヤ、然レ、其全體ヲ擧リテ、甚美妙ナル  
ニ非ルナリ

二者ノ相  
似サルヲ  
論ス

實ニ、何物ニテモ其挑起スル情ノ性質ニ於テ、此心ニ之ヲ受ケタル時、利  
用ナルコト、美妙ナルコト、ノ相似サルカ如キ者ハ、非ルナリ、是猶佛  
魯哇其美妙分解論中ニ、善ク開示セラレタル所ニシテ、韓圖モ、亦明カニ  
同一事ヲ指示セリ、美妙ト利用ト、ニツノ者皆能ク我ヲシテ、樂シマシム、  
然レド、其由ル所ノ道、異ニシテ、應スル所ノ理モ、同シカラサルナリ、利用  
ナル者ハ、我、其我ニ利益タルカ爲メニ、之ヲ愛シ、美妙ナル者ハ、我、其物自  
己ヲ愛ス、故ニ、其一ハ、純然タル私シニ出テ、他ノ一ハ、純乎タル無欲ノ愛  
ナリトシ、其情ナル高雅ナリ、故ニ、二ツノ者、天地懸隔セリ、カノ夕照ノ光  
景ノ如キ、地上ニ在テ、吾人ニ用アルコトナシ、是唯美妙快樂タルニ過キ  
ス、今若其利用タル如何ニ於テ、之ヲ論シ、以テ吾人ノ、評價ヲ下サムトセ  
ハ、其一、一抹ノ光耀、變幻ノ光景、忽然トシテ、値ヒナキニ至ルヘシ、故ニ之ヲ

愛スルハ、其假ス所ノ利益ノ爲ニ非ス、其之ヲ用ヒテ以テ、我ニ供スルノ  
爲ニ非ス、唯其物ヲ愛シ、唯其艶麗タル所ヲ愛スルニ在テ、其美妙タル所  
ノミ、其以テ愛スヘキ所ナリトス、今ソレ、其燦爛トシテ、雲霞ニ畫ケル如  
キ、消滅常ナク、變幻時ナシ、而テ、其所在ハ、我ヲ距ル遼遠ナリ、汝曾テ是ニ  
達スルコト能ハス、汝曾テ是ニ、其淹留ヲ命スルコト能ハス、汝曾テ之ヲ  
取テ、汝カ有トナスコトヲ、願フコト能ハス、汝曾テ之ヲ以テ、汝カ生計内  
ニ、算入スルコト能ハス、又是ニ由テ、利益ヲ収獲スルコト能ハス、唯是ニ  
因テ、樂ミヲ受クルノ外、亦一事ナシ、然リ而テ、汝猶之ヲ愛ス、是亦汝ニ美  
妙タリ、カノ亞伯士山嶺ヲ、利崎山、若クハ、白山ヨリ望ムニ、旭光斜メニ映  
シ、紅雲一抹、群峰隱々タリ、是觀者ニ在テ、抑、何ノ用ソ、凡テ其他ノ事例ニ  
テ、所謂美妙ナル者、實ニ何ノ用カアル、是唯吾人ノ趣味ヲ淨好ニシ、心意  
ヲ高雅ナラシムルニ、過キサルノミ、然ルニ、美妙ノ、此ノ如キ利益ヲ有ス  
ト云フハ、是固ヨリ、吾人ノ許ス所ニシテ、亦實ニ、最貴ナル用ノ一ツナレ  
ハ、物ノ資助ヲ取ルノ道ニ於テ、頂上ニ位スルハ、疑ナシ、然レ、是所謂美妙  
ナル者ハ、利用ノ中ニ在リト云フ時、此事ヲ指シテ、徵示シタルニ非ルハ、



亦明カナリ、何トナレハ此言ノ如キハ、唯其源由ハ、生シタル效驗中ニ在  
リト、肯定シタル者ナレハナリ、蓋シ、美妙ノ能ク人心ヲシテ、淨潔高雅ナ  
ラシムル美妙學并ニ道德教育上ノ一術ニシテ、是其用タル、固ヨリ此ノ  
如シ、而テ、此用ヒノ際タニ所謂美妙ナル者ノ、隱微幽玄ナル本体ハ、存セ  
ルナリ、即チ他語ニテ言ハ、一定ノ源由ハ、一定ノ效驗ヲ生ス、而テ、其效  
驗ハ、合セテ、源由ヲ成ス者ナリト

美妙ノ利  
用ハ偶然  
ノ事タル  
ヲ論ス

蓋シ、其真理ヲ語レハ、所謂美妙ハ、吾人ノ心ヲシテ、能ク高雅邵貴ナラシ  
ム、故ニ能ク、美妙學并ニ、道德學ノ教育ニ於テ、至高ノ資助ヲ假ス者ナリ、  
然レ、此利益ハ、美妙ノ存在ト、全ク相關セサル偶然ノ事ニシテ、亦必須不  
易ノ效驗ナリト、謂フ可ラス、況ヤ、之ヲ美妙ヲ成ス所以ノ、原行ト謂フ可  
クムヤ、故ニ吾人ノ美妙ヲ愛スルハ、何故ト云フノ道理ニ答フルノ理  
ニハ非スシテ、是茲ニテハ、我カ意思中ニ在ラサル事ナリ、今利崎山頂ヨ  
リシテ、カノ白雪ヲ被ムレル諸峯ノ、白日ノ曙光ニ映シ、紅雲ノ衣ト疑ヒ、  
金華ノ飾リト訝カルノ際ニ、巍峨トシテ、相對スル水平中ニ、屹立セルヲ  
望ム時、此瞬間ニ當リ、余面前ニ觀ル所ヨリ、我カ心中ニ、生シタル效驗ヲ、

美妙ハ取  
テ有ス可  
クサルヲ  
論ス

思フニ非ス、唯全ク、其地景ノ宏壯ナルニ、心醉スルノミ、故ニ、其美妙タル  
ハ、其利用タルニ、由ルニ非ス、其吾カ心ヲ、高雅ナラシメ、吾カ趣味ヲ、培養  
シ、諸種ノ所ニ就テ、吾カ心氣ノ開發ヲ助成スルニ由テ、然ルニ非スシテ、  
畢竟此ノ如キ效驗ヲ、生スルハ、其美妙タルニ由ルナリ、蓋シ、此ノ如キ時  
ニ當テハ、利用ト云フ眞意ハ、却テ美妙ノ情ヲ、消滅スルニ、近キナリ  
物能ク取テ之ヲ有スヘンシテ、化シテ我カ算計内ニ入ル者ニシテ、始メ  
テ利用アリト、言フヘシ、然ルニ、美妙ニ至テハ、其眞個ノ性質ニ於テ、之ヲ  
取ル可ラス、又之ヲ有ス可ラス、今汝能ク、圖畫、彫像、山嶽、瀑布ヲ有スルヲ、  
得ヘシト雖レ、然モ其美妙ハ、有スル能ハス、是美妙ハ、汝ニ屬セス、亦曾テ  
屬スルヲ得可クサル者ニシテ、唯之ヲ觀ル者ノ、所有タルナリ、是猶佛魯  
哇ノ恰モ能ク、指目セル如ク、人能ク、美妙ナル物ナルヲ、有スルヲ得ルト  
雖レ、其美妙ニ鑿足スル者ハ、有ラスト、蓋シ、美妙ハ、理想ナレハ、曾テ有ス  
ヘキ者ニ非ス、是恰モ、一團ノ銀雲トナリテ、浮動スル精神ノ如シ、忽然、汝  
カ前ニ現ル、モ、汝之ヲ捉ルコト能ハス、又恰モ、青霄ニ跨カリタル、諸彩  
ノ虹霓ノ、奇絶ナルカ如シ、其爛熳タル光色、樹上ニ泛々トシテ、靜カニ地



上ニ垂レ、彼處ニ、其根アリト見ユ、直チニ、彼處ニ在リト見ユレ、汝曾テ疾走迅歩ヲ以テ、其處ニ至ルコトヲ得サルナリ、是即チ、汝カ居處ヲ除ケハ、其處ニ在リ、彼處ニ在リ、又各處ニ在リ、故ニ、是觀ル爲ニ、汝ニ與ヘタル者ニシテ、有スル爲ニ、汝ニ與ヘタル者ニ非ルナリ

差異中合一ノ考定ヲ論ス

上論ノ如クナレハ、吾人、美妙ノ住所ヲ、利用ヨリ、他ノ處ニ求メサルヲ得サルハ、明カニシテ、其帳中ノ秘ハ、彼處ニ非ルナリ、然ラハ、或人ノ説ノ如ク、差異中ノ合一ハ、美妙ノ本源ヲササルナキヤ、是講究セサル可ラス、蓋シ、人ノ靈智ハ、一般ノ畫一ヲ欲スル者ナリ、是音樂、畫圖、演戲等ノ諸曲ニ於ケルカ如ク、其畫一整然タルヲ視サレハ、蹙足セサル者ナリ、是ヲ以テ、此等ノ者ニ於テ、其諸部ハ、交互ニ連續スヘキノミナラス、又必ス、相關係スヘクシテ、其關係ハ、正ニ較着ナルヘシ、然リ而テ、是ト同時ニ、又人ノ感性ハ、差異ヲ好ム者ナリ、是音樂ニテハ、其音調ト、節奏ト、畫圖ニテハ、陽色ト、陰影トノ如ク、兩ツナカラ、其表象ニ、少ク可ラサル者ニテ、若樂器ニテ、終始同シ調譜ヲ奏シ、畫圖ニテ、一面一色、少シモ變化ナカラシメハ、人豈是ニ堪ユムヤ、故ニ、此諸家、謂ヘラク、合一ト、差異ト、此二本、適宜ニ結合ス

ル時ハ、吾人、物體中ノ美妙ト、名クル者、成ル者ニテ、其比喻ハ、苛加爾多ノ波浪線是ナリ

此見解ヲ駁ス

此考定ハ、深ク之ヲ講究セストモ、一語以テ、之ヲ論シテ足レリ、曰ク、其本則ハ、頗ル吾人、美妙ノ理會ニ供スヘシトハ、雖、之ヲ美妙ノ本因トシテ、取ルニ足ラス、况ヤ、之ヲ其主首タル元行トナスチャ、物皆合一ト、差異トノニツチ、表スル故ニ、美妙ナルニ非ス、或ハ反テ、此結合ヲ缺ク者モ、美妙ナルアリ、色ノ中ニテモ、或ハ、其色ノミニテ、美麗ナルアリ、而テ、形狀ニテモ、是ト同一理ニ出テ、美妙ナレ、差異ノ原行、缺ケタル者アリ、今數學上ノ諸形圖ヲ製スル、其結構齊整合一ニシテ、精確ナル者ハ、以テ目ヲ悅ハシムヘシ、是恐ラシハ、此本則ノ作用ヲ、知ラシムヘシト雖、其一種ノ色ヲ視ル時、其色、目ヲ悅ハシムル所ノ、感覺ニ至テハ、此理ヲ以テ、之ヲ解釋ス可ラサルナリ、又鮮紅ナル鵝卵石、若クハ、紺色ノ玻璃板ノ若キモ、稚兒ニハ、甚タ美麗ナリト見ユ、一色ナレ、其愛玩スル物ナリ、此ノ如キ者ハ、唯合一タル耳ニシテ、一モ差異アテサルナリ、然ルニ、反テ吾人ノ愛スル、日没ノ景ノ如キハ、凡テ、參差無量ニシテ、絶エテ合一ナルナシ、唯數目



上ニテ、稍合一ナルモ、之ヲ齊整ナリト謂フ可ラサルナリ

吾ガ輩全體ノ上ニテ、此考定ヲ取テ、美妙ノ問題ヲ解釋スルニ、浹洽シテ、問然スルナシトハ、謂フ能ハス、然レ、是項參ハ特ニ之ヲ奉稱セリ、項氏ハ凡テ美妙ヲ、其極處ハ精神上ノ性質ニ屬シタリト視、而テ、上ニ述ヘタル道理ニ、本ツキテ、其外部ノ形ヲ成ヌノ、一大品質トナセリ

順序及ヒ均稱ヲ論ス

此ノ如クナレハ、次ハ、將ニ、古今ノ著者、亞立斯度德、埃加斯丁、安的列其他諸人ノ說ニ就テ、美妙ノ玄理ヲ、カノ順序及ヒ均稱ノ原行中ニ、講究スヘシ、然ラハ、其所謂順序、及ヒ均稱トハ、何ヲ謂フヤ、順序トハ、一ノ結構セル體ニ就テ、其諸部ノ位置アルヲ謂ヒ、均稱トハ、其諸部、交互ノ關係、時間ト空間ニ於テ、其節度ヲ得ルヲ謂フ、然ルニ、物ノ位置アル者ハ、悉ク順序ヲ得タリト謂フ可ラス、唯其位置、計畫スル所ノ主旨ヲ、達スルニ足レリト、見ユル者ニシテ、始メテ、順序ヲ得タリト謂フヘシ、物ノ諸部、相關スル者ハ、悉ク均稱セリト謂フ可ラス、唯其諸部、相關シテ以テ、其成功ヲ、相資スルニ足ル者ニシテ、始メテ、均稱ヲ得タリト謂フヘシ、故ニ、人ノ兩目ヲシテ、頭ノ後部ニ在ラシメ、而テ、自餘ノ諸器ハ、現在ノ如クナラシメハ、之ヲ

不順序ナリト謂フヘシ、何トナレハ、此ノ如クナルモ、其運動ハ、現今ノ如ク、前進セサルヲ得スシテ、其兩眼ハ、恒ニ背後ヲ見ル時ハ、曾テ進路ノ覽閱ニ、資スルコト、無レハナリ、亞利比亞種ノ駿馬ハ、其馳驅ノ迅疾ヲ、計畫シタルカ爲ニ、其四肢、之ヲ體ノ諸部ニ比シテ、能ク均稱ヲ得タリト謂フヘシ、是カノ豚ノ四肢ハ、唯其體ノ支柱ニ供シ、且少距離中、徐々ノ運動ノ爲ニ、計畫シタル故ヲ以テ、短促ニシテ、亦其全形ト、相稱スル者ト、頗ル異ナリトス、然レ、此二物ノ均稱ニ至テハ、極メテ、其分ヲ得ルコト、今現ニ之ヲ見ルカ、如シ、然ルニ、一旦之ヲシテ、交換セシメハ、則チ、全ク其均稱ヲ失フヘシ

上說ハ、唯利用ト云フ說ノ體裁ヲ異ニシタル者タルヲ論ス

所謂順序、及ヒ均稱ト云フハ、上論ノ如ク、一ノ成就ヲ、期スル目的アリテ、必ズ、是ニ準スル者タレハ、其實此原行ニ於テハ、唯利用ト云フ主旨ノ體裁ヲ、一變シタルニ、過キスシテ、是既ニ、論シタル如ク、美妙ノ元理ニハ、非ルナリ

是必ス、美妙タルニ

是ヲ以テ、順序、及ヒ均稱ハ、是耳ニシテ、他ノ元行ト、相伴ヒテ現ル、ニ非レハ、其美妙ノ人ヲ感スルコト、不易ナリトハ、謂フ可ラサルコトヲ、見ル



非サルヲヘシ豚豕ノ脚脛モ、亞刺比亞ノ駿ノ如ク、其順序ト均稱トニ於テハ、共ニ

論ス好様式タルヲ失ハスト雖モ、其美妙ノ愛スヘキ駿馬ノ肢ニ若カサルナリ、然モ此結構ノ原行モ、美妙ノ形狀ヲ結フニハ、他ノ原行ト共ニ、多少其中ニ寓スト云フハ、固ヨリ容サ、ルヲ得サル所ニシテ、就中、美妙ナル物ノ外形トハ、其相伴フコト、極メテ親密ニシテ、此原行ノ脱シタル、或ハ之ヲ犯シタルハ、物ノ美妙ヲ害スルナリ

精神ノ考定ヲ論ス美妙ノ考定ノ中ニテ、猶遺リテ表章セサルハ、唯精神ノ考定ナリ、是即チ

美妙ノ、因テ立ツ所ニシテ、徒ニ其物質中ニ在ルニ非ス、又其物質ノ、徒ニ位置スル中ニ存スルニモ、非スシテ、其知覺ニ供スル物質形狀中ニ、一層卓出セル表象顯明ナル者ナリ、是即チ、其隱微ナル精神ノ性質ニテ、此原行、直チニ吾人自己ノ精神ノ性ニ、感觸シテ、其同感ヲ提起スルナリ、凡テ吾人ノ世ニ在ル、周匝ノ知覺スヘキ外界中ニ、二個ノ原行アルヲ見ル、是其一ハ、他ノ一ト、交互ニ異ニシテ、交互ニ別ナル者ナリ、之ヲ名ケテ、觀念ト、形體トト謂ヒ、精神ト、物質トト謂ヒ、見ル可ラサル幽玄、見ルヘキ表象ト云フ、美妙ナル物體ニ於テハ、此二原行、必ズ結合シテ、其一ハ、他ノ一ヲ、

表章顯明ナラシムル如クニ、相符スルヲ見ル、故ニ形體ハ、觀念ヲ表シ、體質ハ精神ヲ表シ、見ルヘキハ見ル可ラサルヲ顯ハス、而テ吾人自己ノ精神、其類タルヲ認メ、此ノ如ク表シタル所ト、相通シテ、同感ヲ致スナリ、故ニ美妙ヲナス者ハ、カノ一層高邁ナル精神ノ元ニシテ、是知覺スヘキ形體ニ於テ我カ五官ニ發顯ス、即チ物ノ活氣靈魂ナリ

美妙ノ眞ト善トニ於ケル關係ヲ論ス美妙ハ、眞ヨリ異ナリ、眞ハ、美妙ノ如ク、知覺スヘキ形體中ニ、表顯スル者ニ、非スシテ、單立シテ、純粹、且抽象的ニ屬スル者トシ、又五官ニ表見セスシテ、理性ニ表見スル者トス、又美妙ハ、善ト異ナリ、善ハ必ズ一ノ目的ヲ定メテ、之ニ達シ、之ヲ成サムトシ、又務トシテ、成サ、ルヲ得サルノ意ヲ

含メリ、而テ美妙ハ、是ニ反シテ、成就スヘキ、目的ヲ、定ムルナク、又一モ、義務タリ、必須タル意ナクシテ、純平タル、自在自然ニ屬ス、然ルニ、善、眞、美妙ノ三ツノ者、其形容ニ於テハ、此ノ如ク、異ナリト雖モ、其根本元本体ノ上ニテハ、同一ニシテ、昔時伯拉多カ教ヘシ如ク、是聲口、其本體ノ異ナルヨリモ、其表稱ノ法、異ナルト、又吾人ニ對スル關涉ノ、異ナルナリト謂フヘシ」美妙ト、高美妙ト、高大トノ關係ハ、此考定ニテハ、唯次ノ如シ、曰ク、美妙ニハ、見ル可



大トノ關  
係ヲ論ス

ラサル者ト、見ルヘキ者ト、定形アル者ト、無邊ナル者ト、相和合混成セリ  
高大ハ、其元行專ヲ精神ニ係ハリ、和諧ノ意ハ、既ニ毀壞シテ、其無邊ナル  
ヲ以テ、視聽ノ感モ、亦屈セリ、是吾人自己ノ本體ノ中ニ就テ、一層高キ元  
行、表現シテ、我カ精神、之カ爲ニ、異常ナル攪動ヲ覺ユル者ナリ、故ニ、美妙  
ハ、悅樂スヘクシテ、高大ハ、畏怖屈服スヘキナリ

此考定ノ  
適用ヲ論  
ス

此ノ如キハ、短簡ナル概略ナレド、亦此考定ノ本旨ナリ、請フ今、此考定ヲ、  
諸種ノ美妙ニ徴シテ、其當ル所、何如、又此考定ニテ、果シテ以テ、諸種ノ美  
妙ヲ講解論破スルニ、足レリヤヲ試ムヘシ

此考定ヲ  
無機性體  
ニ適用シ

今、一體ノ諸形狀ヲ、通觀スレハ、其中美妙ノ度、種々ナルヲ見ル、果シテ然  
ラハ、所謂美妙ナル者ハ、悉ク其媒介ヲ假リテ、恰モ、物質形體ノ單體中ニ、  
在ルカ如ク、隱然トシテ、其精神ノ元行ノ存スルヲ、表顯スルカ、而テ、其體  
ノ美妙ナルコト、勝レルニ從ヒ、愈、此元行ヲ、明白ニ且、直接ニ、表出スルカ、  
第一ニ、三體中ノ至下ナル者ヨリ、始メタル時ニ、活氣ナク、且、機性ナラス  
シテ、唯化學上ノ物質タル、形體ヲ具スル者ニ在テハ、其精神何如曰ク、此  
ノ如キ物ニ於テハ、吾人、之ヲ美妙ト呼フ所、其一定ノ輪廓、一定ノ形狀、一

テ論ス

定ノ色澤ニ在リ、曰ク、然ラハ、則チ、其輪廓、形狀、色澤ハ、如何シテ、其體ヨリ、  
一層高キ精神上ノ元行ヲ表スルカ、恐クハ、此等自然ニシテ直チニ、表ス  
ルコト能ハサルナリ、是固ヨリ然リ、然ルニ、畢竟是皆、觀念ノ表號ヲ提起  
スル者ニ、非ル莫キヲ得ムヤ、其精神ハ、此等ノ中ニ、寓セスト雖ド、此等ヲ  
造リタル者ノ中ニ、寓スルハ、明カニシテ、是造物者ノ觀念ト、精神トニ就  
テ、隱然之ヲ表シタル者ナレハ、其賤劣ナル形體中ニ、寓スルヨリハ、一層  
高上ノ本元アリテ、其自然ノ標徴タルノミ、然ラハ、是皆、美妙、秀雅、精緻等  
ノ觀念ヲ、我カ心ニ、提起表出スル者ニ、非ルヲ得ムヤ、吾人果シテ、是ニ由  
テ、目ヲ奪ハレ、又一種ニハ、其趣味アリ、表象アル形狀ニ、依テ、我カ心ヲ感  
動スルコト、ナキヲ得ムヤ、今一ノ水晶アリ、其輪廓、形狀、數學上ノ度ニ合  
ヒ、整一端正、嶄然トシテ、稜角ヲ露ハスハ、豈此類ナル莫ラムヤ、其光彩、磨  
礫セル表面ニ浮動シ、或ハ、秀麗ナル色澤、隱然内部ニ含蓄スル者、其秩序  
ノ齊ノヘル、其彼此ノ量衡ヲ得タル、其運轉ノ一定理ニ本ケル、皆物質諸  
形ノ表象ニシテ、吾人、之ヲ觀テ、以テ、美妙ナリトス、然ラハ、則チ、其秩序ア  
リ、其量衡ヲ得、其整一端正ヲ表シ、其和諧ヲ失ハサル、其運動、定理ニ戻ラ



サル、其輪廓形狀ノ、秀雅美麗ナル、是皆高上ナル靈智ノ、標徴表證ニ非ル  
莫ラムヤ

此考定ヲ  
植物ノ形  
體ニ適用  
シテ論ス

萬有物体ノ品級ノ中、一等ヲ進ミテ、上行シ、乃チ我カ觀察ノ中ニ、植生ノ  
有機體ヲ取レハ、其物質ノ形狀中ニ、一層明確ナル精神、隱然トシテ、表現  
スルヲ、見得ルニ非スマ、カノ草花ノ湖溪ニ、輒然タル、カノ老幹ノ輪囷タ  
ル、其枝條ヲ聳カシテ、青霄ヲ攫マムトスル、或ハ其枝ノ翠々下垂シテ、隱  
憂アリ、俯シテ以テ思フカ如キ、一層直接ニ、一層親密ニ、我カ精神ニ表現  
シテ、其意ヲ示シ、カノ水晶ノ、徒ラニ形狀ノ秀雅ト、輪廓ノ一定ヲ、以テス  
ルノ比ニ非ルナリ、是既ニ、唯其觀念ヲ、表スルノミニ、非ス、併セテ、其意思  
ヲ表スル者ニシテ、我カ感性ヲ興起シ、直チニ我カ靈魂内天ノ生ヲ、攪動  
スル者ナレハ、或ハ、其強勁ヲ表シ、或ハ、其柔軟ヲ現ハシ、或ハ其剛勇、或ハ  
其怯弱、或ハ其快活、或ハ其悲愁ヲ形容シテ、我カ心ニ興ル所ノ情感ヲ、其  
物ニ寄歸スルハ、思想ノ自ラ至ル所ニシテ、亦勉強ヲ要セサルナリ、故ニ  
カノ天然ト、共ニ我カ同情ヲ興起シテ、精神ノ往來、旺スル時ニ方リテハ、  
吾人、其物ノ我カ胸裏ニ、情意ヲ興起セシムルノミナラス、其自己ノ情意

モ、亦稍、然ルコトアルノ的證ヲ認メ、自ラ己ムコト能ハサル者アリ、此ノ  
如キ表象、著明ニシテ、吾人取テ以テ、滿腔ノ、趣味アリトスル、形狀中ニ、所  
謂、其靈智靈魂ハ、潛埋スルナリ

此考定ヲ  
動物ニ適  
用シテ論  
ス

動物域ニ至テハ、此隱然タル精神ノ元、其力極メテ強シ、凡テ活機アル實  
體中ニ、潛居スレモ、一層強ク著明ニ、開發シ、吾人ノ精神上ノ性ニ、愈、近ク  
其感動、一層直接ナリトシ、吾人其露智ト、感動トノ標徴ヲ、知覺シ、少シモ、  
差謬ナク、吾人性靈上ノ體タル、眞個ノ本元、吾人性上一層高キ、眞個ノ照  
影、其間ニ、發露シ、愛憎恐懼ノ情、其中ニ、洩出ス、故ニ、此ニ至テハ、美妙ト、婉  
惡ト、一層強ク、觀察ニ、供シ、萬有諸體ノ品級中、下等ノ物ノ、及フ所ニ非ル  
ナリ

人ニ適用  
シテ論ス

人ニ至テハ、吾人相交ハリ、相接スル動性中ノ、至高ナル度ヲ極メ、活動靈  
智、靈魂ノ最上等ダリ、故ニ、其體タル中ニ、存スル所ノ精神、カノ物質ノ單  
臉ヨリ、漏露シテ、其照光最モ明白ナル者ナリ、然ラハ、吾人、又此體ヲ以テ、  
萬物中ノ極美ダリト、謂ハサルヲ得ムヤ、凡テ、天地間ニ於テ、見ル所ノ最  
美至妙ノ性格ハ、人ノ形狀ニ屬シ、其中存スル所ノ靈智ニ依テ、活潑光輝



チ有スル者ニテ、此最上ノ美妙ヲ成スハ、唯靈魂ノ表象タルノミ、目ノ爛々タル、額ノ清高ニシテ、安靜ナル、口容ノ止リテ、穩カナル、頬臉ノ笑露ヲ含メル、顔色ニ、固チ解クノ線理ヲ具スル、其形狀容貌ノ、一般ノ姿儀ニ於ケル、手足ノ形容ニ於ケル動作ニ於ケル、手勢ニ於ケル、聲氣ニ於ケル、皆是ナリ是皆中ニ存スル、隱然タル精神、其形體ノ見ルヘキ門戸ヨリ、外ニ發露スル者ニシテ、吾人之チ愛シ、之ヲ稱スル、人性ノ表象ニ非ル莫シ、是我カ人類ノ美妙ヲ成ス所以ノ者ナリ、故ニ、一定ノ美麗ナル姿容アル時、縱ヒ其輪廓、整端ナルチ失ナヒ、或ハ精緻柔媚チ損スルコトアルモ、猶其表象活氣ノ發スル所、別ナルチ以テ、其一種ノ嬌艶嬋娟チ、失ハサル者ハ、是本精神ヨリ發シ、形骸ニ拘ハラサル者ナレハナリ、之ヲ以テ、才智ノ發輝、感興ノ熾熱、並ニ胸懷ノ洒落高雅ナルハ、淡白ノ形容、或ハ暗トシテ、陋劣ノ容貌ノ上ニモ、其光輝チ表ハシ、光明洪大ノ美妙チ、其氣宇ニ發見ス、是畫家ノ能、熟知スル所ニシテ、其真チ描クハ、殊ニ難シトスル所、其表徵、忽焉トシテ、變幻極リナク、其美妙タルヤ、或ハ顯ハレ、或ハ減シ、或ハ減シ或ハ増シ、猶北方ノ空中ニ於テ、閃華チ發スル北光ノ如シ、往來常ナク、未

メ曾テ是其靜止チ見サルナリ

人ハ美妙ノ至高ナル模様ニ非ルヲ論ス

然ラハ則チ、人ノ形體ハ、美妙ノ本元トシテ、至高ノ表象ナリヤ、是未ダ然ラサルナリ、人ニハ、地球上ノ萬物ト同シク、美妙ト共ニ、多クノ陋醜混シ、高雅ト共ニ、多クノ缺乏、混スル者タレハナリ、吾人、人ニ勝レタル形體ニシテ、美妙ノ光耀、其面ニ溢レ、一モ罪業ノ爲ニ、汚セラレス、一モ情欲憂患ノ爲ニ、味マサレサルチ理會スルチ、得又吾人、人眼ノ曾テ見、人耳ノ曾テ聞キタルヨリモ、一層完全ナル、一層清潔ナル、一層光明ナル、一層高大ナル、形體チ理會スルコトヲ得、然ル、吾人之チ理會スルハ、我カ覺性ニ、或ハ能表現スル術アルカ如ク、唯或ハ、能此ノ如キ形體ノ存在スルチ、覺ルニ在ルノミ、是則チ吾人之ニ被ラシムル美妙ニシテ、精神上ノ美妙、自然ニ外界ニ現ハレテ、視ルヘキ者ナリ、故ニ、此理會チ形容スルハ、想像力ノ境域ニシテ、之チ現實ニ表セムトスルハ、藝術ノ本旨ナリ、是即チ、詩人、畫工、彫工、工匠、說家ノ、各其道ニ於テ、恒ニ之ヲ爲サムト、欲スル所ニシテ、カノ視在世界ニ在ル所ヨリ、一層完全ナル、嫵媚秀美ノ理想チ、知覺スヘキ形體ニ、表ハサムトスルナリ



此理想ハ人ノ曾テ十分緊着ニ表出シ得サル所ニシテ、美妙ノ十全ハ唯神ノ上ニノミ存スルナリ

上ニ解釋セル考定ヲ嘉稱スルヲ論ス

上ニ論述セル考定ノ嘉稱スヘキハ、之ヲ美妙ノ諸現象ニ當テ、悉ク相合シ、以テ其理由ヲ得ヘシト、見ユルニ在リ、カノ前ニ歴闕ニ屬シタル諸説ヨリモ、一層近クシテ、此ノ如キ純單著明ノ一元ニテ、總テ其諸現象ヲ解述スルヲ得、水晶ノ如キ紫羅蘭ノ如キ、鬱然霄漢ヲ凌ク樹ノ如キ、垂々水ニ向フ柳條ノ如キ、彫像ノ如キ、圖書ノ如キ、音樂ノ合奏ノ如キ、大字高殿ノ如キ、自然ノ美妙ナル者、藝術ノ美妙ナル者、凡テ意趣ヲ含ミ、凡テ心情ヲ表シテ、其中ニ、各自ノ美妙ヲ、含マサルハ莫シ、而テ是カ爲ニ、吾人、攪動ヲ受ルニ至ル、蓋シ吾人既ニ靈魂ヲ有シ、精神ノ性靈、尤モ旺スルヲ以テ、自然若クハ藝術ノ諸體ノ、仄カニ隠々トシテ、表現セムト、欲スル者ヲ領解シテ、兩意相感スルニ至ルハ、亦宜ナラスヤ

此ノ如ク表出セル觀念ハ自然ニ屬セ

今、古昔ノ希臘人ノ如ク、萬有ヲ理會シテ、萬有ハ、自ラ其靈魂ヲ具シテ、其中、諸體ノ美妙ヲ知ルコト、猶其中ノ諸體、個々ニ、其美妙ト、情意ヲ具セルカ如シト、謂フヲ要セス、吾人、此萬物ノ諸體ヲ認メテ、其自己ノ情意ヲ表

スシテ、神明ノ心ニ係ハルヲ論ス

スルニ非スシテ、此諸體ヲ造レル者ノ、情意ヲ表シ即チ、其美妙ナル意思ヲ、代現表明スル者ナリト謂テ、是ナリトス、蓋シ、意思ヲ表明スル、獨リ言語ヲ以テ、無二ノ器トセス、靈魂ハ、言語ヨリモ他ノ標徴ヲ以テ、說話スルコト、屢、無妄ニシテ、且精巧ナリ、而テ、神ノ人ニ話スル、人間言語法ノ、骨立無味ナルヲ以テスルヲ、常トセスシテ、我カ途次ニ當ル所ノ、草花ヲ以テシ、樹木ヲ以テシ、山嶽ヲ以テシ、河海ヲ以テシ、青霄ヲ以テス、是其言語ニシテ、恒ニ其美妙ヲ極ムト雖也、時トシテ、其意ニ隨ヒ、又尊嚴犯ス可ラサル者アリ、嗚呼幸福ナル哉、凡テ此表象ニ於テ、神ノ聲ヲ認識スル者ハ

第二章 美妙ノ認識

美妙ハ識認ニ供スル物タルヲ論ス

此前章ニ論シタル所ハ、美妙ノ觀念ヲ、獨立ノ者ト視タル考ヘナリシガ、是ヨリ、其美妙タル者、或ハ、天然ニ於テシ、或ハ、藝術ニ於テシテ、現實ニ表ハレタルヲ、此心ノ認識スル發作ヲ、講究スヘシ、既ニ論述セシ所ニテ、美妙ハ、唯此心ニ存在スル理會タルノミニ、非スシテ、一定ノ物體ノ形質ヲリト、信スヘキ道理アルヲ、見タリ、故ニ、美妙ノ美妙タルハ、其客觀ノ存在價直ニ在テ、心ハ之ヲ美妙タリトシテ、認識シ、之ヲ知覺シ、之ヲ視察シ、之



ヲ比較シ、其同種類ト、異種類ト、相關スル所ニ於テ、其物ノ優劣ヲ裁斷スル者ナリ、是總テ知覺ニ供スル諸體ノ如ク、其物體ノ物質、初メハ、五官ヨリ、我ニ現ハレ、次キテ、五官ヨリ心ニ映スル者ニテ、爰ニテ、心裏ニ固有ナル美妙ノ直覺理會ヲ、警醒提起シ、又爰ニテ、此ノ如ク提起セラル、上ニ、尙且此心ニテ、其美妙ヲ、眼前ニ、在ル物體中ニ、實ニ章然トシテ、現在セル實在トシテ、認識スルニ至ルナリ、而テ、此心再ヒ同種ノ、他ノ物體ヲ知覺スル時ハ、即チ之ヲ、前時ノ物ト彙類シ、之ヲ種々ニ比較シ、各、其功用ヲ辨シ、各、其美妙ノコト、種類トヲ決定ス、此心ノ辨決ノ力、之ヲ天然ニテモ、藝術ニテモ、其美妙高大ノ諸物ノ上ニ、際ヘタル者ヲ、吾人一般ノ名目ニテ、雅趣ト稱スルナリ

此ノ勢力  
性ヲ論ス

此勢力ノ精密ナル性質ニ付テハ、其說甚々異種アリテ、是心ノ一種別ノ能力タリヤ、或ハ、既ニ前ニ示シタル能力ノ中ニテ、其一ヲ發作セル者ナリヤ、或ハ、是智ノ性ナリヤ、又ハ、情ノ性ナリヤ、若クハ、兩相结合スル者ナリヤ、一定スル所ナシ、是ヲ以テ、雅趣ノ定義ハ、諸家ノ著ハセル所モ、又種々ニシテ、或ハ之ヲ以テ、正シク靈智ノ能力トシ、或ハ情ナリトシテ、之ヲ

視、而テ其多數ハ、之ヲ視テ、智覺ニ於テ、池ノ作用ト、感動ニ於テ、感性ノ作用ト、兩相合シ、其美妙高大ヲ認ムル者ナリトセリ

此總テノ見解中ニテ、孰レカ余カ見ル所ト、殆ト一致セリヤハ、前ニ論シタル所ニテ、十分ニ明カナリ、吾人、雅趣ト云フ語ヲ用ルハ、此心ノ、美妙ヲ認ムル勢力ヲ、指スニテ、是感動スルヨリモ寧ロ知ルコト、辨スルコトノ勢力タルコト、明カコシテ、之ヲ此心ノ種別ナル能力ト、見ルヨリ、寧ロ物體ノ一種類ニ着シタル、反射力ト、視、辨決ヲ舉行スルナリト、視ルノ勝レルニ若カス、然レ、美妙ヲ知覺スルニ、感動モ、提醒セラル、コト、疑ヒナシ、況ヤ、又、吾人眼前ナル物ノ、眞ニ美妙タルヲ決斷スル、辨決力ニハ、感動ノ先ツコトアルヲヤ、然レ、感動ハ、即チ知覺ニ非ス、又辨決ニモ非ス、然ラハ則チ、其雅趣ニ關スル者ノ、何タルニ拘ハラヌ、是則チ雅趣ナル莫ラム

講究ノ法  
ヲ論ス

是正シキ性理學ニ於テハ、一切要事タリ、且其說タル、甚々區々ナルヲ以テ、心上發動ノ中、此一能力ノ性質ヲ、稍細心ニ講究スルハ、此科學ノ爲ニ、必要タリト見ユ、然レ、是固ヨリ、權力ヲ以テモ、又專擅ナル定義ニ依ラモ



又教規ノ肯定ニテモ、定ムヘキ事ニ非レハ、他人ノ見解ト見テ、其  
說ノ道理、如何ヲ考ヘサル可ラス

定義ヲ論 此ノ如キ講究ノ端ヲ開ク爲ニ、余將ニ前ニ擧ケタル諸家ノ見解ニ就テ、  
其首トシテ、拔群ナル著者ノ示セル、雅趣ノ定義ヲ、一二掲出スヘシ

丕列伊爾ハ、其定義ヲ立テ、天然若クハ、藝術ノ美妙ヨリ、快樂ヲ享ルノ  
勢力トシ、佛蘭西ニテ、大名ノ著者ナル、孟德斯各ハ、我カ内部ノ覺性、即チ

感動ノ勢力ニ依テ、一定ノ物體ヨリ、我ニ賦與スル者ナリト定メ、雅趣論  
ノ著者、熱羅爾ハ、之ヲ内部ノ覺性ノ變易中ニ、成ル者トセリ、即チ新奇、高

大、美妙、擬倣、和諧等ノ意ナリ、亞根齊的ノ詩句モ、之ト一致セリ、曰ク

何物カ是レ雅趣、 勢力カ内一部ニ具ル、

活潑且勇壯、 逢物則傾注ス、

此諸定義ハ、雅趣ヲ以テ、感性ノ事トナシ、單ナル感動ニシテ、天然若ク

ハ、藝術ノ美妙ヲ好ム、受性ノ能力トス、即チ感覺ト、覺性トナリ

前說ト異リテ、他ノ諸家ハ、周密ニ之ヲ區別シ、理性上ト、情緒上トノ本元

ヲ分チ、一ヲ辨別スルノ勢力トシ、一ヲ感動スル勢力トシテ、雅趣ハ、元來

論ス

論ス

理性ヨリ成ル者トナセリ、丕羅昂ハ、此中ニ屬シ、摩、埤爾、赫、モ、同シ見解ヲ

取リテ、其雅趣性元辨論中ニ之カ定義ヲ立テ、知覺スヘキ靈智上ノ體

ノ、形質ノ中、其體ト吾人ノ性トノ間ニ、存スル隱然タル大和ヨリ、我チシ

テ、快樂ノ情ヲ、興起セシムル者ヲ辨識スルノ勢力ナリト云ヘリ、故ニ情

ハ、縱ヒ雅趣ノ父母タリト雖也、此著家ハ、之ヲ其元行ノ一トシテ、視サリ

シナリ

然ルニ、此論題ニ就テ、著述セル諸家ノ中、大半ハ其雅趣ノ定義ノ中ニ、此

兩元行ヲ合シ、知覺ノ勢力ト、感動ノ勢力トヲ、交ヘタリ、故ニ波爾加曰ク、

心裏ノ能力中、想像上ノ諸物、巧藝ノ諸工ニ就テ、我カ心、攪動セラレ、依テ

以テ、我ト辨決ヲナスノ能力ナリト又亞理孫曰ク、是心ノ能力ニテ、此ニ

天然、若クハ、藝術ノ諸工物中、美妙且高大ナル者ヲ、知覺シテ、享樂スル者

ナリト、來德モ、之ヲ以テ、其諸物ヲ辨識シテ、玩味スル中ニ、成ル者トシ俄

拉弟爾ハ、感動モ、全ク知覺ト共ニ、其本體ナリトシ、盧昂ノ王家學校ノ哲

學博士、列奈兒ハ、其哲學字典中、雅趣ノ條ニ、極メテ能ク之カ定義ヲ立テ、

曰ク、雅趣ハ、天然ノ美妙、並ニ、藝術ノ諸工ニ於テ、秀優ナル者ヲ辨識シ、感



此三種諸  
說ヲ包含  
スルヲ論  
ス

興ヲ起ツシムル所ノ能力ナリト、此著者ノ說ニテハ、覺性ノ界内ト、理性ノ界内トニ同時ニ棲住シテ、相組織セル能力ニテ、其美妙ナル者自ラ知覺ニ供スル形狀ヲ以テ、吾人ニ啓示スル故ニ、此美妙ヲ觀察スル能力、唯之ヲ、其知覺ニ供スル表象ニ於テ、把持スルノミ、而テ又、一ニハ、其抽象上ノ性質ニ依テ、立ツ所ノ純然タル感念ハ、雅趣ヲ表スルノミナラス、又悟性ニモ表見シテ、徒ニ美妙トシテ見ユル耳ナラス、又眞理トシテ見ユ、然ラハ雅趣ハ、此覺性ニ依テ、生スル者ナリト、列奈兒、又是ニ附シテ曰ク、雅趣ヲ成ス本體ノ元行ハ、理性ニ屬シ、理性ハ、實ニ是其君主ノ權力ヲ有スルニシテ、其相關スル物體ニ從ヒ、諸種ノ名ヲ取ル者ナレハ、此理性、眞理ノ感察スル圈内ニ用ラル、時、本來ニ稱シテ理性ト云ヒ、道德躬行ノ眞理ヲ、我ニ啓示スル所ニ就テ、獨知ト云ヒ、現界ノ諸物、若クハ、藝術ノ諸工ニ就テ、其美妙恰好ヲ、評直スル時ニ、雅趣ト云フナリト、其他、殆ト無數ナル著術、定義、之ヲ加フ可ラサルニハ、非スト、雖モ、其實上ニ開列シタル三種中ニ落ツ、然ラハ、此見解ノ中、孰レカ、正シキ眞說ナルヘキ、是眼前ニ懸ル疑問ナリ、雅趣ハ、感動ノ事ナリヤ、靈智ノ辨識ナリヤ、

或ハ、此兩者ナリヤ、余ハ此疑問ヲ決斷スルコト能ハサル、明カナリ、何トナレハ、是皆諸家ノ見識ノ異ナル所タレハナリ、故ニ、余等ハ、又自己ニ就テ、之ヲ考覈スヘシ

此語ノ訓  
話ヲ論ス

此語ハ、其意義、明カニシテ、吾人、略領解スヘシ、凡テ心上ノ情狀發作ヲ、徵スル語ハ、率、覺性ノ圈内ヨリ假リタル者ニテ、是全ク然ラサルモ、多シハ然リ、然ルニ今、論題ナル心ノ勢力ヲ、徵スル爲ニ、殊ニ此語ヲ選ヒタルハ、何故ナリヤ、是必ス、道理アルコト、疑ナシ、蓋シ、本來ノ意味ニテハ、此語ニテ、徵スル形體ノ趣キト、今論スル心上ノ能力トノ間ニ、密接ナル類例アルコト、疑ヒナシ、故ニ、此靈智上ノ能力ヲ、徵スヘキ語ヲ、求ムルニ、此論題ナル語ヨリ外ニハ、一モ所謂心上ノ趣キニ、適當シ、容易ニ提起シテ、表章スヘキ語ナシ、是其本義ノ如何ニ拘ハラズ、又之ヲ取テ、今ノ疑問ヲ裁ス可ラスト、雖モ、其類例タルハ、性理家ニ在リ、遺失ス可ラサル一元行タルコト、疑ヒナシ、然ラハ、其類例ノ酌ムヘキ所、果シテ何如、何ニ由テ、論題ナル勢力ヲ、徵スル爲ニ、他語ニ越ヘテ、此雅趣、即チ趣味ト云フ語ヲ、用ウルコトニナリシヤ



覺性ニ供  
スル味ヒ  
ヲ論ス

覺性ノ區域中ニテハ、一定ノ物體、我カ形體ノ官具、相當スル者ハ、抵觸セ  
シメタル時ニ、甘シ、酸シ、辛シ、等ノ攪動アルヲ覺ユ、然ルニ、是唯感性ノ攪  
動ニシテ、徒ニ觸動タル耳、吾人常ニ、此物ノ味ヒ、云々ヲリト云ヒテ、此ノ  
如キ形質ヲ、區別スル勢力ヲ、味ヒノ覺性勢力ト名シ、故ニ本來ハ、徒ニ感  
覺、徒ニ觸覺ニシテ、此感覺ニ依テ、辨別スル勢力ヲ、徵スルニ、此語ヲ轉用  
シテ、趣味、即チ雅趣トナシタルナリ、故ニ、爰ニテハ其本始ニ、官具ト抵觸  
シタル物體ニ就テ其官具ノ攪動アル耳ニシテ、此攪動ヲ認識シ而テ後  
ニ、靈智上ノ知覺辨決ニ至リ、其物體ノ我チ攪動スルハ、云々ノ形質ヲ有  
シ、或ハ甘シ、或ハ酸シ、或ハ辛シ、或ハ鹹ハユシ等ナリト定ム、是感覺ハ、辨  
決ノ地ヲナス者ニテ、辨決ハ、感覺ノ上ニ本ツク者ナリ、其單素ナル觸覺  
タル感覺ハ、之ヲ裁斷シ、辨決シ、區別スルノ方略ヲ、授ル者ニシテ、形體上  
ノ意味ニテハ、此裁別スル勢力ニ、味ハフト云フ語ヲ用ウルコト、尤モ屢、  
適當ナリトス、故ニ、是ヨリ轉用シテ、吾人常ニ、云々ノ人ハ、其趣味、即チ風  
趣、嚴正ナリ、其風趣敗壞セリ、若クハ、遲鈍ナリト云フ、是我カ雅趣ノ覺性  
ヲ、攪動スル物體ニ就テ、其種々ノ性質ヲ、知覺辨別スル勢力ヲ、徵スル者

ナリ

是雅趣ト  
稱スル心  
ノ運用ノ  
類例タル  
ヲ論ス

今、形體上ノ勢力ノ上ニ、言ヘル運用ト、論題ナル性理上ノ能力トノ中ニ  
就テ、其類ヲ推シ、例ヲ酌ムハ、容易ナル事ニシテ、元來趣味ヲ徵シタル名  
目ヲ、轉用シタルナリ、今ソレ天然若クハ、藝術ニ成レル物ノ、自ラ我カ視  
察ニ供シテ、或ハ美妙トシテ、快樂ヲ興起シ、或ハ其反體トシテ、厭惡ヲ生  
ス、是唯感性感動ニ屬スルノ事タリ、然ルニ、今余カ表章スル所ハ、唯快樂  
ト、厭惡ノ感動ノミニハ非ス、之ヲ提起スル物體ノ品性ニシテ、吾人、其物  
體ニ、云々ノ形質アリト辨識シ、云々ノ形質ヲ、其物體ニ歸シ、其物體、此ノ  
如キ形質ヲ、有ストシテ、認識スルニテ、此辨識スル勢力、即チ、此心、其物體  
此ノ如キ性質ヲ、有セリト、辨決スルコトヲ、雅趣ト稱ス、是猶覺性ノ圈內  
ニテ、提起セラレタル感動ヨリ、辨決區別ノ道ヲ、開クカ如シ、物體ノ形質  
ニ於ルモ、亦然リ、美妙ハ、感覺ヲ提起シ、快樂、娛樂、驚歎ノ活潑ナル感動ヲ  
發生シ、醜惡ハ、是ニ反ス、而テ、此感動、能我チシテ、論題ナル美妙、醜惡ノ性  
質ニ就テ、此物體、此形質ヲ、有セリヤ、否ヤ、又之ヲ有セル時ハ、我カ心裏ノ  
他ノ物體ト比較シテ、幾分ヲ有セリヤト、辨決セシムルナリ、故ニ、形體上



ニテモ、性理上ニテモ兩ツナカラ、其運用ハ、感覺感動ヨリ始レトモ、一次ニ、又靈智上ノ疆域、即チ悟性辨決ノ圈内ニ、輕過ス、是ヲ以テ、兩ツナカラ趣味ト云フ語ハ、靈智上ノ運用ノ基礎タル感動、即チ印象ヲ受クルコトヲ、徴スルコト當然ナリトス、然レ、一層嚴密ニ論スレハ、物體ノ形質ヲ辨識スル能力ニ歸シテ、是ニ依テ、我心ニ、一定ノ情ヲ提起スル者ナリ、此語ノ訓義ニテ、自ラ明カナル時ハ、此ニ示セル指導、誤リナシト見ユ、然レ、的例ハ極メテ、誤用多シ、余等、唯一語ノ意味ニテ、哲學上ノ論題ヲ決シ、一學派ヲ立ツ可ラサルナリ、故ニ、余等ハ、最後ニ、美妙ノ見解ニ於テハ、吾人自己ノ心裏ニ、現實ニ、經過スル所ニ就テ、其視察ト意識トニ供スル者ニ頼ラサルヲ得ス、故ニ先、吾人我カ身ヲ天然若クハ藝術ノ美妙タル物ノ前ニ置キ、依テ以テ、其我カ意識ニ供スル所ノ、心裏ノ諸現象ヲ、視察スヘシ

余今、刀兒瓜拉士典、若シハ、加納華ノ彫像ノ前ニ、立テ、其巧妙我ヲシテ、感セシムル時ハ、余カ心ニ經過スル者、果シテ如何

其第一元 最首ニ、余一物體ヲ視レハ、殆ト同時ニ、情ノ生スルヲ、意識ニ供ス、是快樂、ヲ論ス

娛樂ノ情ナリ、今余カ目前ニ、一彫像ノ立ツアリテ、其瑕玼ナク、巧妙驚歎スヘキヲ觀レハ、忽チ我カ情ヲ挑起シ、又地上ヨリ、一泉噴出シ、其天然ノ力ニ依テ、雪ヲ灑キ、氷ヲ散スヲ見、又紅陽亞伯士山嶺ニ昇リ、其光、山頂峯巒ニ、映射シ、其體々タル白雪ヲシテ、紅衣ヲ被ラシメタルカ如キヲ、見レハ、其情忽チ發揮ス、此ノ如ク、余カ情ヲ挑起スルハ、是余カ意ノ使ムル所ニ、非ルナリ

第二元 論ス

此發生スル情ト共ニ、又他ノ我カ意識ニ、供スル者アリ、余カ眼、之ヲ快樂ナリトスル形狀結構ヲ、未ダ睇視スルニ及ハス、感發シタル情緒ノ端未タ余カ意識ニ、供スルニ暇アラス、余既ニ、自ラ是何等ノ美妙ソト、叫了ス、是之ヲ言ハシムルハ、靈魂ニシテ、之ヲ叫ハシムルハ、蓋シ唇舌ナルヘシ、然ルニ、其歸ヲ要シテ、果シテ、聲音ナラサル時ハ、苟モ之ヲ肯定ナリト、謂ハサルヲ得ス、故ニ、此心ハ、一目ニシテ、美妙ノ現在ヲ知覺シ、其神妙タルヲ認識シ、其寵ヲ仰キテ、恭敬ヲ表スルナリ、是徒ニ、感動ニ依テ、誓突ノ恭敬ヲ、表スルニ非スシテ、我カ靈智ノ洞然タル知覺トシ、悟性ニテ、確實ニ決定シテ、汝カ知覺シテ、驚歎スル者ハ、美妙タル者ナリト、肯定セシメタ



リ、然、是前時ノ感性ノ挑起ニ、基キシタル辨決ノ發作ニシテ、感スル故ニ知ルト、謂ハサルヲ得ス

第三元ヲ 此諸發動ニ加ヘテ、猶他ノ心上ノ發作アリ、是或ハアリ、或ハナシ、必ス可

ラサル者ナリ、登時余、一層細心ニ眼前ノ物體ヲ、觀察スルニ及ヒ、之ニ就テ、賞鑒ノ評直ヲナス、其輪廓ヲ睇查シ、其諸部ヲ計數シ、其全體ノ成功ヲ、觀察シ、其功用ヲ測定ス、若ソレ、人工ノ物ダレハ、猶其瑕疵ヲ評シ、其意匠ヲ學ヒ、其觀念ヲ知り、而テ、此物何如シテ、能其觀念ヲ表シ、其意匠ヲ違クセルヤチ、計較シ、竟ニ此一個物中、我ヲ樂マシメ、我カ好ミニ應スル者、何物ナリヤチ、知ラムト欲ス、然、是必ス可ラサルノ事ニシテ、或ハアリ、或ハナシ、此事ニ至ルト、至ラサルトハ、當時、我カ心ノ情狀ト、其物體ノ存スル時情ト、我カ心ノ從來ノ習熟教育ト、我カ意思ノ慣習トニ、依ルヘシ、是亦專ヲ辨決、比較、區別、決定ノ運用ニシテ、純然タル靈智上ノ發作ダレハ、此許多ノ物、前ニ舉ケタル所ヨリ、別種ノ程度ニシテ、新元タルニハ非ス、是即チ、同シク此心ノ決定肯定ノ用ナレ、唯其物ノ美妙タルニ於テスル耳、ナラスシテ、何物カ、美妙タラシムル、何故ニ、能美妙タルト云フニ、於

テスル耳

此效用ノ 一致ナル 一論ス 余今又、此經驗ヲ更メテ、之ヲ他物ニ於テシ、他ノ工作ニ對坐ス、譬ヘハ、他ノ藝術家ノ工作、畫工ノ圖畫、工匠ノ建築、樂工ノ音樂、詩人ノ詩句、説家ノ

辨論ニ於ルカ如シ、總テ天然若クハ藝術ニ於テ美妙タル者ヲ、觀察スレハ、何レノ時ニテモ、余同一ノ效驗ヲ知覺シ、實ニ、我カ心ニ、同一ノ現象ヲ生スルヲ知ル、故ニ、余斷言ヲ立テ、以謂ヘラシ、此效用ハ偶然ニシテ、生スル者ニ非ス、必ス我カ性ノ成分ニ、由ル者ナリ、是特別ノ時例ニ、關スルニ非ス、心ノ發作ノ、概通ノ理法ニ關スルナリト、故ニ語ヲ更メテ言ヘハ、此心ハ、此ノ如キ物體ニ就テ、此ノ如キ方法ニ由リ、印象ヲ受ルノ性ヲ有シ、又上ニ云ヘル如ク、之ヲ辨決裁別スルノ能力ヲモ、有スルナリト、然ラハ、所謂美妙ノ現在ニ於テ、挑起セラレタル心上ノ現象ハ、其本體タル、此二元行ニ、約マルナリ

之ニ就テ 然ラハ則チ、此心ノ勢力ヲ徵スル爲ニ、用ヒタル雅趣ノ觀念ニハ、此兩元

ノ疑問 行ノ中、孰レカ、之ニ當ルヘキ、美妙ヲ見ル時、情ヲ生スル性ニシテ、感動ノ



義ハ前ニモ云ヒシ如ク、兩者ヲ兼チタリ、此語既ニ兩者ヲ徵ス、而テ美妙ノ觀内、心上現象ノ分解ニ於ルモ、亦兩者ヲ兼レハナリ

第一元ナラサルヲ論ス

是或ハ、第一元ナラサルヲ得ムヤ、余ハ然リト思ハス、雅趣ハ、徒ニ情ニ非ス、又徒ニ情ヲ生スルノ性ニ非ス、今ソレ、兒童若クハ夷狄ノ人、雅趣ニ乏シト謂フヘシ、然レ其天然若クハ藝術ノ美妙ヲ觀ルニ及ヒテハ、之カ爲ニ攪動セラル、ノ深キコト、教育アル人ニ於ルカ如シ、加旃、其情、或ハ之ニ過ルコトアリ、故ニ、教育アル人ノ、全然視テ以テ、平常ナリトスル物ト雖モ、兒童若クハ、夷狄ノ人ニ在テ、大ニ娛樂ヲ盡シ、驚歎シテ、之ヲ觀ル、是情ヲ生スルノ性ハ、雅趣ノ高キヲ示スニハ非ス、此ノ如キ事例ニテハ、雅趣ノ乏キヲ、確示スヘキナリ、是等ノ人ハ、教育雅正ナル人ノ、卑視スル物ヲ好ムコトアリ、是攪動ヲ受ルノ勢力ハ、唯感性ニシテ、感性ハ、雅趣ニハ非ス、唯兩者密ニ相關スルノミ

雅趣ハ靈智上ノ元行タルヲ

然ラハ則チ、雅趣ハ、此心ノ裁別ノ勢力ニシテ、我ヲシテ、云々ノ物ハ、美妙ナリ、云々ノ物ハ、美妙ニ非スト、言ハシメ、或ハ能時トシテハ、我ヲシテ、何カ故ニ、其物ハ、美妙タリ、若クハ、何レノ處ニ、美妙ハ、寓セリト、其因由ヲ決

二元ヲ區別スル道理ヲ論ス

セシムルニ、足ル者ナリヤ、即チ更メテ云ハ、雅趣ハ、其運用ニ於テ、情ノ元行ヨリモ、靈智ノ元行ヲ徵スル者カト、此ノ如ク問ハ、余ハ、此見解ニ層正シト、思フト謂フヘシ、情ヲ生スルノ性ハ、此事ニ關スルコト、疑ヒナク、雅趣ト相共ニシテ、其運用ノミナラス、其存在ノ基礎タリ、然レ、是即チ雅趣ニハ非スシテ、其定義中ニ、之ヲ含蓄ス可カラサルナリ、哲學上ノ講究ニ於テハ、情ト、情ニ先テ、情ヲ起ス所ノ、靈智上ノ知覺ト、區別シ、又知覺ト、知覺ニ本ツキテ、起ル感覺ト、區別スルハ、常ナリ、故ニ、此ノ如ク、雅趣即チ靈智上ノ美妙ノ知覺ト、其物ノ觀ニ於テ、挑起セラレタル感覺感動ヲ、區別スヘシト、思フナリ、美妙ノ觀中ニ、此二元ノ存在シテ、兩ツナカテ、心ノ現象ノ別次ニ班スルハ、明々ナル事實ニシテ、是ニ由テ、兩者ヲ取テ、一語ヲ以テ徵ス可ラス、同一定義ニ、含蓄ス可ラスト云フノ道理ナシ、寧ロ此兩者ヲ、細心ニ區別スヘシト云フ、道理アレハナリ、此能力ノ精密ナル性質ヲ、一層明カニ知り得ヘキハ、一層特別ニ、雅趣ト、辨決ト、又感性トノ關涉ヲ、考察スルニアリ

雅趣ノ辨

上ニ取レル見解ニ從ヘハ、雅趣ハ吾人辨決ト名クル心ノ勢力ニテ、此一



決ニ關シ 般ナル勢力ノ一種ノ變化即チ一種ノ方向ヲ異ニスル者ナリ即チ是美  
 タルヲ論 妙ニ就テ運用スル辨決ナリ辨決ノ官司ハ説ヲ作り信ヲ起シ關係ヲ知  
 スラシメ此物ハ云々タリ是ハ是タリ彼ハ彼タリト決スルコトニテ之ヲ  
 意思ノ諸局部ニ用フル時ハ其發見スル形狀種々ニシテ世ニ知ル、名  
 目モ亦種々ナリ之ヲ現實知覺ニ供スル物ニ用ウルハ之ヲ悟性ト名ケ、  
 抽象上ノ真理ノ圈內ニテハ理性ト云フ別名ヲ稱シテ發作シ實行上ノ  
 道理ニ關スル圈內ニテハ吾カ爲ス事ノ善ナリヤ正ナリヤチ判シテ之  
 チ世ニ燭知ト稱シ理想ト美妙トノ圈內ニテハ之ヲ雅趣ト名ツク總テ、  
 此心力發動ノ諸局部ニ發現シ自ラ此諸題目上ニ使用セラレ我ニ説ヲ  
 立テシメ信ヲ起サシメ知識ヲ賦シ總テ與カラサルコトナシ今此辨決  
 チ美妙ノ關涉ニ運用シ即チ美妙ヲ觀察シ之ヲ比較シ之ヲ區別シ之ヲ  
 決定シ之カ説ヲ作り竟ニ之ニ達ス此ノ如クスルハ其物ノ美妙タルト、  
 美妙タラサルトノ着實ノ知識タルノミ是即チ吾人特別ノ時例ニ當ル  
 辨決ナリト謂フ所以ニシテ此ノ如ク運用セル辨決ヲ雅趣ノ名ヲ以テ  
 稱スルナリ猶一層嚴密ニ之ヲ言ハハ此ノ如キハ其一定ノ時例ニ當リ

此一種ノ方法ニ於テ此辨決ヲ運用スルコト耳ニ非ズ之ヲ運用スル基  
 礎ノ地トシテ心ニ此裁別スル能力ヲ具スルコトニテ之ニ依テ此ノ如  
 ク運用スルヲ得ルナリ

裁決ハ觀  
 念ヲ賦セ  
 サルヲ論  
 ス

然ラバ則チ裁決ハ元來我ニ眞妙善ノ觀念ヲ賦スル者ニ非スヤト問ハ  
 ハ余等之ヲ肯定スル能ハス辨決ハ觀念ヲ生セス觀念ノ本源ト其人  
 ニ提起セラルハ其法蓋シ別ナリト謂ハサルヲ得ス美妙眞實至善ハ  
 純然至極ナル遠永ノ理トシテ存スル者ニシテ是皆上帝ノ心ニ具ハリ  
 又造化ノ工物ニ具ハル者ナリ又一定ノ意旨ニテハ上帝ニモ關セズ神  
 之ヲ造ルコト能ハス之ヲ覆ヘスコト能ハス又其性ヲ變スルコト能ハ  
 スシテ唯之ニ從ヒ以テ其造化ヲナスナリ故ニ是皆造レタル者ニ非ス  
 シテ唯神ノ爲ス所チ之ヲ以テ表スル耳吾人ハ性ヲ賦セラレ此理ヲ認  
 識シ又之ヲ以テ印象ヲ稟シル爲ニ適當ナル形體稟賦ヲ有スル者ナリ  
 其故何如トナレハ吾人ノ世ニ在ル我カ眼前ニ過キ我カ周匝ニ在ル物  
 ニ就テ理性一度靈知ノ眼險ヲ開ク時ハ直チニ真理ノ觀念美妙ノ觀念  
 性理上ノ至善ノ觀念我カ心ニ發生シ以テ我カ智識ニ供シタル物體中



ニ三者ノ現存スルヲ知覺感受スルコト本能ノ如シ然リ是皆我ノ覺性ニ由リ我カ住スル外界ト抵觸シタル時我カ道理ヲ辨スル靈智ノ産スル所ナリ美妙ノ觀念正善ノ觀念ハ一度此心ニ提起セラレタル時後來是ニ法トリ或ハ之ヲ犯スコトアレハ辨決ニ依テ其事例ノ本來カノ一種ノ名稱内ニ入ルヘキヤ否ヤヲ決スルノ運用チナスナリ而テ此ノ如ク美妙ノ目的ヲ以テ運用シタル辨決チ吾人雅趣ト呼ヒ正善ノ目的ヲ以テハ之ヲ獨知ト名ルナリ

上ノ定義  
ノ雅趣ヲ  
論ス

上ニ其義ヲ限定シタル如ク雅趣ハ其理ニ於テ此心ノ裁別スル勢力ノ天然若シハ藝術ニ於テ美妙高大ナル目的ニ發現スル者ナリ是此心ノ勢力ノ中一定ノ情狀形質樣法ヲ具スル者ニテ心ノ培養ニ關シ一ニハ生國ノ異ヨリ又天稟ノ異ヨリ一ニハ教育風習ノ異ヨリ相資シテ以テ之ヲ成シ依テ以テ天然若クハ藝術ニ於テ現存セル者ニ就テ其美妙ト醜惡ト功用ト不用トヲ多少正當ニ辨斷シ得ル者ナリ是苟モ我カ驚歎ニ供スル物體ナルハ其真ニ美妙タリヤ或ハ幾分カ美妙タリヤ又吾人之ヲ觀ルニ當リ我カ情ヲ興起スルニ足レリヤ是皆辨シ得ヘキ所ナリ

而テ吾人チシテ此諸物ニ就テ苟モ能正當ニ之ヲ視察シ之ヲ比較シ之ヲ裁別シ之カ說ヲ作り之カ斷言ヲ下スニ至ラシムレハ我ノ雅趣好佳ナリト云ヒ之ニ反スレハ疎惡ナリト云フ然ルニ其雅趣ノ善惡ニ就テハ全然天稟ニ關スル者ニ非ス又他事ニ於テ其辨決力ヲ培養開發シタリト雖也其開發ノ度ニハ總テ關スルコトナシ是全ク天然若クハ藝術ノ美妙即チ特ニ雅趣ノ目的タル物ニ就テ其心ヲ培養習熟シタル上ニ關ス人能雄壯ノ心ヲ有シ悟性穎敏他事ニ於テ果決剛斷ナル者アレ也是必ス雅趣ニ於テ佳好ノ人ヲラス雅趣モ亦心ノ他ノ能力ノ如ク其培養ヲ要スル者ナリ

雅趣ト雅  
趣好佳ト  
ノ別ヲ論  
ス

雅趣ト好佳ナル雅趣トハ之ヲ區別スルコト緊要タリ許多ノ著者此語ヲ混用セリ今此人ハ雅趣アル人タリト云フハ是其雅趣好佳ナリトノ意ナリ又此人ハ總テ佳趣ヲ有セスト云フハ雅趣生疎ナリトノ意味アルカ如シ之ヲ嚴密ニ語レハ今夷狄ノ人其面ニ黥シ其體ニ鬻ヲ鳥羽ヲ裝シテ其形體ヲ毀壞シテ悅フ者其實廣徧ノ花公子ト巴里ノ紳士トニ異ナルナシ是夷狄モ亦此事ニ就テ辨決シ又能之ヲ運用スルノ能力チ



有シ其辨決ノ本法アリテ爰ニ至レルナリ故ニ是亦趣味ノ人ダリトハ  
謂フヘシト雖モ雅趣ノ人ダリトハ謂フ可ラス是其自己ノ念ヲ有スヘ  
シト雖モ其念ハ吾カ徒ト一致セズシテ能教育ヲ受ケタル人ノ此事ニ  
於テ指導ヲナセル例規ト本則ニハ全ク乖戾セリ故ニ適宜ト當然トノ  
念ヲ破リ吾人ヲシテ厭惡ト嘲笑ノ情ヲ發セシム故ニ全體ニ於テ吾人  
此ノ如キ人ヲ以テ此事ニ就テ知ルナシトシテ定メサルヲ得ス

雅趣ト感  
性ノ關涉  
ヲ論ス

今マテ余唯辨決ノ關涉ニ就テ雅趣ヲ論シタリ然ルニ又感性トノ關涉  
ヲモ論スルコト緊要ニシテ雅趣ト感性トハ屢混スルコト多シ此兩者  
其實全ク相異ナリ感性ハ今雅趣ト相關スル所ノミニ就テハ美妙高大  
ノ觀ニ於テ此心ノ情ヲ生スル性ニシテ雅趣ハ同一ノ觀ニ於テ辨決ヲ  
ナスノ性ナリ關性ハ此心ノ情狀勢力ト云フヨリモ寧ロ發作トシテ觀  
ルヘクシテ美妙ナル物體ヲ觀ルニ當リ提起セラレタル感動ナリ而テ  
雅趣ハ之ニ就テナシタル辨決即チ說ナリ既ニ云ヘル事例ノ如ク余壯  
麗ナル彫像若クハ圖書ノ前ニ立ツ時ハ是我ヲ攪動シ我ヲ奪ヒ我ニ娛  
樂ト驚歎ヲ起サシム然レ是ノミニテ直チニ余カ雅趣ニ非スシテ唯感

兩者必ス  
相均稱ス  
ル者ニ非  
ルヲ論ス

性攪動ヲ受ケ運用ニ發スルノミ此時余我カ前ノ物體ヲ藝術ノ物トシ  
テ其功用ト不用トニ就テ余カ說ヲナス爲ニ之ヲ辨決セムトス此ノ如  
クシテ余カ雅趣ハ通用ニ發スルナリ  
此兩者ノ本元ハ固ヨリ別ナルノミナラス一ツ心ニ二ツノ者均稱シテ  
存在シ又均シク開發スルコトモ必トス可ラス故ニ其感性極メテ活潑  
ナル人必ス精密ナル佳趣アル人ニ非ス恐ラクハ概シテ其人ニ非ルナ  
リ兒童若クハ教育ナキ農夫黑奴ノ如キ美妙ナル形容ト美妙ナル彩色  
ニ於テハ甚ダ之ヲ娛樂スル猶哲人ノ如シ然レ其好ム所ノ物ニ於テ何  
故ニ攪動セラルヤ是何物カ然ラシムルヤヲ辨解シ能ハサルナリ且  
又此徒ハ其眞ニ美妙タル者ト驚歎スルニ足ラサル者トチ裁別シ能ハ  
サルナリ故ニ佳趣ナキ感性アルトセハ其裏面ニ就テハ佳趣ハ高度ニ  
達スレハ之ト相一致スル感性ノ度モ必ス同シク伴ヒ來ルヘシト謂フ  
可ラス故ニ博學ニシテ鑒識アル人ハ好佳ニ對シテ尤モ其樂ミヲ享ク  
ルノ人タルヲ必トス可ラス而テ巧妙ナル樂手ハ兒童ノ其樂ヲ聽キテ  
稱歎娛樂交至ルニ比スレハ音樂ニ於テ佳趣ヲ有スル一層多シト謂フ



可シ、唯吾人須ク此諸人ノ間ニ就テ、孰レカ最ニ感動セリヤト、其顔色ニ  
徴シテ、知ルヘキ耳

感性ハ佳  
趣ト合併  
スヘキヲ  
論ス

然レ、余ハ前論ニ據テ、感性ノ高度ハ、其趣ノ高度ト共ニ、相容レテ存ス可  
ラスト、引證セサルナリ、士低瓦的氏ハ此説ヲ取レリ、其言ニ以謂ヘラク、  
此ノ如キ事例ニテ、感動ハ、辨決ト均シク、混合スルナリト、蓋シ、其感動、甚  
ク高ク挑起興發セラル、時モ、其時間ニ、辨決ノ平心深思ノ運用ト、相混  
合スルハ疑モナシ、然レ、若感性乏キ時ハ、佳趣多カルヘシト、謂フ可ラス、  
余今、美妙ナル山水、若クハ、畫圖ヲ視テ、一モ快樂ヲ覺エサル時ハ、其巧拙  
ヲ比較シテ以テ、我ヲ勞スルコトヲ、好マサルヘシ、此ノ如キ時ハ、何物カ、  
我カ好ミニ供シ、何故ニ我ヲシテ、之ヲ好マシムルト、講究スルハ、無益ニ  
シテ、其實、何モ我ヲ樂マシムルコトナシ、故ニ、此ノ如キ時、例ニテハ、辨決  
ヲ運用スルノ意モナク、又其發作ヲナス機會モナシ、是此ノ運用ヲナス  
基礎ノ眞、既ニ缺ケタレハナリ、故ニ、感性ノ活潑ナルハ、雅正ナル趣味ノ  
根基ニシテ、其地礎ノ上ニ、雅趣ヲ立ツベシ、是其發作ノ源且生力ト謂フ  
ヘシ、故ニ、此ニツノ者ノ關涉ハ、稍才智ト、學問トノ如シ、是必ス、均一ノ度

ニ存スル者ナラサレ、絶テ交互ニ、相容レサル者ニハ非ス、譬ヘハ、心ノ  
力量發動ハ、高度ニ及ヘ、之ト相通スル學術ナキ人ハ、アルヘシト雖、  
少シモ、心ノ力量發動ナクシテ、學力アル人ハ、ナキカ如ク、雅趣多カラサ  
ルノ感性ハ、アリト雖、感性ナキ雅趣ハ、在ラサルナリ、蓋シ、雅趣ナル者  
ハ、大率、學習培養シタル術藝ニシテ、感性ハ生來ノ天賦ナリ、故ニ、感性ハ  
開發シ、熟達シ、培養ス可シト雖、之ヲ學フ可ラサルナリ、才智ハ生シ、感  
性ハ驚歎シ、雅趣ハ裁決ス、其作用ハ、交互ニシテ、雅趣、能輕易浪放ナル感  
性ヲ、改正控勒スル時ハ、感性ハ反テ、其地ヲナシ、其材料ヲ供シテ、最後ニ、  
雅趣其處決ヲ行フヘシ

雅趣ノ培  
養ヲ論ス

余等、既ニ心ノ一勢力、美妙ヲ、認識スル者ノ性質ニ就テ、嘗テ計リタル如  
ク、多少意ヲ加ヘテ、之ヲ講究シタリ、然ルニ此連絡ニ於テ、此勢力ノ培養  
ニ就テ、猶數言ヲ費サ、ルヲ得ス、雅趣ハ、靈智中ノ一能力ニシテ、知覺ノ  
勢力ニ屬シ、辨決ノ事タリ、此ノ如キヲ以テ、此兩ツナカラ、培養スヘキ者  
ニシテ、之ヲ要スルナリ、總テ心ノ發作ノ諸狀中ニ於テ、其完全ナル開達  
ヲ要スルニハ、吾人辨決ト云フ總名ヲ、附シタル一種ノ勢力ヨリ、培養習



熟ニ關スルコト、一層切ナル者ハ、非ス、而テ、辨決ノ諸狀中ニ就テハ、雅趣ト名クル者ヨリ、一層切ナルハ、莫シ、其心、美妙ノ精微ナル知覺ニ於テ、培養ナキ、習熟ナキ、常ニ之ヲ此ニ用ヒサル者ハ、雅趣ノ事ニ於テ、正シク辨決スルコト能ハサルハ、猶遠近大小、若クハ、諸體化學上ノ性質ニ就テ、之ヲ辨別スルニ習レサル人ノ、此事ニ就テ、正シキ決斷ヲナスコト、能ハサルカ如ク、一般ナリ、是ヲ以テ、是其藝術ニ依テ、習慣シ、練馴ニ依テ、熟達セサル可ラス、是美察ノ理法ヲ朋友トシ、其形體ト交通セサル可ラス、總テ天然物ニテモ、藝術ノ工作ニ於テモ、其美妙ヲ視察シ、習熟スルコト、之ヲ裁別シ、之ヲ比較シ、之ヲ辨決スルコト、ヲ學ハサル可ラス、カノ世々ノ好尚ヲ受ケ、天下ノ批判ニ就テ、名譽アル文章學ノ諸本、藝術ノ諸作、并ニ、現在世人ノ稱美スル天然ノ諸物ハ、徒ニ、視察ノミヲ以テ、之ニ習熟スル耳ナラス、又細心ニ、之ヲ、玩味セサル可ラス、此ノ如クシテ、雅趣ハ、始メテ培養ヲ得クリト謂フヘシ

記傳ノ略

伯拉多ノ 昔人ノ中ニテハ、恐ラシクハ、伯拉多第一ニシテ、始メテ、美妙ノ觀念ヲ、他ノ

見解

一類ノ諸觀念ヨリ區別シ、其具ト、善トノ親和アルヲ指目シ、以テ變易ス可ラサル遠永ノ理ナリト、認識セリ、然レ、善ト美妙トヲ、同一ナリトシテ、藝術上ノ、眞ノ品性ト目的トヲ、錯認セリ、伯拉多以前、又伯拉多サヘモ、藝術美妙ハ、唯、蘇倫學ト、政事トノ連絡ニ於テ、之ヲ論シ、科學中一部タル美妙論ハ、昔人ノ知ラサル所ナリキ

亞立斯度德ノ見解

亞立斯度德ハ、美妙ノ事ヲ論セス、唯傳寄體ノ術ニ就テ、説ヲナセリ、以謂ヘラク、詩ハ、摸擬ノ意向ト、知ルヲ願フ欲トニ生スル者ナリ、而テ、悲曲ノ傳寄ハ、一層善キ者ノ摸擬ニシテ、畫圖ハ、是ト同シク、今在ル所ヲ表スルニ非ス、在ルヘキ事ニ屬スル者ヲ、表スル者ナリト、此旨趣ニ據テ、其深奧ナル指目ハ、詩ハ、史傳ヨリモ、眞ナリト云フニ在ルヲ、曉ルヘシ

伯魯埜尼斯并ニ奧加斯丁

亞氏ノ後ニハ、伯魯埜尼斯及ヒ、奧加斯丁ノミ、昔人ノ中ニテ、美妙ヲ論シタリ、奧加斯丁ノ書ハ、今存スルナシ、唯其説ニテ、美妙ハ、諸部ノ合一和諧中ニ生スル、猶音樂ニ於ル如シト云フコト、世ニ知ル所ナリ、伯魯埜尼斯ノ論ハ、人視テ以テ、美妙且深奧ナリトスル所ニテ、其説、物質ノ美妙ハ、唯精神上ノ美妙ノ、表現反射スル所ナリ、人心ニ在リ、唯靈魂ノミ、美妙ニシ



テ、美妙ヲ愛スルハ、其靈魂、自己ノ照影ノ、彼處ニ表見シタルヲ、愛スルナリ、故ニ、美妙ヲ曉會感覺スルニハ、其靈魂、自ラ美妙ヲラサルヲ得スト、此考ヘノ偏スル所ハ、神祕學ニ陷ルナリ

論治尼斯  
并ニ堅智  
利安

論治尼斯及ヒ、堅智利安ハ、唯好辯學ト、談說術トニ就テ、高妙ノ因ヲ論シ、又何羅斯モ、藝術中ニモ、詩ヲ以テ、此高妙ニ達スヘシト論セリ

倍根

新哲學ノ中ニテハ、倍根、科學ノ中ニ、巧藝アリトシテ、之ヲ取り、詩學ヲ以テ、人間知識ノ三大部ノ一トセリ、然レ、余カ見タル所ニテハ、一モ美妙ニ就テ、別ニ部ヲ立テ、論セシキ見ス

萊武尼多  
ノ學派

日耳曼ニテ、萊武尼多及ヒ、俄爾布ノ學派ニテ、創メテ、美妙ヲ、一種別ノ科學トナセルコトアリキ、俄爾布ノ門人、慕謨荷爾天始メテ、此勸念ヲ理會シケリ、然レ、伯拉多ノ如ク、美ヲ以テ、善、并ニ、道德ト同一體ナリトナセルコト、殊ニ過甚ナリ

祿可ノ學派

英吉利ニテハ、美妙ノ事ニ就テ、祿可ノ學派ニ、說多シ、沙布垓斯、佛黎并ニ、哈車孫ハ、既ニ上ニ云ヒシ如ク、美妙ト、至善トナ、明カニ區別セシメテ、差異中合一ノ考ヘヲ取レリ、而テ、苛加爾多亦、同一種ニ陷リ、其觀念ニテハ、

波線ノ譬喩ニテ、美妙ヲ表セリ、又、波爾加ハ、高大ト、畏懼スヘキ者トナシ、分ニ區別セサリキ

佛朗西ノ  
連環字類

佛朗西ニテハ、連環字類家ノ說、其本體、祿可ノ學派ト相符シ、美妙ヲ、首トシテ、道德ノ體段ヨリ論シタリ

近日ノ日  
耳曼

日耳曼ニテ、再ヒ巧藝家ニテ、哲家ニハ、非ル、榮厄拉文ト云フ、人、希臘ノ藝術ノ精神ニ貫通シ、伯拉多ノ如ク、美妙ノ觀念ヲ、神ニ歸着シ、美妙ハ、其表象トシテ、神ヨリ出テ、觀察ニ供スル物ニ於テ、顯ハル、ナリト云ヘリ

此理想上ノ、神ヲ主トスル體段ト、相反シテ、勒士升ハ、一層着實ノ見解ヲ取り、美妙ヲ、現實ノ地位ヨリ視タリ、其後、黑爾的兒、并ニ、翺測亦、美妙學ニ資セル說多シ、然レ、此等ハ、總テ、韓圖ノ爲ニ、路榛ヲ闢キタルノミ、而テ、韓圖ニ至リ、一層其深奧ヲ極メ、之ヲ以テ、哲學ノ講究ニ供シ、其說、美妙ヲ以テ、主觀ノ事ニシテ、想像力ノ運用トナセリ

酒兒林并

叙拉列兒ハ、美妙ヲ以テ、理性ト感性トノ相合シテ生スル所ナリトシタリ、酒兒林ハ、美妙ノ精神上即チ、理想上ノ考定ヲ開キ、俾歌兒ハ、此考定ヲ述



二俾歌兒

テ其完全ナル科學ヲ作り、諸藝術ヲ彙類シテ之カ分解ヲナセリ、故ニ其書ハ巧藝ノ哲學ニ於テ、創メテ完全ナル論究ヲナシタル者トシテ、視ルヘシ、其書ハ、朋亮雄健、且深奥、分解ノ力、想像ノ富メル、實ニ一ノ品性ヲ具セリト謂フヘシ

シツプロワ

猶佛魯哇ノ考定

佛朗西ニテ、近日ノ著家中ニテ、猶佛魯哇美妙ノ哲理ヲ論セルコト、其法極メテ完全、歎稱ニ堪エタリ、其考定ハ、俾歌兒ニ本ツキテ、些ノ變更ヲ加ヘタリ、是前章ニ、此事ヲ論シタル如ク、實ニ一家ノ考定ニシテ、即チ知覺ニ供スル形體中ニ、精神上ノ隱然タル元行、表現スルト云フ説ニシテ、猶佛魯哇ヲ措キテ、他ニ學習スヘキ著述ナシ、其書、詳明雄拔、分解ノ力アル驚クニ堪エタリ

驚クニ堪エタリ

クワザン

項參

摩埜爾抹

選擇學ノ中ニテハ、項參ノ真理、美妙、至善ノ論說ハ、正當ナル表章多ク、自ラ其文辭絢爛、哲家ノ詳微ヲ悉セリ

ムタルセツト

英吉利ニテハ、既ニ引用シタル諸書ノ外ニ、摩埜爾抹ノ雅趣ヲ、表章セサル可ラス、是雅趣ノ性質ト、物品トチ、十分ニ能論セル者ナリ

第四篇 正直ノ觀念、并ニ其認識ヲ論ス

第一章 正直ノ觀念

正眞ノ觀念ハ此心ノ理會タルヲ論ス

人心ノ器具タル諸理會ノ中、一ノ理會アリ、其狀總テノ他ノ理會ト、異ナル所多クシテ、并ニ又、總テノ他理會ヨリモ、一層切要タリ、是乃チ、正直ノ觀念、即チ、其觀念ナリ

其普通流行ヲ論ス

今、吾人、何人タルヲ論セス、道理ヲ知ル靈智ヲ具スル一體アリテ、有意ノ動作ヲナス時、其何事タルヲ論セス、之ニ我カ意ヲ注意スル時ハ、吾人、自ラ其事ノ品性ヲ唱ヘテ、正シキ行爲トシ、或ハ正シカラサル行爲トスルコト、屢ナルヲ見ル、是其行事、較著ナル非常ノ品性ニシテ、之ヲ觀察スル時ハ、殊ニ此事例ニ當ル者ニシテ、率爾トシテ、其事ハ、正シヤ否ノ、題問ヲ起スナリ、或ハ又、其事ニ就テ、自ラ意識ニ省ルコトナク、又曾テ、疑問ニ及フコトナク、其行事ヲ、我心ニ領解スル瞬間ニ、我カ裁決、既ニ出テ來リテ、此事ハ正シ、其事ハ邪マナリト、云コト、蓋シ鮮カラズ、唯吾人、其事ニ就テ、裁決スルハ、或ハ正當ナルアリ、或ハ正當ナラサルアリ、又其行事ノ眞實ヲ、知覺スルハ、明亮ナルアリ、或ハ曖昧ナルアリ、又我カ心ヲ感動スルハ、或ハ強烈ナルアリ、或ハ淡薄ナルアリ、是皆吾人ノ心ノ慣習ト、我カ心性



ノ氣象ト、又一ハ、我カ道德力ヲ培養シタル度ニ關シテ、各差異ナキヲ得サルナリ、又人、其心タル、極メテ卑下、其性質タル、極メテ敗壞ニシテ、行事上、道德ノ品性ハ、全然之ヲ顛倒シ、多クハ、全ク之ヲ意外ニ置キ、或ハ少シク、之ヲ覺ルコトアルモ、其感動ヲナス、殊ニ淺キ者アリ、然ルニ、此ノ如キ心ニ在テスラ、正邪ノ觀念ハ、猶其中ニ存シ、縱ヒ、悉ク正當ナラサルモ、人間躬行ノ特別ナル時例ニ逢ヘハ、其悟性能、此觀念ヲ使用スルナリ、今、尋常賦性ヲ有スル心ニテ、天ヨリ稟クル所ノ理性靈智ノ度、少キ者ハ、此觀念ヲ悉ク亡ヒ、總テ自己ト、他人トノ躬行ニ、之ヲ使用スルコト、能ハスト思フハ、理ヲ知ル者ニ、非ルナリ

疑問、并ニ諸種ノ答辭

然レ、爰ニ切要ナル論題アリ、曰ク、此觀念ト、知覺トハ、何處ヨリ來ルカ、其源由ハ何如、又吾人一次、之ヲ曉解スレハ、一行事ヲ指シテ、或ハ正トシ、或ハ邪トス、是何ヲ以テ、然ル、是ハ、何如シテ爲シ得ヘキ、又、吾人、此念ヲ以テ、何如シテ、事ニ應スル、是皆疑フヘシト、此事實ハ、固ヨリ然ルコトナリト雖レ、其解釋ハ、亦區々ナリ、一種類ノ著述家ニ在テ、ハ、我カ此性ノ觀念ヲ、教育ト、風習トニ歸シ、他ノ著述家ハ、之ヲ法制ノ控勒ニ歸シタリ、而テ、

其法制ハ、人設ト神造トノ別アリトシ、又他家ハ、更ニ此觀念ヲ以テ、人性ノ萌芽トシ、或ハ之ヲ一特別ノ覺性ノ運用ナリトス、以謂ヘク、是天ノ一特別ノ用ニ、供スル爲ニ、賦スル所ニシテ、視聽ノ爲ニ、耳目ヲ賦セルカ如シト、又或ハ之ヲ、一定ノ相伴結セル情ヨリ生シ、以テ此作用ヲナスナリトセリ、而テ、他ノ著家ハ、之ヲ觀テ、辨決ノ運用中ニ、發生スル者トシ、又他ノ諸家ハ、更ニ此心ノ、天然ノ直覺力トシ、道德ノ性質ヲ具セル事ニ就テ、運用セル理性ナリトセリ

問題ノ大別

此疑問ノ大別ハ、此觀念ハ、天然ニ出ルカ、或ハ人造ニ屬シ、學ヒテ得ヘキ、者カト云フニ往リ、果シテ人造ニ出ルカ、是教育ノ爲ス所、若クハ、法制控勒ノ爲ス所タルヘシ、又若ク、天然ニ出ルトセハ、一特別ノ覺性ノ效驗トシ、或ハ、伴結セル情ノ效驗トシ、之ヲ感性ニ歸スルヲ得ヘシ、若クハ、辨決ノ能力ノ效驗トシ、之ヲ靈智ニ歸シ、若クハ、理性ノ直覺トナスヲ得ヘシ、此觀念、果シテ教育、摸擬ヨリ來ルカト、祿可、巴禮、其他諸人ハ、此ノ如ク定メタリ、祿可ノ此見解ヲ取ルニ至リシハ、總テ其哲學ノ如ク、吾人心上ノ運用ニ供スル、日常ノ觀念ノ外、總テ單純ナル觀念ハ、其跡ヲ求メテ、感覺

第一教



ニ至リ、感覺ヲ以テ其源トナセリ、然ルニ、感覺ハ、正邪ノ觀念ヲ覺ユルコト能ハサレハ、言ハスシテ明カナルヲ以テ正邪ハ、天然ノ觀念ニ非スシテ、教育ノ效驗タルヘシト、斷言セルナリ

此見解ヲ駁ス

ソレ教育ト風俗トハ、人心ノ培養ニ於テ、至強ナル器械タルコト、固ヨリ論ナシ、故ニ、凡ソ人間ノ論說、一世ノ好商ヲ現觀シ、其方向ナ一ニスルノ源由ヲ論スルニ至テハ、教育ノ功、固ヨリ忽略ス可ラス、然リト雖、教育風習ヲ事物ノ源由トナシテ、論ス可ラス、是獨格拉士低瓦的、其祿可ニ答フル書ニ、極メテ能明辨セル所ニシテ、是此問題ヲ解クニ完全ナル答辭ナリ、ソレ教育ト摸擬ト、兩ノ者ハ先、道德ノ觀念ト、是非ノ別トノ存在、之カ地ヲナシテ、始メテ可ナリ、是其事ニ就テ、之ヲ指示スルヲ得ヘシ、何トナレハ、始メテ此是非ノ別ヲ教ヘシ者ハ、何如シテ、此ニ至リ又始メテ此是非ヲナス例ヲ定メシ者ハ、何如シテ、自ラ此觀念ヲ有セシヤ、何處ヨリシテ、其人ハ、此觀念ト、是非ノ性トヲ受ケ來リシヤ、之ヲ教ヘ、之ニ例規ヲ下セシ者ハ、ハダ何人ナリヤト、問フヲ得ヘケレハナリ、是此論題ナル考定ニテハ、答フ可ラサル問題ニシテ、觀念ノ源由ニ就テハ、絶テ其解釋ヲ示スコト、能ハサルナリ

第二法 制ノ控勒

然ラハ即チ吾人此觀念ヲ、法制ノ控勒ト其設立トニ由ルト、セムカト或ル有力ナル諸家ハ、此ノ如ク教ヘテ、以謂ヘラク、法度ハ、人ノ立ル所、又神ノ造ル所ニシテ、吾人ヲシテ、其行爲、云々ヲシムルヲ求メ、云々タル事ヲ禁シタリ、是ニ依テ、吾人、元來正邪ノ觀念ヲ得ルナリト

預メ正直  
カ地トナ  
スヲ論ス

然ルニ、是果シテ然ラシメハ、凡百ノ法度ニ先チテ、此ノ如キ觀念ノアラサリシハ、論ヲ待ス、然、法度ハ正邪ノ觀念、先之カ地ヲナシテ、後ニ立ツ者ニ非スヤ、其法度ハ、此觀念ヲ基礎トシテ、此上ニ立ツ者ニ非スヤ、果シテ然ラハ、法度ハ、何如シテ、其法度ノ附屬スル主チ生シ、又其法度ノ地チナス者ヲ、生シ得ルヤ、其初メ曾テ宣布セル法度、或ハ正シク、或ハ正シカラサル者ヲ、ササルヲ得ス、然ラサレハ、亦一モ、道德上ノ品性ヲ、具スルナケレハナリ、若、果シテ、道德上ノ品性ヲ、具スルナシトセハ、正シキニモ非ス、正シカラサルニモ非ル法度、何ヲ以テ能、法度ヲ受クル者ニ、此ノ如キ觀念ヲ、發生セシメ得シヤ、若、又、其法度正シキ者トシ、若シハ、不正ナル者トセムカ、其正不正ノ形質、之ヲ觀ルノ觀念ハ、既ニ其法度ノ先、天ニ存立



セサルヲ得サルナリ、而テ其者ノ何タルニ拘ハラス、法度ヲ作り、之ニ此  
 ノ如キ品性ヲ有セシメタル者ハ、既ニ己ニ自己ノ心裏ニ、正不正ノ觀念  
 ナ、有セサルヲ得サルナリ、吾人、此ノ如キ道理ヲ以テ、問題タル觀念ノ源  
 由ヲ解釋シ能ハサルハ、殊ニ著明ナリ、論シテ此ニ至リ、此問題ヲ解クノ  
 道、一層眞ニ近キヲ覺ユ  
 蓋シ、吾カ徒ハ、此見解ト相反シテ、問題ナル觀念ヲ視テ或直接タリ、或  
 ハ媒接タリ、ト天然ニ具ハル者ニテ吾人ノ性ニ發スル效驗トス可シ、然  
ト猶疑問ノ存スルアリ、是上ニ指示シタル所ニシテ、其孰レニ在ルカハ、  
 之ヲ次ニ見ヨ

ハツチニソシ

【第三】特

別ナル一  
覺性

然ラハ即チ、吾人此觀念ヲ一種特別ナル覺性ニ歸スヘキカト、是哈車孫  
 并ニ、其門人ノ取レル見解ニシテ、祿可ノ說ニ據テ、凡テ吾人ノ單純ナル  
 觀念ヲ、感覺ニ歸シタレ、祿可ノ考定ニ從ヒ、道德上ノ是非ヲ、教育ノ效  
 驗ナリトスルコトニ、服セスシテ、哈氏ハ是カ爲ニ感覺ノ圈ヲ擴張シ、別  
 ニ新ナル一覺性ヲ立テ、之ヲ解釋セムト欲セリ、此新覺性ノ官司ハ、  
 即チ、一種特別ニシテ、此ノ如キ是非ノ別ヲ、認識スル者ナリト、此考定ノ

偏スル所ハ、著明ナリ、此考定ニテ、正不正ノ觀念ヲ、我カ天然ノ性ヨリ、出  
 タリトセリ、是其以テ前ノ諸說ニ、勝レリトスヘキ所ナリ、然レ、猶此觀念  
 ナ、唯感性ノ列ニ、位セシメタリ、是道德ノ事ヲ以テ、徒ニ情思トナシ、徒ニ  
 之ヲ感動ノ事トナシ、吾人感性ヲ具スル性ニ於ケル、衝動トナシタリ、然  
 ラハ、是唯主觀ノ事タルニ過キスシテ、猶色ト味ヒトノ、我カ官具ニ於テ  
 スル衝動ノ如ク、其本然ハ、物體ノ形質ニ非ルト一般ナリ、而テ、此覺性ノ  
 攪動ハ、獨立シテ存スル者ニ非ス、唯我ニ相關シテ、存スル者ナルカ故ニ、  
 此見解ニテハ、道德上ノ是非ハ、徒ニ我カ心ノ、客觀上ノ攪動ニシテ、彼ニ  
 獨立ノ實在アルニハ、非ルナリ

虎謨并ニ、  
詭辯學ノ  
徒ヲ論ス

虎謨ハ此一般ノ見解ヲ許シ、之ヲ究討シテ、其純然ノ極ニ至リ、道德ヲ以  
 テ、徒ニ、我カ性ト、一定ノ物體トノ中間ニ、生スル關係トシ、其行事ノ形質、  
 實在ニシテ、存スル者トナサ、リキ、故ニ此說ニテハ、徳ト惡トハ、色ト味  
 ヒトノ如ク、其明暗甘辛ハ、唯我カ感覺中ニ、在ルノミト

此疑惑學ノ見解ハ、カノ古昔ノ詭辯學ノ徒ノ、講明セル所ニシテ、其徒ハ、  
 人ハ萬物ノ尺度タリ、故ニ、其物ノ長短ハ、唯我カ見ル所ニ、在ルノミト、教



ハタリト

覺性ト云  
フ語ノ糢  
糊ナルヲ  
論ス

是士低瓦的ノ指目セル如ク、此見解ハ、必ス哈車孫ノ考定ヨリ、來リタル  
ニモ非ス、又恐ラクハ、哈氏此ノ如キ見解ヲ、立テタルニモ、非ルヘシト雖  
ヒ、其學派ノ、自然ノ偏尙ニ、由ル者ナルヘシト、是真ナリト謂フヘシ、覺性  
ト云フ語、哈氏ノ用キタル所ニテハ、自ラ糢糊ニテ心ノ知覺ヲ徵スル爲  
ニ用キタル者ナルヘシト雖ヒ、今覺性ト言ヘハ、我カ體性ノ中ニテ、外部  
ヨリ攪動ヲ受ケタル時、我ニ感覺ヲ與フル部分タリト、領解スヘシ、故ニ、  
視聽ノ覺性、嗅味ノ覺性ノ若キ、皆是ナリ、哈車孫ノ此語ヲ用キタルハ、此  
ノ如クナリシト見エ、其譬喩ハ、悉ク其方向ヲ示シタリ、蓋シ其此語ヲ用  
キ、其比喩ヲ取レル、不幸ニシテ、此ニ至リ、又不幸ニシテ、虎謀ノ如キ弟子  
アリテ、以テ其考定ヲ推究シテ、其純然タル極ニ至ルニ及ヘリ  
若シ哈氏ヲシテ、一種ノ覺性ナル語ヲ以テ、唯心ノ直チニ知覺スル勢力ヲ、  
指サシメハ、此ノ如キ能力ヲ認識シテ、問題ナル觀念ヲ、之ニ歸スルコト、  
誠ニ允當ナリト謂フヘシ、然レ、是覺性ト云フ語ノ、本來ノ訓義ニ非ス、又  
徒弟ノ、之ヲ解釋セル意ニモ、非ルナリ

此ノ如キ  
能力ハ明  
證ナキヲ  
論ス

然ルニ哈氏ヲシテ、覺性ヲ以テ、其語ノ本然ノ字義ニテ指ス如ク、感性ニ  
テ、外部ノ物ヨリ、印象ヲ受ルノ性ヲ指シ、我カ覺性ノ官具ヨリ、攪動ヲ受  
ケタル事ト同一類例ナリトセシメハ、首トシテ、其眞ヲ得サルコトアリ、  
何トナレハ、吾人、一モ此ノ如キ一種能力ヲ、有セサレハナリ、此ノ如キ官  
具ニ就テハ、一モ明證ナシ、加旃、其實全ク反言對ニ出ルヲヤ、蓋シ、道德  
上ノ衝動、即チ觀覺ニ就テハ、此假想ニテ、自然表現スヘキ一致、絶テアル  
コトナシ、人ノ耳目ハ、世界中其發動ノ様法、甚タ一様ナリ、故ニ、一人ニ白  
若クハ、赤ト見ユル者他人ニ、黒キニ非ス、又他ノ一人ニ、綠リナルニ非ス、  
一人ニ甘キ者ハ、他人ニ酸キニモ非ス、又辛キニモ非ス、然ルニ、所謂、一種  
ノ官具ニ至テハ、其作用、獨リ是ト反セリ、蓋シ人皆、多少正邪ノ觀念ヲ、有  
セサルナシ、然リ而テ、之ヲ躬行ノ一事列ニ、適用スルニ當テハ、其差異、得  
テ生シ易キ者アリ、一人ノ徳トシテ、善ミスル所、他人、之ヲ譏リテ以テ、罪  
業トナセリ

其必要ニ  
非ルヲ論

之ニ繼キテ、吾人ヲシテ、此種類ノ觀念ヲ、得セシムルニ、一ノ特別ナル覺  
性ヲ、假リテ、之カ助ケヲナスハ、絶テ要セザルコトアリ、蓋シ、祿可、并ニ、哈



車孫ノ信セシ如ク、吾人心ノ運用、即チ意識ニ資スル觀念ヲ除キ、其他、百  
般ノ感覺ハ、究竟感覺ヨリ、之ヲ取ル者ナリト云フハ、眞ニ非ス、吾人既ニ  
眞理ノ觀念、美妙ノ觀念、因由應效ノ觀念、幾何算術ノ諸數、相關スルノ觀  
念、并ニ其他、諸種ノ觀念ヲ有ス、是皆其由ル所ヲ推究シテ、之ヲ五官ニ歸  
スルハ、難事タルヘシ、故ニ果シテ、其言ノ如クナラムカ、是皆正邪ノ觀念  
ト共ニ、之ヲ生スル爲ニ、各、一種ノ覺性ヲ具スルコトヲ要スヘシ

〔第四〕情ノ伴結

然ラハ即チ、吾輩、カノ辨倫學ノ諸家ノ中、此觀念ノ源由ヲ、伴結ノ理法ヲ  
以テ、解釋スル一種ノ見解ヲ、取ルヘキカト、此說ヲ取ル諸家ハ、哈多禮、彌  
爾、馬京士士、并ニ、此流亞ノ諸人ニシテ、此ノ如キ講究ニ於テ、容易ニ擯斥  
ス可ラサルナリ、其見解ハ、以謂テ、ク、道德ノ知覺ハ、一定ノ情アリ、先ッ之カ  
地ヲナシ、相結合シテ生スル者ナリ、其情ハ、感恩、哀憐、厭惡等ノ如シ、是本  
來、他人ノ性質制行ニ就テ、發スル者ナレト、極テ容易ニ、其人ヨリ轉移シ  
テ、其制行ニ遷リ、又其制行ヲ促カセシ性質ニ遷リ、其性質制行ヲ視テ、恩  
形質ヲ具スル者トナスコト、天然ノ如ク然リ、此ノ如ク轉移シテ、相伴結  
シタル時ニ、吾人道義ノ情、又道義ノ知覺ト名クル者ヲ成スナリ、是恰モ

慳貪ハ尋常錢貨ヨリ生スルニ非ス、錢貨ヲ以テ、買ヒ得ヘキ物ヲ好ムノ  
欲ヨリ、生スレト、其欲究竟其好ム所ノ物ヨリ、轉移シテ、其物ヲ獲ルノ方  
略器械タル、錢貨ニ遷ルカ如シ、而テ、同感ハ本是、一定ノ時機ニ處シテ、吾  
人、自己ノ心胸ヲ、感痛スル情ナレト、此感動ヲ轉移シテ、他人ニ遷スヨリ、  
生スルカ如ク、總テノ感動モ、是同シク、伴結ノ理法ニ依テ、自然ニ、他人  
ノ躬行ヲ見テ、生スル者ナレト、竟ニ其人ヨリ轉移シテ、行事ニ遷リ、敵ト恩  
人トヨリ轉移シテ、傷害ト恩惠トニ移リ、而テ、其行事後來獨立シテ、或ハ善  
スヘキ、或ハ罪スヘキ事トナルナリ、凡テ仁惠ナル行事ヲ善シ、其反體ヲ  
罪カルコト變シテ、性質ト化スルハ、此ニ在リ、此性質、此ノ如ク轉移シテ  
化成スル者ハ、獨知ノ一部ナリ、是總テ、他ノ元行タル情ニ於テモ、亦然リ  
此考定ノ、其全備ニ至リテ、學術上ノ體段ヲ具セルハ、首トシテ、馬京士士  
ニ依ル所ニシテ、是ニテハ、獨知ヲ以テ、全ク情思感動ノ事トナセルコト  
ヲ覺ルヘシ、故ニ此ヨリシテ見レハ、一種覺性ノ考定ト、同シ地位ニ立テ、  
大半ハ同シ擯斥ニ屬スヘキナリ、是ニ由テ、カノ情思學ノ名ハ起リ、屢、此  
見解ヲ取レル黨羽各人ヲ、總テ稱スルノ名稱トナレリ、然ルニ、此考定ハ

獨知ヲ以テ徒ニ情思トナスヘキカヲ論ス



上ニ云ヘル如ク吾人ノ道德ノ情思ノ生スル方法ニ就テ稱スヘキ解釋ヲ供シタル如ク見ユルト雖ヒ吾人ノ觀念ト道德上ノ正直ノ知覺トニ就テハ其源由ヲ解明スルコトナシソレ道德上ノ能力ハ徒ニ情思ニハ非ス人皆靈智ノ知覺アリテ一事ヲ正トシ一事ヲ邪トス而テ今論題ナル疑問ハ此知覺ハ何處ヨリ來リ其觀念ハ何ニ本ツキテ立ツカト云フニ在リ然ルニ今此事ノ全體ヲ舉リ之ヲ轉移伴結シタル一定ノ情ニ歸化スルハ是固有正邪是非ノ別ヲ以テ唯行事ノ形質トナシ善徳ト惡行トヲ以テ感性ノ作ル所トナシ此等ヲ取テ以テ感動ノ興起ヨリ之ヲ生シ之ヲ運用スル者タルヲ示スナリ且ソレ正直ノ知覺觀念ヲ許スハ其源由ヲ之カ地ヲナス情ニ歸スルハカノ性理學ノ運用ニ於テ自然ノ次序ト理法トヲ顛倒スルナリ性理學ニテハ情ヲ知覺ニ本ツキ立ルト雖ヒ知覺ヲ情ニ本ツキテ立ルコトナシ吾人始メニ驚動シ愛惡シ而テ後ニ知覺セズ正ニ其反體タリ

其他ノ擧  
斥ヲ擧ク

此論題ナル見解ハ道德上ノ能力ノ事ヲ以テ全シ彼此相關スル事トシテカノ獨知ヲ天然ノ能力トスルヨリモ寧ロ學ヒ得タル能力トセリ是

即チ之ヲ以テ固有ノ本元トスルヨリモ寧ロ情ヨリ變化スル者ニシテ第二ノ運用トナスナリ且ソレ此獨知ヲ以テ其源由ヲ吾人ノ性中純然タル私欲ヨリ取リタルハ亦甚シキ不正ナラスヤ余今人ノ恩惠ヲ受ケ若クハ傷害ヲ受ケ依テ以テ其此ノ如ク我ヲ待シタル人ヲ見或ハ恭敬ノ情ヲ加ヘ或ハ其反體ヲ以テス此感動ヲ余其行事ノ獨立シタル者ト見テ漸次ニ之ニ轉移シ之ト伴結セシメテ竟ニ之ヲ以テ他ノ同種類ノ行事ト伴結セシメ而テ最後ニ余道德上ノ能力ヲ具シ一事ヲ正トシ一事ヲ邪トシテ表言スルニ至ルト豈亦怪ム可ラスヤ

此說ノ事實ニ違フ  
ヲ論ス

此見解ハ其事實ト相違ヒ世ニ能知レタル人心ノ理法ト相忤スルヲ以テ全然取ル可ラスソレ人道徳ノ能力ハ諸能力ノ中ニ就テ其開發最モ夙歲ニ在ルノ一ニシテ既ニ稚兒ノ時ニ顯ハルレヒ學ヒ得タル第二等ノ本元トシテ表見スルニモ非ス其漸次化成長大ナル爲ニ歲月ヲ要シテ轉移伴結シタル情ノ組織セル運用ヨリ發生スルニモ非ス但寧ロ我カ性中ニ固有セル本能ノ元トシテ表見スルナリ

同感ヲ論

亞當士美梭其道德上情思ノ考定中ニ一ノ見解ヲ表セリ是本ト一般ニ伴



ス 結ノ考定中ニ入り之ニ少シク變革ヲ加ヘタル者トシテ見ルヘキ者ナリ其説以謂ヘラク吾人道德上ノ知覺ハ同感ノ情ニ歸ス他人ノ情感ヲ收納スルハ是其情感ヲ善スルナリ若シ其情感ヲシテ同一ノ事物ニ由テ自然ニ我カ心ニ此情ヲ生セシムル者ナル時ハ我之ヲ善シテ當然ナル道理トス故ニ恩惠ヲ受ケタル人ヲ辱ナク思フノ同感ハ我ヲシテ恩惠ノ事ヲ功勞トシテ視セシムルニ至リ傷害ヲ受ケタル人ヲ厭フノ同感ハ其傷害ヲナセル人ヲ罰スルニ足レリトシテ視セシムルニ至ル此ノ如クニシテ過失ノ意ヲ生ス又我カ自己ノ躬行ニ就テ他人ノ情意ニ同感ヲ興セハ我乃チ自ラ善スルノ情ヲ發ス以テ我カ本分トスルノ意ヲ生ス是ヲ以テ道德上ノ諸規ハ唯此ノ如キ情思ノ要略タルニ過キスト」

是見解モ  
意識本ニ  
ツカサル  
チ論ス

從來ノ諸哲家ニ在テハ此元理ヲ取テ十分ニ之ヲ論駁スル者ナク唯此精巧ナル著家ヲ信シテ別ニ意ヲ措クコトナント雖モ吾輩ハ論シテ此ニ至レハ之ヲ完好ナラサル解釋ナリトシテ措クコト能ハス其首トシテ客ムヘキハ吾人道德ノ能力ニ因テ知覺辨決スル時同感ノ元行其間ニ參スルハ意識ニ供セサル所ナリ吾人一定ノ行事ヲ見テ乃チ正トシ

邪トシ而テ之ニ本ツキテ之ヲ善シ之ヲ罪ス是唯其行事ノ正タリ邪タルヲ以テナリ未タ曾テ其行事ニ依テ他人ノ心中ニ興起シタル情ト同感アルヲ以テノ故ニ非ルナリ然リ而テ若上ノ如キ運用ニ於テ我其行事ヲ知ルト我其行事ノ道德ニ關シテ之カ辨決ヲナスノ際ニ當リ情思ノ參スルアラハ吾人素ヨリ之ヲ知リ之ヲ認ムヘシト雖モ之ヲ別ノ元行トセムノミ

同感ハ硬  
要ノ品性  
ナラサル  
チ論ス

且ソレ同感ハ他ノ諸情ノ如ク硬要ノ品性ヲ有スル者ニ非ス況ヤ若シ之ヲシテ心裏ニ道德上是非ノ觀念ヲ提起セシムヘシト假定スルモ道義ノ情ニ至テハ同感ヲ以テ其址ヲ立ルコト能ハス而テ道義ノ情ハ道德上能力ノ裁決ト共ニシテ之カ品性ヲナス者ナルヲヤ

其正直ノ  
大本ヲ論  
ス

然ルニ是ヨリ一層辨スヘキハ此見解正邪ノ大本ヲ不定變易ニ供スル者トシ之ヲ人々ノ情感ニ歸シタルニ在リ果シテ然ラハ吾人一定ノ行事正シカ邪マナルカヲ知リ得テ之ヲ爲シ若クハ之ヲ止ムト欲スルノ前預メ他人ノ之ヲ思ヒ之ヲ感スルハ何如又此事ノ他人ヲ攪動スルハ何如ト之ヲ知ルヲ要スヘシ而テ又且我ノ情感他人ノ情感ト一致スル



ヲ要シ、以テ其見解ト情感ト同感タリ、和合タルヲ要スヘシ、然ラサレハ、其效驗ハ、生セサルナリ、果シテ然ラハ、今一定ノ行事方ニ行ハル、時、他事アリテ、他人ノ情感何如ヲ知ルコトヲ、阻息セシメ、若クハ又、他ノ道理アリテ、我、他人ノ情感ト、其情ヲ同クスルヲ、得サル時ハ、吾人、其事ニ於テ、獨知ヲ有スルコト、能ハサルナリ、若シ其情感ノ變スル毎ニ、吾人、徳道上是非ノ別ヲシテ、遷ラシメハ、吾人一定ノ大本ヲ有スルナク、所謂正義ナル者、純然地歩ヲ占ムルコト、莫クム、是同感ナキ時ハ、本分ノ義務ナク、正義ナク、又、道德ナキナリ

前ノ講究ノ效驗ヲ論ス

余輩、此ニ至ルマテ、未ダ道德ノ觀念知覺ニ就テ、其源由ノ十足ナル解釋ヲ、見サリキ、是、教育摸擬ニ由ルノ、效驗ト見エス、又、法制控勒ノ效驗トモ見エス、其造設、若クハ、學習ニ出タルヨリ、寧ロ、天然ニ出タリト見ユ、然レ、余輩、又之ヲ踪跡シテ、吾人ノ性中、感覺ヲ具シタル部ノ、發作タリトスル能ハス、是亦、一種特別ナル覺性ノ所産ニモ非ス、又一定ノ天然ノ情ノ、結合伴生セル發作ニモ非ス、況ヤ、同感ノ如キ、一情ノ效驗ナラサルヲヤ、然リ而テ、是猶、我カ性ノ一部ニ屬セルコト疑ナシ、試ミニ、一人ヲ、汝カ欲ス

ル處ニ置ケ、之ヲ圍繞スルニ、汝カ欲スル所ニ從ヒ、他ノ感動ヲ、起ス者ヲ以テセヨ、然リ而テ、汝尙其人ニ於テ、少クモ、稍道德上ノ性ノ、發見スルヲ見ルヘシ、實ニ其性ハ、外界ノ情狀ニ因テ、變更スルコトアルモ、曾テ全ク塗抹シ盡ルニ、至ラサルヘシ、然ラハ、則チ、問題ナル觀念ヲ、靈智ニ歸セサルヲ、得サルヤ、較著ナリ、何トナレハ、是既ニ、我カ性ノ感覺アル部ニ、屬スル者ニ、非レハナリ

第五辨決

然ラハ、則チ、是辨決ノ能方ノ、生スル所ニシテ、其運用ナル、莫ランヤ、然レ、辨決ハ、觀念ヲ生スル者ニ、非ス、辨決ハ、計較ヲナシ、分排ヲナシ、價直ヲ商定シ、以テ、其事ノ、何ノ種類、何ノ分類ニ、屬スルヤヲ、決定スル者ナリ、然レ、絶テ、創造スルノ用ナシ、余今、心中ニ、正三角、正圓等ノ觀念ヲ、有ス、而テ一定ノ輪廓アリテ、目ニ觸ルレハ、余直チニ、辨決ノ發作ニ、依テ、其屬スヘキ種類ニ、之ヲ充テ、其或ハ、正三角タリ、或ハ、正圓タリ等ヲ、肯定ス、辨決ノ用ハ、此ノ如シ、然レ、辨決ハ、余カ心ニ、三角、正圓等ノ、根元ノ觀念ヲ、供スルニ、非スシテ、唯既ニ、心ニ在ル觀念ヲ、以テ、用チナス者ナリ、吾人ノ觀念醜惡ノ辨決モ、亦此ノ如シ、一山水、若クハ、一畫圖ノ、美妙タリト云フ、知覺ハ、



一ノ意味ニテハ、辨決ノ作用タリ、然レ是此ノ如ク辨決スル美妙ノ觀念  
チ、既ニ心ノ中ニ在リトシテ、預メ定メタルナリ、道德上是非ノ別ニ於テ  
モ、亦然リ、故ニ、制行ノ道德ニ關スル品性ニ就テ、各自ニ之チ是非スル辨  
決ノ基礎タル正邪ノ觀念ハ、何處ヨリ來ルカ、是目前ノ問題ニテ、未ダ答  
辭ナキ者ナリ、而テ是ニ就テ、唯一箱辭ノ存スルアリ

此美妙ハ、  
直覺力ヲ  
ルチ論ス

問題ナル觀念ハ、直覺ニシテ、理性ノ提起知覺タリト、此見解ニテ、解釋ス  
ルハ、次ノ如シ、理性ノ官司ハ、正邪ヲ辨シ、並ニ眞僞ヲ辨シ、美惡ヲ辨スル  
者ナリ、正邪、并ニ、美惡ト、眞僞トハ、之チ主觀ヨリ觀テ、人心ノ理會トスレ  
ハ、分解法ト、定義トニ、供ス可ラサル單純ナル觀念ニシテ、即チ理性ノ直  
覺ナリ、之チ各觀ヨリ視レハ、正邪ハ、實在ニシテ、事物ノ純全ナル形質、其  
性中固有ノ具ニシテ、假設ニ非ス、人心想像ノ運用若クハ、感發ニ非ス、是  
人心ニ關係シテ、存スル者ニ非スシテ、獨立、本體、普通、純全ナル者ナリ、理  
性ニテ、正邪ノ存在ヲ認ムルヤ、蓋シ此ノ如シ、辨決ハ、唯云々ナル行爲ハ、  
此形質ノ中ニテ、彼チ有シ、若クハ、此チ有シ、一ハ正事タリ、一ハ邪行タル  
チ、斷スル者ナリ、是ニ於テ、爲スヘキト、爲ス可ラサルトノ、義務ノ意生シ、

第一元ヲ  
論ス

是ニ於テ、服從スルニ足レル功德ト服從スルニ及ハサル無益トノ、意識  
發ス、此知覺ニ、伴ヒ、情モ亦興ルト雖ヒ、唯之チ基礎トシテ、生スル耳、情ハ、  
情思學家ノ肯定セル如ク、觀念并ニ知覺ヲ生スル者ニ非スシテ、觀念ト、  
知覺トハ、情ヲ生スル者ナリ、吾人ハ、行事ニ就テ、其道德上ノ形質ヲ觀レ  
ハ、一定ノ情ヲ感發ス、是我カ稟生ノ性ナリ、然レ、此道德上ノ形質ノ觀念  
ト、知覺トハ、必ス先ツヘキ者ニシテ、之チ生スルハ、理性ノ官司ナリ  
一定ノ單純ナル觀念アリ、是皆人ノ悟性ノ第一等ノ本元トシテ、視ルヘ  
キ者ニシテ、悟性ノ運用ニ、少ク可ラサル者タリ、即チ、普通、純全、必要ナル  
諸觀念ニシテ、人心存在、人心同一、時間、空間（此ニツハ、物質ノ存念ニ關ス）  
數、因縁、并ニ、數學上ノ關係ハ、皆此種ノ觀念ナリ、眞理、美妙、正直、及ヒ、其反  
體ノ觀念モ、此種類中ニ位スル者ニシテ、論辯、并ニ、道德ノ基礎タル本規  
ハ、皆此ニ在リ

何如シテ、  
提起セラ  
ル、ヤチ  
論ス

直念ノ知ハ、一ノ意味ニテハ、嚴ニ取テ、原生トナス可ラサルモ、同生トナ  
ス可シ、是吾人ノ性、并ニ、稟生中ニ居ニタル發作ノ基礎ナリ、此心、開發シ  
テ、一定ノ度ニ達スレハ、直チニ現出ス、唯現出チ促カスト、慢ニスルトハ、



境遇ニ由ルノミ、故ニ其發生ノ時チ得ルハ、機會ニ關スト雖也、然也、人ノ  
 靈魂ノ、自然天然ノ開發ニ非ル莫シ、即チ實ニ吾人ノ性ノ一部タルコト、  
 猶吾人他ノ本能ノ衝動、若クハ、心ノ形質ノ如シ、是即チ造物主ノ、吾人ノ  
 有體ニ賦與セル所ノ、此固有靈智ノ一部タリ、然也、此人、此直覺チ具ルハ、  
 正邪ノ基礎タルニ非ス、是ニ依テ以テ、正シキ一事チ爲シ、邪マナル一事  
 チ爲スニ、非スシテ、是ニ依テ以テ、一事チ正ト視、一事チ邪ト視ルノ、理性  
 タルノミ、是吾輩、吾人、道德上ノ知覺ノ、源由ニ就テ、真ノ解釋タリト信ス  
 ル所ナリ

第二章 正直ノ認識

正直ノ觀  
 前章ニ於テ、正直ノ觀念チ、此心ノ一理會トナシタレハ、是ヨリ之ヲ、此心  
 念ト區別  
 ノ正直チ認識スル、發作トシテ、視ルコト、チ論スヘシ、此題目ハ、容易ナラ  
 シタル認  
 識チ論ス  
 サルノ一タレ也、又同シク、極メテ切要タル者ナリ  
 此勢力ノ  
 既ニ前ニ、論述シタルヲ以テ、人ニ、道德ノ能力ノ、存在スルコトニ就テハ、  
 存在チ論  
 序論ノ講究チナスニ及ハス、吾人ハ、道德上ノ、是非ノ別チナス勢力チ、有  
 スルコト、并ニ、吾人、人ノ躬行ニ於テ、其正邪チ辨別スルコトハ、人間世々

ノ史乘ニ徵シ、性理ニ考ヘテ、著明ナル事實タリ、人ノ意識、視察、言語ノ成  
 形、世々ノ文章、社會ノ慣習、一トシテ、此眞理ヲ證シテ、其堅固チ極メサル  
 莫シ、吾人、我カ自己ノ躬行、若クハ、他人ノ躬行チ、觀察スル時ハ、必ス吾人  
 ノ心ニ、此元理ノ運用アルニ就テ、現ニ意識チ有シ、故意ナラス、恰モ本能  
 上ニ出ルカ如ク、此事ハ正ナリ、其事ハ邪ナリト、表言シテ在リ、且吾人、之  
 チ爲スヘキ義務タルコト、若クハ、然ラサレハ、爲スヘキ義務タリシコト  
 チ認識シ、或ハ、善シ、或ハ、毀リ、或ハ、自ラ善スル時ハ、自ラ身チ處クモ、自ラ  
 平安疹シカラス、或ハ、其譏チ受ル時ハ、惶懼限リナク、若クハ、怒憤已マス、  
 此心ノ憂擾チ、覺ルナリ、而テ、吾人、自己ノ心ニ視ル者ハ、又他人ニ於テモ、  
 其然ルチ見ル、故ニ、同一ノ境遇ニ處シテハ、人々亦、同一ノ是非チ認識シ、  
 又、同一ノ情チ現ハス、若シ、顯然タル不正、若クハ、邪惡ノ行アレハ、之チ小説  
 ニ見テモ、之チ現在ニ視テモ、憤然叱ヲ裂クコト、小兒戎狄ト、カノ哲學先  
 生ト、何ソ撰ハム、且ソレ此事、一代一國ニ限リタル事ニ非ス、世界ノ言語、  
 文章ハ、何ノ時代チ論セテ、何レノ邦國ニ限ラヌ、正邪是非ノ別チ、認識セ  
 サルナシ、其感覺有ラサルハ、莫シ、希臘語ニテ、ト、ゲカイオン、正直  
 又ト、カ



善美又拉丁語ニテ、ホチヌチムノ正良又ビユルクリム、美麗ト云フ言、一

種類ノ字義ニテ、何レノ國語ニモ、其意義ノ語ナキハ莫シ、而テ、其語ノ意

味ト用法トチ、此問題ニテ、是非ノ心ト云フナリ

果シテ然ラハ、吾人道德上ノ是非ヲ認識スルコト、疑ヒテ容レサル所ダ

ルヲ以テ、吾人、此道德上ノ能力ヲ有スルヤ、亦的然タリ

此事項ニ就テハ、此外ニ論スルコトナク、正ニ此章ノ題目ノ講究ニ、就ク

ヘシ、然ルニ、此講究ハ、首トシテ、此能力ノ性質ト其權カトニ係ハル者ニ

シテ、此事項ニ就テ、諸哲家并ニ、諸神教學ノ中ニテ、其說區々ニテ、大爭論

ヲ生シタルハ、言フニモ及ハサル事ナリ、曰ク、此能力運用ニ發シタル者

何如、辨決タリヤ、論辨ノ運用タリヤ、ハタ情タリヤ、是我カ性ノ道理ヲ知

ルノ部ニ屬スルカ、ハタ、感動スル部ニ屬スルカ、靈智ノ區域ニ屬スルカ、

ハタ、感性ノ區域ニ屬スルカ、或ハ、此兩者ニ屬スルカ、吾人、道德上ノ知覺

ニ於テ、其力量ト、其當否ト如何、殊ニ、其躬行、認識シタル義務ニ合スルト、

之ヲ犯ストニ準シテ、自他ノ上ニ來レル應允ト、貶責トニ於テ、其批判ノ

強弱、正不正ハ何如ト、是獨知ノ權カト、性質トニ就テ、生シタル問題ナリ

講究ニ屬  
スル問題  
ヲ論ス

第一 獨知ノ性質

獨知ハ、何物シヤ、是靈智ノ事カ、感性ノ事カ、辨決ニ屬スルカ、情ニ屬スル  
カト、是獨知ノ效用ヲナス、諸種ノ元行ト、心上ノ運用トチ、定ムル爲ニ、細  
心ニ、獨知ノ現象ヲ、分解スル時ハ、此問題ヲ解クノ、援助ヲ得ヘシ

獨知ノ發作ノ分解

正直ノ認識ヲ論ス

凡テ吾人、靈智アリテ、道理ヲ知ル有體ニ就テ、其行事ヲ以テ、我カ觀察ノ  
目的トナス時ハ、其行事ノ、我カ自己ノ事タルト、他人ノ事タルトニ拘ハ  
ラス、又其行事ノ、既ニ成シ了リタルト、誰謀リタル耳ナルトニモ拘ハラ  
ス、必ス、我カ心ニ、一定ノ提念ノ、醒發スルヲ認メテ、其行事ニ就テ、一定ノ  
衝動ヲナスヲ覺フ、此時、最初ニ觀察シタル行事、我ヲ動カシテ、正若クハ、  
邪トナス、是、二重ノ元行ヲ含ム者ニシテ、一ヲ、觀念トシ一ヲ、知覺即チ辨  
決トス、正邪ノ觀念ハ、心中ニテ、單純ナル觀念ナレハ、定形ナシト雖、辨  
察シタル行事ニ於テ、此單純ナル元行ノ中、其一(正)若クハ、他ノ一(邪)ヲ認  
メ依テ以テ、正シキ行事、若クハ、邪マナル行事ナリト表言ス、是專ヲ辨決  
ニシテ、知覺ノ事、即チ悟性ノ運用ナリ

義務ノ觀

然ルニ、此觀念生シテ、其一行事ノ正シキト、邪マナルトノ認識、熟ク此心



論ス

ニ旺スレハ直チニ又他ノ一觀念一認識現ハレ來リ前ノ觀念認識ト共  
 ニシ之ト離拆ス可ラサルニ至ル是即チ其行事ハ爲スヘシ若クハ爲ス  
 可ラスト云フ義務ノ觀念認識ニシテ所謂爲スヘキニ屬シ若クハ爲ス  
 可ラサルニ屬スト云フハ是ナリ然ルニ此觀念モ亦單一ニシテ定形ナ  
 シ故ニ此觀念モ亦將來ノ事ニモ過去ノ事ニモ自己ノ事ニモ他人ノ事  
 ニモ均シク適用スヘクシテ余ハ此事ヲ爲スヘキニ屬ス又余ハ昨日此  
 事ヲ爲スヘキコトニ屬シタリ又彼人ハ其事ヲ爲スヘク若クハ爲サル  
 ヘク若クハ爲スヘキニ屬シタリト謂フヘシ是又前ト同レク靈智ノ發  
 用眞理實在ノ知覺認識ナリ是即チ他ノ實在ノ道理ノ如ク其立証者ノ  
 存スル者ニテ其曉解セル事實即チ是ナリ故ニ之チ一般ニ施シテ我カ  
 心上ノ此能力ニ合セサル處ナク之チ各自ノ細事例ニ當テ其運用正  
 當ナラサルナシ故ニ正直ノ知覺ヨリ之チ離拆ス可ラサルハ此心ノ的  
 證スル所ニシテ一ノ知覺明亮ナリトセハ他ノ認識ヲ免レムト欲スル  
 モ得可ムヤ

功過ノ觀

然ルニ又繼テ第三ノ元行ヲ生ス是致知學上ニテハ別ナレハ曆譜上ニ

念ヲ論ス

テ其時ヲ論スレハ前ナル觀念ト離拆ス可ラサル者ニテ其所行ト連絡  
 シタル功過ノ認識即チ其所行ノ善トナリ惡トナルヲ以テ其所行并ニ  
 其人ヲ善シ若クハ善セサルコトナリ今其事行ノ正若クハ邪タルヲ知  
 覺シ而テ其中ニ其人ニ就テ義務ノ觀念ヲ含メハ直チニ亦我カ心ノ中  
 ニ其行ト所ト連絡シテ功過ノ觀念生スルナリ故ニ吾人其人ヲ視テ賞  
 スルニ足レリトシ若クハ毀ルニ當レリトシ而テ我カ心ニ於テ其人并  
 ニ其行ヒテ善シ若クハ之チ罪スルナリ此ノ如ク其行事ト其人ニ就テハ  
 曉會シタル報ニ準シテ我自己ト他諸人ト之チ允諾スル所ハ正ニカノ  
 心裏ノ法院ニ於テ審判ノ運用ヲ成ス者ニテ其法官ノ訟庭ニ人々ノ所  
 行ヲ解送シ其法官ノ審判ハ容易ニ廢スヘキ者ニ非ルナリ然ルニ此心  
 ノ應允スルコトヲ以テ或ル人ハ之チ靈知ノ事ヨリモ寧ロ感性ノ事トナ  
 スニ若カスト視タリ吾人動モスレハ人情之チ善シ若クハ之ヲ毀ルト  
 云フ然レ善スルト毀ルトハ本來判決ノ作用ナリ此善シタルト善セサ  
 ル上ニ繼テ來ル感動ハ常ニ此ノ如キ性質ヲ具シ此ノ如キ力量ヲ具ス  
 ル者ニテ竟ニ此心ノ注意ヲ舉リ悉ク之ニ委スルニ至ル是ヲ以テ吾人



自然ニ此運用ヲ舉リ之ヲ感性ノ事ト思ヒ感性ノ事ト言フニ至レリ然  
而嚴密ニ之ヲ觀レハ是靈智ノ知觀ニテ辨決ノ運用ナレハ其觀察セル  
行事ハ其適スル所ノ功過如何ニ在テ依テ以テ賞譽ト毀斥トナリ判過ス  
ルノ斷文ナリ  
是此運用ヲ完周スル者ニシテ余我カ心ニテ道德上ノ見解ニ於テ心ノ  
作用ヲ體驗スルニ此三ツノ元行ノ中其一ニモ落チサル者ハ之ヲ發見  
シ得ルコトナシ

此元行ハ、  
靈智ニ本  
クヲ論ス

是各其運用ヲ個別ニ見ル時ハ皆正シク靈智ニ屬シ正直ノ認識義務ノ  
認識善報惡報ノ智覺トモ總テ靈智ノ作用ナリ然レ此認識ノ作用各亦  
感性ト相通スルノ作用ヲ含メリ正直ノ知覺ハ粹然タル有徳ノ心裏ニ  
ハ快樂歎美愛憐ノ感ヲ提起シ義務ノ觀念ハ感性ノ興起ニ因テ轉シテ  
其行事ニ服スルノ衝動發意トナリ善報ノ認識ハ敬重恭謙ノ感若クハ  
其反體ヲ提起シ靈魂ニ滿ルニ和煦和睦ヲ以テシ若クハ之ヲ縛スルニ  
哀痛憂苦ヲ以テス然ルニ總テ此等ノ作用性理學家ニ在テハ正ニ獨知  
ノ現象中ニ之ヲ認識シテ其中ニ挿入スヘシ唯此情感ハ上ニ舉タル靈

智ノ作用ノ上ニ本ツキ其基址ニ依テ長大ニ至ル者ニシテ縱ヒ運用ノ  
全體ニ於テ切要ナラサル部分ヲサレモ之ヲ視テ偶然且下行ノ者ト  
スヘシ故ニ今獨知若クハ道德ノ能力ト言フ時ハ其勢力即チ能力ノ事  
ヲ爲サシムル者アルヲ謂ヒ唯感動セラルコト即チ其感動ヲ謂フニ  
非ス是又實在ノ理ニ對シテ作用ヲ發シ眞ニ是非ノ別アルヲ認識スル  
知力ニシテ唯感性ノ受動ノ發シタルノミニ非ルナリ是唯眞理并ニ其  
關係ノ中ニテ一定ノ種類ヲ認識スル心力ナリ然ル故ニ吾輩之ヲ以テ  
此心ノ正シキ知力ノ中即チ眞理實在ノ知覺ヲ以テ作用ヲナス能力ノ  
間ニ其位ヲ占スルノ本分アル者トナスナリ

此位置ノ  
切要ナル  
ヲ論ス

是亦一切要ノ事項ナリ今或著述家ノ如シ此道德上ノ能力ヲ以テ徒ニ  
感動ノ事トセハ此感動ノ基非タル靈智ノ知覺ヲ忽略シテ其解釋ヲナ  
スニ當リ其運用ノ首タル元行ヲ忽棄スルナリ然ラハ道德上ノ能力ハ  
既ニ已ニ知力ニ非ス既ニ已ニ其實能力ニ非ルナリ果ソ然ラハ其認識  
シダリト見ユル是非ノ別ハ唯主觀ノ事ニテ印象感動タレハ是ト相通  
スル實在ハ有ルモ可ナリ有ラサルモ可ナリトシ吾人少シモ此ノ如キ



實在ノ的證ヲ有スルナキナリ、此ノ如キ見解ハ、道德ノ眞ノ基礎ヲ覆ヘ  
 スヘシ、吾人ノ感動ハ變スルヲ得ヘキモ、正邪ハ、我カ感動ニ從ヒテ、變易  
 スルヲ得可ラズ、正邪ハ、客觀ノ實在ニシテ、主觀ノ現象ニハ非ス、此心ハ  
 其此ノ如キ天然ノ勢力ヲ以テ、造物主ヨリ、賦與セラレタルニ依テ、之ヲ  
 認識スルヲ得、而テ依テ以テ、其實在ヲ知ル勢力ヲ、吾人道德上ノ能力ト  
 ハ名クズナリ、是猶吾人眞理ト其關係トノ中ニテ、他ノ一種即チ、美妙ノ  
 認識ヲナス心ノ勢力ヲ、其美妙學上ノ能力ト、名クルト、一般ナリ、此眞理  
 ト關係トチ、目的トシテ、此ノ如ク知覺シタル時、何レノ事例ニテモ、一定  
 ノ感動ヲ起セハ、其情ヲ以テ、獨知、若シハ雅趣ノ現象ニ屬シ、其一部タリ  
 ト視得ヘキハ、固ヨリ當然ナリ、何レニテモ、此二ツノ能力ヲ、十分ニ講究  
 スレハ、其中ニ、感性ノ作用ヲ、含ムコト固ナリ、然レ、何レニテモ、眞ノ性理  
 學ニテハ、此能力ヲ、感動メリトシテ、説ク可ラズ、是カノ、數學者ハ、其諸線  
 諸角ノ關係ヲ、講究スルニ當リ、其知覺ハ、一定ノ娛樂ヲ、心ニ感スルコト  
 ナ、體驗スト、雖レ、此關係ヲ知覺スル勢力ト、此心ノ依テ以テ、此數學上ノ  
 眞理ヲ、認識スルノ能力トヲ、是ニ就テ發シタル感動トシテ、解説ス可ラ

サルカ如シ

分解シテ  
得タル効  
驗ヲ論ス

吾輩ノ分解法ニ、從事シタル效驗トシテ、次ニ開列スル元行ヲ得タリ、是  
 道德ノ能力中ニ含有シテ、其運用ヲ成ス者ナリ

(第一) 心ノ其行事ヲ正トシ、邪トスルノ知覺

(第二) 其正タリ邪タル行事ニ就テ、義務ノ知覺

(第三) 功トシ過トスルノ知覺、而テ是ニ繼テ發スル事主ノ稱譽請賞、  
 是其事主、此ノ如キ正邪ヲ、爲シタリト、知覺スル者ナリ

(第四) 是靈智上ノ知覺ニ伴ヒ、是ヲ基礎トシ、發シタル一定ノ情、是知

覺ト相通スル者ナレハ、其強弱ハ、心上知覺ノ明亮ナルト、曖昧ナル

ト、其人道德ノ性質、純粹ナルト、雜駁ナルトニ準シ、差異アル者ナリ

(第二)獨

此ニ至ルマテハ、獨知ノ性質ヲ論シタリ、故ニ是ヨリ又、其權力ニ就テノ  
 問題ヲ生ス、是即チ獨知ノ決定ニ、依頼スヘキヤ否ヤナリ

其獨知ヲシテ、正シク、正ト邪トヲ看破シ、而テ是ニ繼テ、義務ヲ看破スル

者ナラシメハ、其事主ノ該ル所ニ就テ、正シク、之ヲ辨決スルニ至ルヘシ

若シ獨知ニシテ、上ノ三項ニ就テ、謬誤アラシメハ、善スルニ足ラサル者ヲ



其正シキ  
ハ何如ノ  
的證アル  
ヤチ論ス

善シ善キ者ヲ罪スルニ至ルコトアルヘシ  
然ラハ則チ吾人獨知ハ正シク辨決スル者タルヲ何如シテ知ルヘキ其  
正シキ者タルハ如何ナル證者カ在ル其知覺ト裁決トハ之ヲ寄信スル  
幾何ノ度ニ至ルヘキト言フ意ハ吾人ハ恐ラシハ邪ヲ辨決シテ正トシ  
正ヲ辨決シテ邪トシ罪スヘキ者ヲ善シ善スヘキ者ヲ罪スル如ク此ノ  
如ク一定シテ生レ得タル者ニ非ルナキヲ得ムヤト曰ク真個ニ此ノ如  
キコト無シト謂フ可ラス二二ハ其實五ナルモ四タリト見ユ○三三角形ノ  
三角度ハ其實三正角ニ均シキモ二正角ニ均シト見ユ○余ハ此ノ如ク生  
レ得タリト謂フヲ得ヘシ是固ヨリ謂フ可ラサルニ非ス然レ凡テ吾人  
天然知覺ノ正シキコトヲ謾スルニハ聊カ臆見ナキニ非ス曰ク此ノ如  
ク知覺スルハ吾人ノ性ニ固有セル本元ノ運用ナリト今姑ラク之ヲ言  
ヘハ吾人我カ有體ノ一大創造者ニ依テ生テ稟ル常ニ欺罔ヲ受ル如ク  
ニ賦與セラレタル者ナリト謂フハ蓋然タラストシ視聽ノ官具ハ全ク  
偽象ヲ呈シ我カ吾官ノ媒介ニ由テ視聽感觸スル物ハ我カ心ニ假定シ  
タル知覺ト絶テ相通シタル實チ有スルコト莫シト謂フヲ得ヘシ然レ

是亦蓋然ノ假想ニタモ非ルナリ今ソレ我カ天然ノ能力ノ真ナルヲ疑  
フ者ハ之ヲ憑證スル難クシテ竟ニ憑證スルコト能ハサルニ至ルヘシ  
何トナレハ今汝知覺ノ偽象ナルヲ證スルニハ汝正ニ其疑ヒテ容レタ  
ル能力ヲ用非サルヲ得サレハナリ若シ知覺ノ憑證一ノ事例ニ於テ信ス  
可ラサル時ハ他ノ事例ニ於テモ信ス可ラサルコト明カナリ然ラハ則  
チ吾人ハ知覺ノ真實ナルハ准可ヲ歴タリトシテ取ラサルヲ得ス而テ  
依テ以テ之ヲ爲スノ權ヲ有スルナリ是吾人ノ道德ノ性ニ於ケルモ亦  
然リ是我カ有體ノ創造者ニ本ツク者ニシテ果シテ之ヲシテ恒常一致  
シテ錯誤アラシメハ其錯誤彼ニ存スルナリ此ノ如キ事情ニ際シテハ  
其錯誤ハ看破シテ改革スルヲ得可ラサルナリ吾人ハ我カ性ヲ超エテ  
事ヲナス能ハス又我カ天賦ヨリ初メニ反リテ事ヲナス能ハス既ニ賦  
性ノ先○天ニ辨決ス可ラス況ヤ局外ノ位置ニ在テ知覺ノ正シキト然ラ  
サルトチ辨スルヲ得ムヤ盡シ正邪ハ實ニ神意ニテ造ル者ニ非ス唯吾  
人之ヲ知覺シテ正ヲ善シ邪ヲ罪スルノ能力チ是ヨリ稟ル所ナリトス  
故ニ吾人ハ其一般ニ涉リテ正當ナルヲ奉スヘシ



差錯ナキ  
ナラサル  
ヲ論ス

然レ上論ニ依テ、獨知ハ、差錯ナシ獨知曾テ誤謬セスト、謂フ可ラス況ヤ  
余固ヨリ、之ヲ肯定シタルニ、非ルチヤ、吾人ノ、道德上ノ知覺辨決ハ、一定  
シテ、正シキ者ナリト謂フ可ラス、何トナレハ、是、我カ生來ノ性ヨリ、發ス  
ル者タレハナリ、其性ノ然ラサルヲ得サルハ、人心ノ諸能力、一トシテ、錯  
繆ヲ受ケスト云フ者ナク、又其發動スルニ方テハ、一モ差錯ナキコト能  
ハサレハナリ、論辨力モ、時トシテ、謬リ辨決モ、謬リ、記性モ、謬ル、道德上ノ  
能力モ、是ト同一ノ基址ニ立テハ、差錯ナキヲ保ス可ラサルハ、總テ他ノ  
諸能力ト同一ナリ

其貴重ハ  
是ニ由テ  
減セサル  
ヲ論ス

人、或ハ云ハム、然ラハ、則チ、道德ノ能力ハ、論シテ此ニ至レハ、寄信ス可ラ  
サルニ似タリ、是ハ、何ノ用ニ供スヘキ、余之ニ應ヘテ曰ク、心ノ能力ハ  
何レニテモ、純全普通ニ、正當ナラサルコトアリト雖モ、用ニ供スルナシ  
ト謂フ可ラス、今ソレ、記性ノ若キ、辨決ノ若キ、皆時トシテ、誤ルコトアリ、  
是皆用ニ供スルナシト、謂ハムガ、吾人此諸能力ヲ舉テ、之ヲ疑ヒ、信スル  
ニ足ルナキトシテ、之ヲ廢セサルヲ得サルハ、固ナリ、今、時辰鐘ノ如キ、純  
全ノ精ヲ盡サ、ルモ、大ニ貴重スヘキ者ナリ、之ヲ造ル者ハ、尋常ノ製作

此種ノ事  
現實ニア  
ルヲ論ス

ニテモ、其普通ニ、正當ナルヲ稱シテ、誇言ヲ極ムト雖モ、其指針、時トシテ  
ハ、偶、日間ノ時子ヲ、誤リ指スコトアリ  
カノ道德ノ世界ニ在テハ、奇事アルコト稀ナルコトニ非ス、人能其獨知  
ニ證シテ、誤リテ、時ヲ指スコトアリ、又其獨知正嚴ナル人、自ラ其正シキ  
ヲ證シテ、堅固ヲ、極ムト雖モ、其時、普通衆人ノ的證ト、一致ス可ラサルコ  
トアリ、是唯、一二時ヲ違ヘ、老年ニ至リ、動モスレハ、アリ得ル事ニシテ、  
此ノ如キ人ハ、却テ之ヲ正スコト、誠ニ難シトス、是其人、正シク獨知ヲ有  
スレハナリ、曰ク、爰ニ、余カ、時辰儀アリ、其針、云々ノ時ヲ指セリ、余カ時辰  
儀ハ、良工ヨリ得タル者ナリ、余、之ヲ誤ルコトヲ得スト、而テ其人、實ニ誤  
リテ、此ノ如ク、痴呆ナルニ至レリ、蓋シ、獨知ハ他ノ心上ノ諸能力ニ比シ  
テ、同一ニ、差錯ナキ者タラスト、謂フヲ真ナリトス、是唯既ニ論シタル如  
ク、知覺シテ辨決スルノ勢力タレハ、他ノ知覺ト辨決トノ如ク、其運用ハ  
差錯ニ出ルコトアルヘシ

道德上ノ  
辨決ノ、差

然ルニ是上ニ既ニ云ヒシヨリモ、尙一層甚クシテ、大ニ差異ヲ生スル者  
ナリ、此差異ハ、人々ノ道德上ノ、辨決ト論説トニ於テ、從來ヨリ久シク、存



異アルヲセルコトハ、世ノ能知ル所ニシテ、人ハ、其性中固有ノ一部トシテ、道德ノ

能力存在セリト云フ説ニ就テ、何故ニ人々、此目的ニ就テ思フ所ト行フ所ト、彼カ如キ差異ヲ生スルヤト、此問難ノ強迫、屢、其カチ極メタリ、其言ニ云ク、天道ハ、其發行、揆一ナル者タリ、是ヲ以テ耳目ノ若キ、苟モ其目的タル者、同一ナレハ、時代異ナリト雖、邦國異ナリト雖、曾テ其本體ニ於テ差異相争フノ證左チ、呈スルコト莫シ、故ニ一定ノ色ハ、之ヲ悦フ者普通ニシテ、一定ノ音ハ、之ヲ厭フ者、亦普通ナリ、獨リ人ノ道德上ノ、辨決ニ至リテ、此ノ如クナラサルハ、何ソヤ、一人ノ善スル所、他人ニ在テハ、之ヲ罪ス、若シ是非ノ別ヲシテ、普通純全ニシテ、本體ヲ具ヘシメムカ、又若シ之ヲ知覺スルノ勢力、我カ性中ニ固有ナラシムカ、人々、之ヲ知覺スルニ於テ、一致セサルヲ得ス、然ルニ汝見スヤ、一世一國ノ善セサル所、他ノ世ト、他ノ國トニ在テハ、之ヲ罪セサル者アルヲ、加旃、一代一國ノ取テ以テ、眞ノ罪業トナス者、他ノ一代一國ニ在テハ、之ヲ以テ、宗教ノ旨趣ニ、本ツケリトナスアルヲ、而テ今、正邪ノ知覺ハ、直覺ナリト謂ハ、此差異、果シテ何カ故ニ生スルカ

此差異ヲ解釋シテ論ス

余之ニ應ヘテ、以謂ヘラク、是既ニ解釋チナシグル所ニシテ、吾人、正邪ノ觀念ハ、其源由ヲ講究スレハ、其時ノ境遇ト、開發ノ度ニ、關係スト云ヒキ、故ニ、是機會ニ關セサル者ニ非スシテ、教育、習慣、法度、風俗等ハ、其觀念ノ將ニ生セムトスルニ方リ、尤モ其開發ト、變化トニ、關涉チ有スル者ナリ、此諸種ノ衝動ハ、此觀念ノ生長ヲ助ケ、若クハ、慢ニシ、或ハ能全ク、他ニ導ク者ニシテ、猶カノ樹木ノ若キ、他ノ衝動、宜シキヲ得サルニ方テハ、其生長ヲ沮滯欄格シテ、或ハ横ニ轉折シ、或ハ相糾纏シテ、其開發、常チ失シ奇怪ヲ極メシムルト一般ナリ、然レ、天道ニ至テハ、猶此ニ運行シ、凡テ此ノ如キ障礙ト、不便ナル景況トニ、拘ハラヌ、其理法ニ從ヒ、其完全ニ達セシムルヲ、求メテ、其運行ヲ成スニ至ルナリ、然レハ、最首トシテ、争フ所ハ、天道ハ、其人、境遇ノ好時ニ際スレハ、其心ニ、道德上是非ノ觀念ヲ、開發スルコト、疑ヒナシト雖、同時ニ亦、境遇ト、周匝諸物ノ衝動トニ從ヒ、正タル者ト、邪タル者ト、價直チ、評定スルニ至テハ、人々ニシテ、大イニ異ナルコト、無キ能ハスト、云フニ在リ、正邪是非ノ別チ、一特別ノ事例ニ當テ、其行事ノ、道德ニ關スル、如何チ裁定スルハ、辨決ノ官能ナリ、而テ、辨決ノ是



ニ於テ、差錯アルハ、此辨決ヲ、他事ニ運用シテ、差錯アルヲ免レサルカ如シ、是他ノ衝動ノ宜シキヲ得サル、教育ノ正シカラサル、習慣ノ善カラサル等ニ依テ、皆迷惑偏倚ヲ起スコトアル者ナリ

他ノ諸能力ノ類例ヲ論ス

此同一理ハ、凡テ他ノ性中、諸能力ト、其運用トニ於テ、實ニ合當ナルコト疑ナク、是皆其開發ノ度ト、其作用ノ様法トニ於テハ、偏ニ境遇ニ關スルヲ以テ、大ニ差異ヲ生シ、屢、錯誤ニ陷ルハ、職是之ニ由ルナリ、知覺ノ視聽ニ供スル物ニ於テ、我ヲ誤ルコト、稀ナル事ニ非ス、其數學上ノ論辨ニ於テ、我ヲ誤ルコト、稀ナル事ニ非ス、其數學上ノ論辨ニ於ルモ、人々、必ス一致セサルコトアリ、又記性ノ物ヲ記取スル事ニ就テモ、人々ノ中ニテ、極メテ大イナル差異ヲ生シ得ルナリ、是論辨ノ至ルト、至ラサルト、其勢カノ差モ、亦同シ今クレ、夷狄ハ其敵ノ頭顱皮ヲ割キ、之ヲ炙リ、之ヲ喰フ、契然之ヲ以テ、邪行ダリト思ハス、而テ、其指ヲ以テ、物ヲ數フルニ、二十ヲ超ユレハ、既ニ能ハサルコト、斷然ナリ、而テ、哲人ハ、共同人ヲ愛スルコト、己カ如クスルノ本分ヲ認識シ、且天體ノ運動ヲ算シテ、其精密ヲ極メ、將來ノ世ニ於テ、其天中ノ位置ヲ前兆セリ、然ラハ此差異ニ本ツキテ、カノ

一致ノ普通ナルヲ論ス

諸能力ハ、吾人性中ノ一部ニ非ズト、斷スルコトヲ得ヘキカ  
然ルニ、吾カ徒ハ、人ノ道德上ノ辨決、初頭ニ見ユ得ル如キ差異ノ、大イナルヲ信スルコト、能ハサルナリ、却テ之ト相反シテ、普通ニ一致セルコトアリ、其究竟ヲ論スレハ、道德ノ本體タル諸大本元ニ至テハ、人々、其世代ヲ異ニシ、其邦國ヲ別ニスルモ、率テ辨別シテ、同一ナルコト多シ、蓋シ、其細事ニ就テ、異ナルアリト雖モ、普通ノ綱領ハ、一致スルナリ、唯道德上ノ例規ヲ特別ノ行事ニ、適用スルニ及ヒテハ、其境遇ニ準シテ、大イニ異ナリト雖モ、正邪ヲ以テ、是非ヲ別ツノ本元トシテ、之ヲ認識シ、正ナリト知レハ、之ヲ爲スヲ、義務トシ、邪ナリト知レハ、之ヲ避クルヲ、義務トシテ、認識スルニ至テハ、人々、皆一致スル所ナリ、且又、人ノ事ヲ行フハ、必ス其正直ノ觀念ニ、從フ者ニ非ルコトモ、固ヨリ知ルヘキ所ナリ、一世若クハ一邦ニ於テ、德ヲ慢ニスルノ多キニ由リ、大イナル悖逆ノ事、多キニ由リ、是ニ由テ以テ、道德上ノ能力ノ、存セサルト、若クハ、存スルモ、頓倒ヲ受ルトヲ、引墜スルハ、吾カ徒ノ、能クシ能ハサル所ナリ

其差異ハ

此事ヲ講究スルニハ、終始、獨立トシテ、視タル正直ノ觀念ト、一定ノ行事



何處ニ在  
リヤチ細  
論ス

チ、正直ナリト知覺スルト、其差別チ、心ニ持ツコトハ、切要タル事ニテ、其  
一ハ、單純ナル理會トシ、他ノ一ハ、辨決ノ作用ナリ、故ニ、其一ハ、此心ノ眞  
個ノ性ヨリ生スル觀念ニテ、原生ナラサレハ、同生ナリ、而テ他ノ一ハ、此  
觀念チ、悟性ニテ、躬行中ノ、一特別ノ事ニ適用スルコトナリ、前ナル者、即  
チ、道德上ノ是非ノ觀念ハ、普通、必須、純全ニシテ、誤謬ナキ者タルヘク、後  
ナル者ハ、此觀念チ特別ノ事例ニ適用シテ、云々ノ事ハ、正直ニ當レリ、若  
クハ、當ラスト、裁決スル事ナルチ以テ、總テ、不正當ニ、誤用シタル辨決マ  
ルコトアルヘシ、乃チ、世人ノ道德ノ辨決ニ、差異ヲ顯ハスハ、確然、此事項  
上ニ在ルナリ、故ニ、正邪ノ別チ、認識スルニハ、人々一致スト雖モ、之ヲ執  
レカ正、執レカ邪ト決スル爲ニ、特別ノ事例ニ適用スル時ハ、則チ違ヒア  
ルチ、免カレズシテ、是唯辨決ノ作用、悟性ノ運用ナルコト、既ニ言ヒシカ  
如クナルチ以テ、人々ノ差異ヲ生スルハ、此ニ在ルナリ、而テ、其差異ハ、辨  
決ノ作用チ、他ノ種類ニ施シタルヨリモ、一層大イニ一層解釋シ難シト、  
云フニ非ルナリ

獨知ハ必

余固ヨリ、獨知ハ、錯誤ナキ者ニハ、非スト云フチ、容レタリ、此ニ疑問アリ、

ス錯誤ナ  
キ嚮導ニ  
ハ非ルチ  
論ス

然ラハ則チ、獨知ハ、怕レナキ嚮導ニハ非スヤ、吾人、如何ナル事例ニ逢フ  
モ、其裁決ニ、從フヘキヤ、否ヤ、余之ニ應ヘテ曰ク、是既ニ、錯誤ニ出テサル  
チ、保テ可ラサルカ故ニ、唯是ノミチ以テ、安全ナル嚮導ト、ナス可ラス、今  
ソレ、一定ノ行事ハ、必ス正シキ者ナリ、何トナレハ、是唯、獨知ノ善、スル所  
ダレハナリト、吾人、此ノ如ク、的確ニ、斷言スルコト能ハスシテ、此斷言、亦  
必然ニ由ルニ非ス、一定ノ行事正シクアルト、否ラサルトチ、裁決スルハ、  
唯辨決ノ事ニシテ、其辨決ハ、正シキト、正シカラサルコトアリ、是皆、境遇  
ト、又一分ニハ、教育トニ關シ、又一分ニハ、吾人多少有スル所ノ、靈智ニ關  
ス、故ニ獨知警醒ノ人ト雖モ、其行フ所、必ス正シト謂フ可ラス、吾人、獨知  
ニ徵シテ、邪行チ、ナスコトアリ、大思スル斯ノ掃羅ハ、獨知アリシ人ナレモ、聖  
徒チ窘迫シ、而テ實ニ、其行フ所チ以テ、神ニ事フルノ事ト思ヒシナリ、其  
他、カノ至慢至酷ナル溺教ノ徒ト雖モ、多少ハ、又均シク、獨知アル人ナリ  
ケレモ、均シク、之ヲ差錯セルコト、疑ヒナシ、蓋シ、總テ、此等ノ人ハ、一層危  
殆ナル人ダリト、謂フヘシ、何トナレハ、其爲スル所チ以テ、正シキ事ナリ  
ト、信スレハナリ



然其從  
フヘキヲ  
論ス

然ラハ則チ吾人之ヲ爲ス何如ハタ此ノ如ク差錯ヲ易キ嚮導ニ從フヘキカト余之ニ應ヘテ曰ク然リ汝カ獨知ニ從ヘ唯是正シク能通曉シタル獨知ナリヤト省察シ以テ其辨決チ感動欲情臆斷習慣ノ偏癖若クハ省察ナキ習風ヨリ取ルコトナクシテ理性ノ至明ナル光輝ト殊ニハ神語トヨリ取ルヘシ吾人ハ道德ノ事ニ於テ我カ取リタル決斷ニ於テハ其實ニ任スヘキコト猶他種ノ事ニ於テ決斷ヲ誤レハ自ラ其實ニ任スヘキカ如シ故ニ之ヲ獨知ニ決スト雖モ亦皆其責任チ有スルナリ掃羅ノ過失ノ若キ其本分タルヲ獨知ノ的證ニ徵シテ而テ後ニ行ハサルニハ非スシテ一層高明ナル獨知チ有セサルニ由ル若シ彼チシテ正道チ求ムルコト一層勵精チ極メシメハ細心ニ其辨決チナシテ錯ルナキニ至リシヤ必セリ然モ人其獨知ニテ善スル所チ爲ス可ラスト言フハ是人チシテ其誠ニ正ダリト信スル所チ行ハサシムルナリ是道德ノ例規ニ於テ尤モ怪ムヘキ事ナラヌヤ

獨知ハ專  
ヲ靈智ナ

余既ニ前ニ陳セル如ク獨知ノ性質權力ヲ講究シタリ而テ其中此道德上ノ能力チ以テ情ノ勢力トスルヨリモ寧ロ靈智ニ屬シタリトシテ以

ラサルヲ  
論ス

テ論シタリ然モ余カ言フ所ハ獨知ハ亦情ノ品性チ具スル者ニ非スト云フ意チ含メリト曉解ス可ラス總テ靈智上ノ作用ト其行事ノ能力トハ必ス多少情ノ品性チ分有シ感動チ伴ナフ者ニテ此感動ハ其相關スル心ノ個別ノ能力ト其作用トニ於テ稍別種ノ品性ヲ現ハスコトアリ故ニ想像力ニ運用スルニハ其中稍感動チ含ミ或ハ怪愉チ覺ユ或ハ痛苦チ覺ユ或ハ屢其度ノ甚シキニ上ルコトアリ是美妙學上ノ能力ニ於テモ亦然ル者ニテ道德上ノ能力ノ運用ニ於テハ亦殊ニ一種ノ情チ含メリ是上ニ云ヒシ如ク獨知ノ作用チ分解スレハ吾人自己ノ行事チ或ハ正トシ或ハ邪トスルニ之チ情チシニ觀察スルハ爲スコトサルノ事ニ屬シ又依テ以テ自己ニ之チ善シ或ハ之チ罪スルニハ情チ發動セサルチ得ス然モ此情ハ吾躬行ノ功過チ我カ靈智ニテ理會スルノ明暗強弱アルニ從ヒテ其厚薄濃淡自ラ異ナル者ナリ

此情乃チ道德上ノ行爲ニ於テ現象中ノ切要ナル一部分チ成シ從ヒテ又性理學ノ切要論題タルモ是靈智ヨリモ寧ロ感性ノ部ニ屬スルヲ以テ爰ニ其他ノ講究ニ從事スルハ其處ニ非ルナリ故ニ是皆此書ノ次ノ



區分中ニ他ノ諸種ノ情トノ連絡ニ於テ之ヲ論スヘシ

増補題目

第一編 本能

人知ハ禽獸ノ智ヨリ別ナルヲ論ス

人知ヲ論スル哲學ト密ニ連絡シテ本能ノ學アリ即チ禽獸ノ智ニシテ、  
是徒ニ性理學トノ關係ニ於テ有益ノ事タル耳ニ非ス又他ノ科學造化  
史、神理學等ニ於テモ亦有益ニ屬ス

此ノ如キ  
講究ヲ爲  
スハ吾人  
ニ在テ不  
便タルヲ  
論ス

此事ニ就テハ初頭自ラ陳述セサルヲ得サルコトアリ蓋シ吾人此事ニ  
就テ講究觀察ヲナスハ一端ニ就テ言ハ、全ク暗中摸索ニ屬スルナリ、  
何トナレハ是全ク意識ノ圈内ヲ外レダレハナリ故ニ吾人ハ唯之ヲ視  
察シ之ヲ比較シ之ヲ引證スルヲ得ルノミニシテ此ノ如クシテ得タル  
斷言ハ最後ニ錯誤ニ出ツレハナリ吾人自己心意ノ運用ニ至リテハ知  
識ノ淵源ノ中ニテ之ヲ知ルコト至明至的ナル者ナリ何トナレハ是自  
己ノ意識ニ供スレハナリ然ルニ禽獸ノ智ノ運用ニ至リテハ大半吾人  
ニ知ル可ラスシテ常ニ隱微ニ潜伏ス可ケレハナリ是ヲ以テ此ニツノ  
者交互ニ相似ル幾何ナリヤ又交互ニ相異ナル幾何ナルヤ之ヲ定ムル  
コト固ヨリ難シ而テ禽獸ノ智ノ止マル所人智ノ始マル所ニ分割線ヲ



盡シテ、何處ニ在リト云フハ、容易ナル事ニ非ス

之カ爲ニ、初頭、吾輩、正ニ本能ノ定義ヲ論スヘシ、是、通常禽獸ノ智ヲ、徴スル爲ニ、用立テタル、非タル語ニテ、次ニ成ルヘシハ、本能ノ一種別ナル品性ハ、何如タルヲ確定シ、而テ後ニ、何處ニカ、人智ヨリ、差異アルカヲ、定ムルコトヲ、得ヘキナリ

定義

余、本能ト云フ字ニテ、領解スル所ハ、感性アル有體ニ於テ、其運動ヲ、提轄指揮シ、以テ、其發作ヲ、ナスノ理法ニシテ、是、一方ニ就テハ、物質中ノ徒ラニ、警突ナル諸力、引力等トハ、別ナリトシ、又一方ニ就テハ、人ノ理性ヨリ、別ナリトス、故ニ、衝動ニ因テ、警突ニ、一定ノ目的ヲ、成ス爲ニ、發動スルノ理法トシ、之カ主タル者ハ、何故ニ、己カ此ノ如ク、發スルカ、之ヲ知ラサルナリ、此理法ヤ、原生ニシテ、其動物、稟生ノ際ニ固有シ、學ヒテ獲タルニ非スシテ、世々相嗣キタルナリ、故ニ、其因由ハ、寰宇ヲ創造セル、靈妙ノ天工ニ於テ、之ヲ見ルヘシ、余以謂ヘラシ、是、吾人本能ト名スル者ノ首タル品性タルヘシト

本能ハ理

是發作ノ理法ナリ、此理法ニ從ヒテ、蜂ハ、其房ヲ造リ、蟻ハ、其室ヲ作り、鳥

法タルヲ

ハ、其巢ヲ營ス、此理法ニ從ヒテ、以テ、獸ハ、何ノ種類タルヲ論セス、各、其各

論ス

種ノ食餌ヲ求メ、以テ、其欲スル所ニ適シテ、其供資ヲ受ク、然ルニ、是唯此、理法ノ運用ノ一例タル耳、要スルニ、此理ノ、運行スルヤ、其品性、一揆普通タルハ、依テ、以テ、發作ノ理法タルヲ知ルヘク、徒ニ偶然ナル發用ニ、非ルナリ

衝動ニ因テ發作スルヲ論ス

是衝動ニ因テ、發作スル理法ニシテ、一方ニ就テ之ヲ論スルニ、器械力即チ自動力ニ非ス、又他ノ一方ニテ、道理ヲ知ルノ性ヨリ、發スルニモ、非ルナリ、上ニ云ヘル事例ニテ、之ヲ催動スル力ハ、機關ヲ動かス重錘ノ力ニ非ス、又他ノ器學上ノ道理ヨリ、發スル力ニモ、非ス、又然ラハトテ、神經、刺戟ヲ受テ、反省セシムルノ發用ニ、非ス、又筋維ノ搖擲スル發作ニモ、非ルナリ、又是、純然タル受動ノ物質形體上ニ、引力ノ動ヲ起スト、類例タルニ非ス、尙又、吾人、人性中ニ於テ、理性ト名クル所ノ、高上ナル本元ニ、由ルニ非ス、鳥ノ巢ヲ營スル、彼カ如シ、蜂ノ房ヲ製スル、此ノ如キハ、皆其性分中ノ、警突ナル衝動ニ、從フノミ、然ルニ、其衝動、警突ナリト雖、而、然、而、極メテ、缺乏ナク、以テ、其運用ヲ、開導提轄シ、其發作ヲ、促カシ、止息ナキ熱欲ト共



ニ其作用ヲ一種ノ形狀ヲ成スニ歸セシメ竟ニ其目的ヲ十成セサレハ止マサルナリ然レ此生類自ラ其依テ以テ造作スル所ノ理法ニ通曉スルニ非ス蜂ノ其房ヲ造ル其角度精當至小ノ中ニ能至大ヲ包容スヘキノ巧ミヲ以テス然ルニ此角度ヲ用ウルコトヲ知ルニ非ス何ヲ以テ之ヲ造ル此角度ニ於テスルカチ知ラサレハ今縱ヒ蜂ヲシテ吾人ノ疑問ヲ曉解スルニ足ラシムルモ其運用ニ就テ之カ道理ヲ示スコト能ハサルヘシ故ニ是其蜂ニ於ル思慮ノ事タルニ非ス何ソ況ヤ是理性ノ事ヌヲムヤ是唯譬突意思ナキ衝動ナレト又錯誤ナキ衝動ナリ

此理法ハ原生ニシテ禽獸ノ稟生ノ際ニ生ナカラ存シ學ヒ獲タル者ニ非ス是教育ノ效驗ニ非ス故ニ鳥ハ其巢ヲ營スルヲ學ハス蜂ハ其房ヲ造ルヲ學ハス又蟻ハ其地下ノ室ヲ製スルヲ學ハス是皆其父母如何カ之ヲ製造建築スルヤヲ觀察スルニ非ルナリ故ニ總テ其觀察訓練ヲナス機會ヲ奪フ所致ヘナキ禽獸猶能其業ヲ成就シテ其巢其房ヲ造ラサル莫ク而テ之ヲ獨リニテ造ルモ其同類ノ際ニテ造ルカ如ク之ヲ初度ニ試ムルモ後來數次ニ於ル如ク皆十分ヲ盡サル莫シ此ノ如キ勞作

製造ニ於テ如何ナル靈智ヲ其中ニ含蓄セリヤ實ニ至高ノ靈智アリテ此中ニ屬セリト見ユルコト其例タル豈少々ナラムヤ然レ是世々相嗣ケル靈智ニシテ學ヒ獲タルノ靈智ニ非ス蓋シ其源由ヲ究メハ究竟之ヲ其生類ノ中ニ求ム可ラスシテ之ヲ總テノ靈智ノ創造者ニ歸セサルヲ得ス是即チ寰宇萬有ノ創造主ニ非スシテ誰ソヤ故ニ其靈智ハ其生類ノ靈智ニ非スシテ造物主ノ靈智タルナリ

論題ナル理ニ就テハ尙觀察スヘキコトアリ是其本能其官具未ダ相當ニ開發セラルニ先ナテ既ニ一種ノ偏向ヲ現ハスカノ犢牛ノ未ダ其角ヲ生セサル前ニ頭ヲ以テ抵觸ヲナスカ如ク又本能ノ衝動ハ既ニ其用ヲ要セサル境遇ニ在テモ猶發スルコトアリカノ海狸ノ既ニ捕獲ニ就キ一室ニ囚ハルレト猶蟻日ノ如ク其得ル所ノ材料ヲ以テ堤ヲ起スカ如シ是今日ノ境遇ニ處シテハ既ニ已ニ用ウヘキ無シト雖且然リ凡テ此等ノ事實ハ其獸類ニ在テ思量ナク理性ナク靈智ナク唯一ノ譬突ニ發作スル衝動アリテ其作用タルヲ指目スルコト較著ナリ

其境遇ニ拘ハラスシテ現ハルヲ論ス

功思ノ證 然ルニ一方ニ就テ見レハ又獸性ノ發用ノ一例巧思アリテ境遇ニ適シ



テ論ス  
 ナ、相容ル、チ、證スヘシ見ユル者アリ。蜂若已ムチ得スシテ、非常且平安  
 ナラサル處ニ、房ヲ造ルヘキ時ハ、傾斜ナル側面ト、其蜂窩ヨリ至近ナル  
 壁トノ中間ニ、蠟ニテ、間架ヲ作り、以テ之ヲ堅固ナラシム、又蜘蛛モ、是ト  
 同シク、其巢網危キ時ハ、其緊張壓迫甚クシテ、危始ニ迫ル部ヨリ、至近ナ  
 ル支柱ノ一部ニ、線ヲ加ヘ、以テカノ脆弱ナル結構ヲ、安全ナラシム、又鳥  
 モ、是同シク其巢ト其雛トノ重量ヲ堪ルニハ、下枝甚ク脆弱ナリト見  
 ニル時ハ、一糸ヲ以テ、此下枝ヲ強固ナル上枝ニ連結シ、以テ之ヲ保住ス  
 ルハ、世ノ知ル所ナリ

此事實ハ、  
 理性ノ證  
 タラサル  
 ナ論ス  
 此類ノ事實ハ、誠ニ切實ニシテ、世ニ能憑據アリト、ナス所ナリトハ雖也、  
 寧ロ、常則ノ破格ヲリト、見ルヘシ、是獸性ヲ、人智ト分別スル分界線ニ、尤  
 モ近キ者ニシテ、唯單素ナル本能ニテ、之ヲ爲ス者ナリト知ルヘシ、此事  
 是ノミニテハ、禽獸ニ在テ、理性ノ存在、即チ、辨別思慮スル智アルヲ、證ス  
 可ラス、何トナレハ、其生類ヲシテ常時ニ於テ、其巢ト房トチ、平常ノ様法  
 ニテ、作ラシムル所ノ衝動ハ、同一類ノ理法ニテ不意ノ急ニ應シ、或ハ、能  
 生スヘキ變ニ、處スル運用ニ、至ラシムルニ足レルハ、確乎トシテ、察スヘ

キ所ナレハナリ、故ニ、蜂ノ房ニ於ル、蜘蛛ノ網ニ於ル、其危キニ際シ、間架  
 副系ヲ加フルニ至ラシムルハ、此兩ノ者、平常其巢網ヲ作ルニ、能精密ナ  
 ル角度ニ、於テスルニ比シ、固ヨリ怪ムヘキ事ニ非ス、又何ソ、之ヲ一層怪  
 ムヘキノ事トセムヤ、況ヤ、獸類ノ本能、境遇ニ處シ、此ノ如ク、相投スルノ  
 才能ヲ、現ハスハ、誠ニ僅々ニ、屬スルチヤ、是亦、知ラサル可ラサルナリ

解スヘキ  
 疑問  
 吾輩、今、將ニ、吾人、獸性ニ於テ、本能ト名クル者ハ、之ヲ人ニ於テ、靈智ト名  
 クル者ニ比シテ、幾何カ、其相異アルヲ講究セムトス、是其種類ニ於テ、異  
 ナリヤ、ハタ、唯其度量ニ於テ、異ナル耳カ、今此考學ノ史チ、一覽セハ、吾人

ヲ助ルコト、蓋シ鮮少ナラス  
 亞立斯度德ヨリ、瑤加爾多ノ前ニ至ルマテハ、皆度量ヲ異ナリトスル見

古昔ノ見  
 解ヲ論ス  
 解チ、取レリ、此諸哲家皆、禽獸ニ、理性ノ一分ヲ、具ヘタリトシ、人ト雖也、同

一事ニ從事セハ、其理性ノ發用、此ノ如クナルヘシト、此理ヲ推テ、獸類モ、  
 亦其性質ト、其體制トニ因テ、其須要ニ比例シタル靈智ヲ、具ヘタリトセ  
 リ、此見解ノ臆說タルハ、言ヲ待タス、ソノ人ト禽獸ト、同一理ヨリ、同一發  
 作ヲ生スト云ヒ、一ツノ例ニ於テモ、同一ノ源由ニ、靈智理性ヲ含蓄スト、



證スヘキ時ハ、他ノ例ニ於テモ、同一ノ源由ヲ、含蓄スヘシト云フハ、確乎  
タル事ニ非ス、是真固ニ挑撥論題ニテ、其問題中ニ、主要ノ旨ヲ認レリ、人  
ハ、靈妙ニシテ、能ク思惟シ、能ク前後ヲ顧ミテ、道理ヲ辨スルノ靈魂ヲ有ス、而  
テ、禽獸ハ、唯其性ニ任シ、靈妙ナラサル、單素ノ衝動アリテ、唯營突ニ感覺  
シ、以テ其一定ノ運行ヲ促スナリ、然ルニ、今、人能其靈魂ノ德ニ依テ爲ス  
所ノ事ヲ、禽獸ハ全ク異ナル根元ニ依テ、之ヲ爲スト云フハ、謂フ可クサ  
ルノ道理ニ非ス、是正ニ一定スヘキ問題ニテ、是憑證スルヲ得、或ハ憑證  
スルヲ得サルノ事タルヘシ、然ラハ、禽獸ノ本能上ノ品性ニ就テ、既ニ上  
ニ示シタル諸家ノ見解、果シテ正シカラシメハ、爰ニ謂フ可クサルノ道  
理ニ非スト、謂ヒシハ、強キテ、其說ヲ立テタリトシテ、視ルヘキナリ。

怪加爾多ノ見解

怪加爾多ハ、先進諸家ノ誤謬ヲ悟リ、反對ノ極端ニ至リテ、禽獸ノ本能ト  
作用トヲ解キテ、單素ナル機械力トセリ、是即チ、錘子ニテ、時辰儀ノ指針  
ノ動ク理ニ、異ナル莫キノ說ナリ、以謂ヘラク、禽獸ノ、其性質體制ニ因テ、  
其官能ヲ行フハ、猶傀儡ノ、其内部ニ藏セル發條ニ因テ、彼此ニ運動スル  
カ如シ、是、自ラ一モ知ルアル者ニ非ス、鳥、蜂、蜘蛛、皆是、天造ノ官具内ニ、其

奇異ナル性質ノ機器潜在シ、依テ以テ、其時ニ至リ、須要ナル景況ニ應シ  
テ、皆各、其有固各種ノ結構ヲ營成シテ、各、固有各種ノ用務ヲ遂ク、此ノ如  
クニシテ、各、自動力、器械力ヲ以テ、運動スルナリ

祿可并ニ其門人

上ノ見解ハ、古昔ノ考定ニテ、殊ニ、禽獸ニ、重キヲ歸シタルニ、相反シ、反テ  
的然ニ、其輕キヲ、歸シタル者ナリ、然ルニ、更ニ此見解ヨリ異ナリテ、祿可  
孔弟羅哥、及ヒ、兩氏ノ、英吉利佛朗西ノ門人ハ、一說ヲ立テ、禽獸ノ作用、  
靈智ヲ示スカ如ク見ユル者ヲ以テ、慣習ノ勢力ト、伴生ノ理法トニ歸セ  
リ、以謂ヘラク、禽獸ノ能力モ、實ニ人ノ能力ノ如ク、分解シテ、其源ニ至レ  
ハ、畢竟外部ヨリノ印象ニ歸ス、犬ノ其餌ヲ嗅キ、海狸ノ其堤ヲ築ク、鳥ノ  
暖地ニ移ル、皆思慮モナク、靈智モナク、唯慣習ノ力ヨリ、出ル者ナリ、然ル  
ニ、此說ニ據レハ、此ノ如キ、慣習、第一初頭ニ於テ何如シテ、之ヲ創メ得ヘ  
キト、云フヲ以テ、其人ニ問フヘシ、力ノ微細ナル昆虫ノ如キ、其卵ヲ出ル  
ヤ、直チニ、其食餌ヲ捕ル爲ニ、凡テ須要ナル官具ヲ用非得ルハ、是何ニ由  
テ然ル、又カノ蜂ノ如キ、其世々子孫ニ至ルモ、其密ヲ儲フル爲ニ、必ス同  
一ノ巧思ニ出テ、加之、其形容ハ、千万無量、其角度ハ、諸種トナスヘキノ中



ニ就テ恒ニ必ス同一ナル者ヲ撰フハ是何ニ由テ然ル而テ是蟻蜘蛛等ニ於テモ亦然リ今之ヲ以テ教育ニ由ルノ事トナサムカ第一初頭ニ生シタル蜂蟻蜘蛛及ヒ他ノ昆虫此ノ如キ稱スヘキ便利ヲ知リタルハハメ何ニ由テ然ル是確乎トシテ其然ラサルヲ知ルヘシ

蘇格蘭ノ諸哲家

又一方ニテハ來德士低瓦的并ニ蘇格蘭ノ諸哲家ハ一般ニ此單素ナル器械力ト云フ説ヨリ相濶ルコト殊ニ遠カニシテ本能ニ歸スルニ一ノ作用ヲ以テセリ是本來自動無意ノ力ト稱スル者ニテ猶母ノ懷抱ニ在テ其餌ヲ求ムル孩嬰一異體ノ近ツク時ニ乍ナ其眼瞼ヲ閉ツル發作ノ如シ其他此類ノ一定ノ運動ハ動物ノ官具ニ屬スル者ニテ生理學ニテ近來ノ發明ニ據レハ是寧ロ神經ト筋維トノ只反映スル發作ニ歸セリ是元來本能ニハ非ルナリ

初メノ問題ニ反リテ論ス

此諸種ノ見解ノ中ニテ眞理ハ其孰レニカ在ル埒加爾多ノ如ク徒ニ機械力トスル考定ニ服スル能ハス又祿可孔弟羅哥ノ如ク本能ヲ解釋シテ悉ク只慣習伴生トナスノ見解ニモ從フ能ハス然ラハ吾輩ハ古昔ヨリ久シク一般ニ奉シタリシ見解ニ溯リテ本能ヲ以テ人ニ在テハ理性

省察トナル智ト同一質ニテ唯其度ノ低下ナル者トセムカ是吾徒ノ預メ期シタル所ニ非ス本能ニ就テ能世ニ知レタル現象ト理法ト又此前ニ舉ケタル如ク其本體上ノ品性トハ是種類ノ異ナルヲ示ス者ニテ徒ニ度ノ異ナル耳ニ非ルナリ

此說ノ理由

(第一) 獸性ハ教育ノ高度ニ達スル能ハサルヲ論ス

今其差異ノ諸項ヲ簡約ニ枚舉スルニカノ禽獸ノ本能人ノ靈智ト同一質ヲラシメムカ又本來ノ意味ニテ其靈智タル種類ニ於テハ同一ナレトモ唯度ニ於テ異ナリトセムカ然ラハ則チ人ニ於ル如ク教育シテ之ヲ無疆ノ度ニ達セシムルコトヲ得ヘシ之ヲ教育ニテ高ク得ヘキ時ハ能習熟スルノ運用ニテ其初度ニ顯ハレタル度ヨリ甚々上等ナル度ニ至ラシムルコトヲ得ヘシ然ルニ今只僅々ナル例外ヲ除キテハ習熟ニ依テ上達スル事例ナキコト的然タリ故ニ習熟ト教育トハ之ヲ重スルモ禽獸ヲシテ其本體ヨリ獸性資稟ノ常界線ヲ超ユ人類ト水平線ニ近カシムル者ハ非ルナリ

(第二) 獸性ハ實行

且又其考定ニテハ禽獸モ實行ニ依テ改良スヘシトス是多分ハ然ラサルコト確然タリ蜘蛛其網線ヲ引クコト極メテ精密以テ能其網窠ヲ作



ニ依テ改  
化セサル  
チ論ス

ル、蜂其房ヲ作り、鳥其巢ヲ作ル、然ルニ其初度ノ巧モ、二十度若クハ、五十  
度ノ後ノ試験ト、異ナルコトナク、一モ進歩ナク、又改正ナシ、又之ヲモ呼  
ヒテ、技巧トナス也、其技巧ハ、一定不動ニシテ、之ニ就テ、學習ノ性アルニ  
非ス、而テ、學習ニ因テ、改正スルハ、凡テ靈智發作ノ、少ク可ラサル性タル  
チヤ

(第三)本  
能ハ境遇  
ニ適合セ  
サルヲ論  
ス

本能ヲシテ、靈智ノ性アラシメハ、是須ラク、其境遇ノ變化ニ應シテ、之ニ  
適合スヘキコト、一定不易ノ事タルヘク、而テ其中、曩日ノ運用既ニ已ニ、  
用ニ供セサル時ハ、管究ニ、其舊轍ヲ蹈ミテ、發作スルチ、要セサルヘシ、故  
ニ、海狸ヲシテ、乾板上若クハ、砌間ノ鋪磚上ニ、堤ヲ築カシムル者ハ、唯管  
突ナル衝動ニシテ、靈智ニハ非ルナリ

上ニ反セ  
ル見解、甚  
タ多キヲ  
論ス

其他尙、表章スヘキコトアリ、論題ナル考定ハ、唯禽獸ニ、靈智ノ最下度ヲ  
歸スト雖也、一方ノ目的ニテハ、實ニ、禽獸ヲ靈智ノ一點ニ就テハ、遼カニ、  
人ノ上ニ、位非セシムルコトアリ、若禽獸ノ本能、眞ニ靈智ヲラシメハ、其  
靈智ハ、之ヲ蔑視スル敵手ノ、人タル者ニ超エテ、全ク之ヲ蝕スルニ、至ル  
コト多シ、人ノ科學ニテハ、線ヲ引キ基礎ノ平面圖ヲ作り、以テ一定ノ角

度ヲ求ムルノ、實地ニ臨ミテハ、蜘蛛若クハ、蜂ノ、數理上ノ精密ナルト、相  
競フ能サルナリ、而テ、工匠ハ、遊走線ト平行線トノ術ニ於テ、蟻ヨリ、教授  
ヲ受クヘシトシ、而テ、此細虫ニ、カノ工匠學ニ於ケル、圓頂格ト、圓拱門ノ  
發明ヲ歸スヘシ、然ラハ、則チ、科學ニ於テ、至奧ナル問題、疑題ハ、是ト均シ  
ク、カノ人ヨリ、靈智ノ最下度ヲ有スル生類ニ依テ、始メテ、能其講解ヲ得  
ルナリ、故ニ此事實ハ、其考定ト共ニ、相容レサル者ニシテ、此考定、一ハ、甚  
タ之ニ及ハストシ、一ハ、甚タ之ニ過キタリトス、果シテ、本能ヲシテ、眞ニ  
靈智ヲラシメハ、一ノ目的ニ於テハ、少ク也、人ノ靈智ニ、勝レタリトスヘ  
シ

此ノ如キ道理ノ爲ニ、吾徒ハ、禽獸ノ靈智ハ、人ノ靈智ヨリ、特ニ、度ニ於テ  
異ナル耳ナラス、其實、種類ニ於テ、異ナルアリト、斷言セサルチ、得ス

禽獸ニ欠  
ケタル能  
力ヲ論ス

今若シ一種別ノ能力、禽獸ニハ、欠ケテ、人ハ之ヲ有スル者ハ、是何物ナリヤ、  
即チ、言ヲ換ヘテ、言ハ、本能ノ區域ト、靈智ノ區域ト夫、標別スル分劃線、  
ハ、何レノ處ニ、在リヤト、此講究ニ就カハ、吾徒ハ、正ニ答ヘテ、謂フヘシ、其  
尤モ、較著ナル差異ヨリシテ、之ヲ始メハ、第一初頭ニ、禽獸ハ、道德ヲ具ヘ



神明ヲ奉スルノ有體ニ非ルナリ。是固ヨリ、道德ノ性ヲ有セス、正邪ノ觀念ヲ有セス、理由ヲ答フルノ性ナク、又己ヨリ高キ勢力アルヲ知ラス、且是又美妙ヲ知ルノ有體ニ非ルナリ。是固ヨリ、美妙ニ就テ、之ヲ識別スルノ雅趣ナク、又之ヲ評直スルコト、能ハス、馬ノ若キ陽ハニハ、眞ニ靈智アルカ如シト雖、極メテ心醉スヘキ山水ヲ見ルモ、心ニ其美ヲ感スルコトナキハ、猶其率ク所ノ車ト一般ナリ。是固ヨリ、觀念アルニ非ス、絶テ美妙ノ認識ナシ、カノ是等ノ觀念ヲ、人ニ賦スル所ノ、固有理會ノ能力ハ、禽獸ニ欠ケタリト見エ、是又學問ニ供スル有體ニ非ルナリ。是固ヨリ、依テ以テ、自ラ運用ヲナス所ノ、本理ヲ曉解スル能ハス、是ヲ以テ、此本理ヲ適用シテ、進歩改良ヲ謀ルコト、能ハスシテ、其發用終リニ於ケルモ、猶始メノ如ク、絶テ經驗ニ依テ、學習スルコト、能ハス、其技工ノ本ツク、所實ニ一定ノ大本則、大元理アリト雖、是皆禽獸ニ於テ、其心ニ主觀ノ存在アル者ニ非ス、然ルニ、人ヲシテ、能學問ニ供スルノ有體ヲラシムル能力ハ、即チ、此書論中、余既ニ之ヲ反射、即チ、省察力ノ題號下ニ、集録シタル、諸能力、是ナリ、是禽獸ニハ、欠ケタリト見ユ、故ニ、禽獸ハ、曾テ彙類スルコトナク、

其他ノ欠  
缺ヲ論ス

分解スルコトナク、曾テ抽象ノ理會ヲ、ナスコトナク、曾テ概括スルナク、辨決スルナク、辯論スルナク、曾テ其周匝ニ、經過スル事ヲ、省察スルナク、思慮ト云フ語ノ、眞意ニテ言ハ、曾テ思慮スルコトナシト、謂フヘシ。上ニ論シタル事ヲ、省察シタル者ハ、禽獸ノ、理性ト、省察力トチ、有スルチ拒ミ、人獸ノ間ニ、分割線ヲ引ク者、多カルヘク、蓋シ其數、半ニ過クヘシ。是何トナレハ、理性ハ、一層高キ靈智上ノ、勢力ナレハナリ、然、其他ノ能力人ノ稟性ニ、具ハル者ニ至テハ、禽獸モ亦、之ヲ有スルコトヲ、許スヘシ。然ルニ、吾徒ハ、尙一層深ク入りテ、禽獸ノ能力中ヨリ、想像力ヲ、抜キ去ルヘシ。是固ヨリ、美妙ノ觀念ヲ、有セス、又抽象ノ理會ヲ、ナス能ハサルチ以テ、想像ノ依テ、以テ、其形象ヲ、製スル所ノ、理想ハ、全ク欠ケタリトス、故ニ、其理想ノ能力タル、想像モ、亦存スルチ、得サルナリ。

知覺、并ニ  
記取ノ勢  
力ヲ論ス

然、禽獸モ、人心ノ、諸能力ノ中ニテ、殘レル二種ノ能力ノミハ、之ヲ有セシカ、即チ、知覺ト、記性トノ、勢力ナリ、是亦、一問題ナリ、然ルニ、吾徒ハ、此中ニ就テ、同シク、五官ノ、知覺ナリト雖、形體上ノ、元行ト、全ク靈智上ノ、元行トハ、之ヲ區別セサルヲ、得ス、即チ、其覺性ノ、印象ヲ、領取スルノ、能ト、其



印象ノ由テ來ル所ノ物體ヲ云々ナリト知リ。云々ナリト曉解スルノ能トハ固ヨリ差別アルナリ故ニ苟モ此ニツノ者ヲ區別スレハ印象ヲ領取スルノ能ハ禽獸ニモ許スヘシト雖モ知リ曉ルノ能力ノ存在ハ之ヲ争ハサルヲ得ス總テ覺性ノ物體ヲ知リ之ヲ曉解シ之ヲ云々ナリトシテ交互ニ區別シ又自己ヲ知覺スル主ナリト知リテ之ヲ己ヨリ區別スルハ其精密ナル本義ニ就テ見レハ靈智ノ屬性ニシテ此心ノ性ナリ今若禽獸モ之ヲ有ストセハ是亦實ニ心ヲ有スルニテ縱ヒ其等人ノ如ク高カラサルモ人ト同シト謂フヘシ

分割線ヲ論ス

此ニ至リ吾徒正サニ禽獸ト人トノ間即チ本能ト靈智トノ間ノ分割線ヲ引カサルヲ得サルニ至レリ禽獸モ五官ヲ有スル猶人ノ如シ且其中或ハ人ノ官具ヨリモ實ニ一層十分ナル者アリ而テ外部ノ物體ハ其五官ノ上ニ印象ヲナシ其目其耳并ニ其他ノ覺性ノ諸官具ハ皆此印象ニ應セリ約メテ言ハハ禽獸モ感覺アリ而テ此感覺ハ人ノ性ニ感覺アルカ如ク意識ト伴ヒタル者ヲ得サルヲ得ス即チ言ハハ依テ以テ感動スルナリ然レ此意識ト云フハ必ス吾人意識ト云フ語ヲ一層高キ意味ニ見

即チ自己意識ノ義ニテ曉解スル所トハ別ニシテ其意ヲ含ムニ非ス吾徒ノ信スル所ニテハ禽獸ハ自ラ云々ナリト云フノ知識ナク嚴密ニ説キタラハ自己意識ハナクシテ自己ヲ知覺スル者トナスト物體ヲ知覺シタル者トナストノ間ニ區別ヲナスコト能ハサルナリ又自己ヲ其周匝ノ物體ヨリ別ナル存在トシテ分チ思フノ理會ハ有ラヌシテ密ニ言ハハ觀念モナク思慮モナク周匝諸物體ヲ了解スルノ智ナシ故ニ知覺ト云フ語ノ本義ニテ言ハハ感覺ハアレモ知覺ハナシトス何トナレハ知覺ト云ハハ其内ニ主ト客トノ差即チ自己意識ヲ含メハナリ此ノ内界主客ノ別ハ禽獸ニハ亡失ニ屬シ唯形體ノ感覺ニ就テ單素ナル一意識中ニ莫然トシテ混在スルノミ故ニ禽獸ハ感スレモ思慮セス又曉悟セス感覺ヲ以テ悟性ト理性ニ代フル者ニテ感覺ハ其嚮導タリ此ノ如クシテ受ケタル印象ニ其性普突ニ相應ス故ニ是如何シテ若クハ何故ニ云々タルヲ知ラス是即チ禽獸ノ以テ睿聖仁慈ナル造物者ニ依テ其生ヲ稟ケ其性ヲ賦セラレタル者ニテ其感覺醒覺ヲ受レハ其性ノ衝動一頓ニ發動運行シ直チニ作用ニ涉リテ自ラ己ムコト能ハサルナリ故



ニ此ニ於テ、人ニ於ケルカ如ク、別ニ靈智ヲ増加スルヲ要セサルナリ、是ヲ以テ、禽獸ハ感シテ發作シ人ハ感シ思ヒ而テ發作ス、故ニ造化ノ主ハ禽獸ノ爲ニ靈智ノ代用ナル一物ヲ賦與シ以テ其替盲ナレト、錯誤ナキ衝動ノ扶助ヲ假シ、其單素ナル需用ト相通シテ、單素ナル目的ヲ達セシメ、一層下等ナル線圈ニ屬セシメタリ

人ノ優等ナルヲ論ス

凡ソ、人ノ以テ、禽獸ニ超テ、其主權管轄ヲ得タルハ、此中ニ在リ、人ハ、禽獸ノ有セサル所ヲ有ス、靈智アリ、心意アリ、思慮ノ勢力アリ、曉解認知ノ勢力アリ、故ニ、人ハ此ノ如キ特准ヲ稟ル者タレトモ、若シテ把持スルコトヲ誤リ、靈智、理性ヨリモ、寧ロ、感覺ト感覺ト相通スル衝動トニ依テ、束縛ヲ受ル時ハ、正ニ其拋擲スル所ノ度ニ、準比シテ、其優等ノ度ヲ、殺滅セラレ、竟ニ以テ、禽獸ノ線圈内ニ沈没スルニ至ルナリ、然レトモ、稚幼早歲ニ於テハ、人ト雖モ、禽獸ト、少差アルノミ、豈努力セサル可シヤ、カノ諸種戎狄ト教育ナキ人種トノ如キ、未ダ曾テ禽獸ノ能ニ超越スルコト、遙遠ナル能ハス、亦唯、感覺衝動、本能ノ生類タルノミ

人ハ一ノ

一方ニ就テ、之ヲ見レハ、靈智ヲ剝奪セラレ、自己ヲ、理性ノ紀律ヲ以テ、克

目的ニ就テハ下等タルヲ論ス

勸スルコト、能ハサル者ハ、禽獸ノ下位ニ沈メリト謂フヘシ、何トナレハ、人ハ、禽獸ノ有スル、靈智ノ代用タル物ヲ、有セサレハナリ、人ハ、己ヲ導キ、欲情、肆肆ヲ制克シテ、本真ノ界限ヲ、知ラシムル所ノ本能ヲ有セス、故ニ、苟モ、其情欲、偏癖ニ、悉シテ、省ミテ、之ヲ、綱約スルコト、莫レハ、其悲哀スヘキ、情狀ヲ、現ハシ、太陽ヲシテ、恒ニ其運行ニ、因テ、之ヲ、照臨セシムルニ至ル、故ニ、人トシテ、其嗜欲ヲ、逞ウシ、自ヲ、克轄スル能ハサル者ハ、是其天爵ヲ、亡シ、其徳ヲ、取リ、自ヲ、貴重チ、隕スニ、非スシテ、何ソヤ

禽獸ノ記性ヲ論ス

今又、禽獸ニハ、記性ナキカト、問フ者アルヘシ、記性ノ官司ハ、一次、感覺、知覺シタル所ヲ、移シテ、心ニ、再現セシムル者ニテ、是唯、一次、心ニ、經過シタル者ヲ、意思中ニ、再生スルノミ、別ニ、生出スルコトナシ、故ニ、其靈智タルヤ、知覺、感覺ノ、本來ノ、發用中ニ、含蓄セシ者ノミ、存スルニテ、此感覺、知覺ヲ、移ス上ニハ、別ニ、含蓄スル者アルニ、非ス、故ニ、其本來ノ、發用ニ、物體ヲ、曉解スルノ、靈智アルニ、非ス、自己意識アリテ、客ヨリ、主ヲ、別ツコト、アルニ、非ス、唯、感覺アル耳ニテ、別ニ、含蓄セル者アルニ、非レハ、唯、此感覺、其次ニ、再生スルノ、外、別ニ、他事ナキコト、當然ナリ、今ソレ、感覺ニ、供スル、物體



ハ、照影トナリ、幻想トナリテ、此心ニ再ヒ現ルト雖モ、猶壁上ノ陰影、搖々  
浮動スルカ如ク、吾人ノ夢中ニ現ハル、泛然ハ影ノ如シ、蓋シ、禽獸ノ記  
性モ此類ノ者タルヘク、過去ノ事件ヲ的然ノ理會スルヨリモ、寧ロ、夢幻  
ノ類タルヘシ、初度明亮ニ、曉悟セサル者ヲ、其後ニ至リ一層能、曉會スヘ  
キノ理ナシ、初時、印象ノ源由タル外部ノ物體ト、自己トヲ、分別スル能ハ  
サレハ、其後縱ヒ此物體、理會中ニ再現スルコト、アリ得ルモ、其分別ヲ認  
識スルコト能ハス、故ニ、前時ノ知覺ニ供シタル物體、若シハ、事件ト、之ヲ  
知覺スル自己トヲ、結合スルハ、記性ニ、少ク可ヲサルノ元行タリ、然ルニ、  
知覺ノ記性ニハ、此元行、缺ケタリト謂フヘシ

禽獸ハ記  
取スルヨ  
リモ寧ロ  
投合併起  
タルヲ論  
ス

然ルニ、尋常、禽獸ニ於テ、記性ト名クル者ハ、覺性ニ供シタル物體、現在セ  
サル時モ、之ヲ理會スルノ能アリト思フ如ク、此ノ如ク、明亮ナルニハ非  
ス、唯其物體、再ヒ其五官ニ、現ハレタル時ニ、其物體ヲ、認識スルニ、過キサ  
ルヘシ、犬ハ其主人ヲ見テ、愉悅ノ情ヲ表ハシ、馬々其前時ノ家ニ至ル所  
ノ途ヲ擇フヲ知ル、是觀念ノ投合併起、寧ロ、感動ノ伴起ニ屬シテ、記性タ  
ルニ至ラス、蓋シ一定ノ物體ト、一定ノ感動感覺、混同融合シテ、相投合併

起スルニテ、物體、其耳目ニ再現スレハ、自然ニ、前時ノ感動ヲ提醒ス、故ニ、  
鞭ヲ見レハ、之ト連絡シテ、體驗シタル感覺ヲ伴起ス、故ニ亦、一次路傍ニ  
テ、一物ノ爲ニ、驚怖シタル馬ハ、既ニ其地ニ、其物アルニ非レハ、後其處ニ  
近ツク時ハ、復畏怖ヲ表スルナリ、是其地ニ、周匝ノ諸物、猶存シテ、初度ニ  
驚怖ヲ起セシ所ノ、一層直接ナル物ト、相伴在スルヲ以テ、其實境ノ再現  
スルニ及ヒ、前時ノ不愉快ナル感覺ヲ、提醒スルニ、足レリトス  
然ルニ、靈知ト、理性トヲ、稟ケタル有體ニ、至リテハ、此ノ如キ時ニ際シテ、  
再現シタル物體ト、之ヲ知覺スル主トシテ、前時之ヲ經驗シタル者トチ、  
相結合シ、其時ト、其事件ノ景況ト、并ニ之ト、相連絡シタル、其身ノ經歷ト  
ヲ、心ニ喚起スヘシ、是即チ、本來謂フ所ノ記性ノ作用ナリ  
然ルニ喚起ニモ、此ノ如キ運用アリト思フハ、絶テ道理ナキコトナリ、禽  
獸ニ於テハ、喚起投合シタル理會、即チ、感覺アリテ、因テ以テ相喚起スル  
ト、兼テ、前時其感覺ヲ、生シタル物體ヲ、喚起スルトノ、事アルノミ、是ヨリ  
外ノ事アリトスルモ、絶テ其明證アルナシ、今甲ノ物アリテ、乙、丙、丁ナル  
周匝ノ諸物ト、相伴ヒ、是ニ由テ、一定ノ癸ト云フ感覺ヲ、生シタリトシ、又



再ヒ其後ニ方リテ、甲ノ物若クハ、乙丙丁ノ内、何レニテモ一ツ伴ヒタル物アリトセハ、カノ癸ト云フ同一ノ理會、又一次盛ニ提醒セラル、カ、如キノミ

論定ノ總目 余謂フ、吾人、禽獸ニ於テハ、稍的確ニ之ヲ名狀シ得ルコト、次ノ如キニ過

キス、是固ヨリ、感覺ヲ有シ、又、單素ナル意味ニテ言ハ、物體ノ知覺ヲ有ス、然レ、是唯、其感覺ト連絡シテ、僅カニ、之ヲ有スル耳、カノ知覺ノ真義ヲ徵スル意味ニテ、其中ニ靈智ノ曉解ヲ、含ミタル者ヲ、有スルニ非ス、此感覺ト、其混淆セル知覺トハ、蓋シ之ヲ生シタル物體、既ニ存セサル時モ、照影、若クハ、理會トナリテ、再現スルナルヘシ、而テ、此ノ如ク、再現シタル處ニテ、吾人、禽獸ノ記性ト、名クル者ヲナスナリ、然レ、是人ニ於ケルカ如ク、其物體、若クハ、事件ヲ前時ノ履歷ト結合シ、其身自己ノ觀念ヲ、知覺スル主ナリト、立ルノ比ニ非ス、唯其物體、再現スル時、之ヲ以テ、前時伴ヒ來ル感覺ヲ、再ヒ提醒スル耳

余固ヨリ自ラ知ル、此說、尋常世ニ禽獸ノ智ニ就テ主張スル見解ニ、非ルナリ、世多ク、禽獸ヲ理會シテ、以謂ヘラク、是亦、自己ニ似タル能力ヲ有ス、

而テ、若禽獸ヲシテ、此ノ如キ理會ヲナスニ足ラシメハ、恐クハ、彼モ亦交互ニ、人ヲ理會シテ、已ニ似タル才能ヲ、稟ケタル者ナリトセントス、是孰モ正シキ理會ニ非ルナリ

第二篇 腦并ニ神經ノ一定セル形狀ニ、係ハル心意ヲ論ス、

事由ヲ叙ス

ノ現象中ニハ、一定ノ現象アリテ、此心ト、神經ノ機官ト、相關シテ生スル現象アリ、是親密ニ、此機官ノ形狀ニ屬スル者ニテ、性理家ニテハ、屢之ヲ忽略セリト雖、其之カ表章ヲ要スル者アリ、余カ指ス所ハ、睡眠、夢、暈遊、癡狂ノ現象ニシテ、心ノ發作、此情狀中ニ合マレ、此現象ヲ發スル所ニ於テハ、性理學ノ講究ニ於テ、本來ノ目的タリ、然ルニ、是皆、之ヲ解スルニ、極メテ難キ問題ヲ、表スルコト多シ、然レ、是マテ世ニ曉解スル者少ナキ故ニ、此心ノ發作、ノ消長ヲ論スルハ、奇ナラヌシテ、益ナキ事ニ、非ルナリ

問題ナル現象ヲ、解明セムト欲シテ、生理家ニ於テ、時トシテ、論述セシ見解ト、考定トハ、眞ノ心理學ト、符合スルコト少ナキヲ以テ、性理家ニ在テ、此現象ヲ講究スルコト、一層切要トナレリ、生理家ハ、腦ノ器具ヲ觀テ、自然ニ思慮ノ現象ヲ、起スニ足レル者トシ、尋常思慮ノ運用ヲ、管轄シテ、一

時トシテ  
生理家ノ  
取レル見  
解ヲ論ス



層高キ本元タル、靈智ハ、アルナクシテ、尋常、此心、即チ、精神ノ本元ニ、歸シタル運用ハ、一種ノ自動力ニ依テ、輸出シ、其間、我カ意識ト、意ノ用トハ、全ク止息シテ、腦器、自ラ發動スル者ナリト云ヒ、又意識トハ、其實、唯腦ノ官能ニシテ、感覺ト、意思トノ外ノ者ニハ、非スト云ヘリ、是直白ナル物質學家說ニテ、吾人、人ニ於テ、心、又ハ、靈魂ト名クル者ノ、真個ノ存在ヲ、全然傾覆スル學理ナリ、果シテ、腦ノ機官ハ、カノ醒時ニ在テ、吾人ノ有體ニ於テ精神ノ元ニ歸シタル運用ヲ、睡中ニ輸出スル如ク、自ラ發動スルニ足リトセムガ、果シテ、思慮ヲシテ、腦ノ官能タルコト、消化ノ胃ニ於ケル如クナラシメムカ、果シテ、然ラハ、吾人何ノ須要カアラム、是唯一時、腦ノ發作スルノミニシテ、其他、何事カアル、是果シテ、何ノ證憑カアル、其心ト指ス者、唯腦ノ發作タラハ、其實、果シテ、何物ソヤ、而テ、其人ト指ス者、唯生活セル一機關ダラハ、其一層高邁ナル勢力ヲ、稟ケタリトナル者、果シテ何物ソヤ

故ニ、論題ナル現象ニ於テハ、カノ真正ナル天道ノ觀、心理ノ覺ト、共立シテ、相戻ラサルノ道ヲ求メ、以テ之ヲ解釋スルコト、切要ナルノ事トナレ

定例不例ノ別ヲ論ス

此諸現象ノ中、總テ同シク、腦及ヒ神經ノ情狀ト、親密ニ連絡シテ、是ト相關スル者トシテ、見ルヘシト雖、其ハ、定例ノ發用トシ、他ノ一ハ、神經、殊ニハ、腦機ノ、不例ニシテ、錯亂セル情狀ヨリ、發見スルコト、見ユ、定例ノ種類ニ、睡眠ト、夢トアリ、不例ノ種類ニ、睡遊、并ニ所謂墨斯墨利士謨術、并ニ癡狂等ノ錯亂セル精神ノ諸狀、アリトス。

第一章 睡眠

此語ノ意味ヲ論ス

睡眠ハ、何事ナリヤ、此名ノミニテ、此問題ノ解釋ニ供スヘシヤ、蓋シ、尋常諸事物ノ名ハ、多ク、然ル如ク、此語ニテ、一種別ナル、景況消長ノ度ヲ、形容セルヲ見ル、是其事ヲ、僅カニ講解スル定義タルヨリモ、寧ロ、問題ナル事實ノ、標目タル品性ヲ、示シタルナリ

睡眠、即チ英語ノスリープト云フ語ハ、日耳曼語ノ、スラーフオン、眠ルト云フ語ヨリ、來レル者ニテ、拉丁ノスムニユズ、眠ルト云フ語ハ、シユビニユズ、後ロニ屈スルト云フ心ヨリ、來レルカ如ク、此狀ニ至リタル時、體ノ屈スル形容ヲ、指シタルナリ、即チ、筋維弛緩シ、支撐スルコト、無ケレハ、骸



軀後ロニ倒レ下ニ横ヘルノ謂ナリ、是視察者ニ在テ、其體ヲ目的トスレハ、睡眠ノ情狀中第一ニ目ニ觸レテ、尤著明ナル效驗ナリ、然レ、此語ハ、唯此ノ如キ意味ノ外、別ニ講解ニ供スヘキナシ

(第一) 睡眠ハ最初意識ノ死亡ヲ含ムヲ論ス

然ラハ此外ニ睡眠ト云フハ、何事ナリヤ、今、精密ニ學術上ノ位置ヲ、目的トシテ、睡眠ト名クル者ニ於テ、體ト、心トノ、狀トシテ、現ハル、所ノ、諸種ノ形象現象ヲ、視察スレハ、余カ曉解スル所ニテ、第一初頭ニ、最も昭著ナル事實ハ、意識ヲ亡フコト即チ、是我ナル者ヲ、亡フコトナリ、然レ、恐ラシクハ、是全ク亡フニ非ス、猶自ラ存在セリト、見ユレモ、自己意識ヲ亡フニテ、時ト處ト、總テ外部ノ境遇ト、相關シタル我ナル者ヲ、亡フナリ、尋常吾我ヲ亡フト云ヘリ、此尤密ナル表言ニテ、能之ヲ、形容シタル者ナリ

吾人、此時其亡失ヲ覺エサルヲ論ス

睡眠ハ、最初ニ、意識ヲ、亡フ中ニ、生スルヲ以テ、其睡ルト云フ事實ノ、意識ニ供セサルハ、當然ナリ、何トナレハ、意識ナクアリシト云フハ、是一ノ意識ナレハナリ、此事實ノ、比喻ハ、尋常屢見ル所ニテ、今汝、一夕、看書ノ時、倦ミ來リ、茫然其疲倦ヲ覺エ、加旃、時トシテハ、假寐莫然タルニ至ルコトアリ、此時汝、思慮ノ流レヲ、逐ヒ、其線ヲ、間斷ナク、持スルコトハ、難シト覺ユ

是、何、如、シ、テ、發、ス、ル、ヤ、ヲ、論、ス

ヘシ、而テ、此時汝、ハ、一ノ念慮ヲ、モ、有セスシテ、竟ニ、一時、冥ニ、眠ニ、就キテ、手ニ、齎ス書籍、不意ニ、落チテ、汝ヲ、醒覺スルニ、至ルヘシ、加之、人或ハ、五分時間モ、眞ニ、頭ヲ、低レテ、在リシ者、自ラ、醒覺スルニ、及ヒ、其實ニ、全ク、睡ラサルヲ、堅守シテ、之ヲ、拒ムコトアリ、是其實、其人是ニ、就テ、意識ヲ、有セザリシニ、由ルナリ、故ニ、吾人、曾テ、直接ニ、睡中ノ、狀ヲ、知ルコト、能ハス

此意識ヲ、亡フハ、形體ノ、覺性ノ、發作ナキコトヨリ、生ス、是五官ハ、外部ノ、物ト、關係シテ、自己ヲ、知ラシムル現象ヲ、我ニ、供スル者ナリ、睡中ニハ、此外界ト、相通スル、諸察、皆閉鎖セラレテ、寂然放落シテ、恰モ、外界ニ、就テ、意識ヲ、有シタル、連絡ヲ、離レテ、飛ヒ、去ルカ、如シ、此時ハ、既ニ、我カ、時間空間ノ、關係ヲ、認ルナク、加旃、其時間空間ノ、關係中ニ、來ル材料タル、我カ、自己ノ、體ヲ、モ、認ルナシ、蓋シ、我カ、此觀念ヲ、得ルハ、皆五官ニ、由レハナリ、故ニ、此關係ノ、意識ヲ、亡フ所ニ、テハ、睡眠ニ、於ルモ、死ニ、於ルカ、如ク、時間空間ノ、理法ト、其疆界ト、チ、脱シ、又、我カ、體ト、總テ、他ノ、物質ノ、存在トニ、拘ハラス、悉ク之ヲ、脱シタリ、然レ、心ノ、發作ハ、猶存スルコト、疑ヒナシシテ、吾人、此間ノ、意思ト、感動トニ、就テハ、猶意識ヲ、有ス、唯其他ハ、一物モ、ナク、總テ



自己意識ハ消滅スルナリ

睡眠ハ第一ニ神經ニ係ハル

故ニ睡眠ハ第一ニ神經ニ係ハルコト、見ニ生活ノ官ニハ係ハラスト見ニ生活ノ官ハ常ノ如ク運行シ、加旃其力一層倍スルコトアリ、又筋維ニモ係ハラサルコト、見ニ筋維ハ猶作用ニ供スヘシ、唯專ラ神經ニ關シテ、神經疲倦シ、陸續メル發用ニテ、其活潑ナル力、空乏シテ、休息ヲ要スルニ至リ、發作欲ミテ、漸クニ落下シ、此ノ如クニシテ、余カ前ニ云ヒシ意識ノ亡失ニ至ルナリ、故ニ睡ルト云フハ、全ク神經ニテ、全身ニハ非ルナリ

五官逐次ニ睡リニ就クヲ論ス

諸官其發作ヲ失ヒ、睡リニ落ルハ、一次ニ於テセスシテ、逐次ニ於テス、第一ニ視官脱シ、眼瞼下垂シテ、閉ルニ至ル、之ニ次ク者ハ、恐ラクハ、味嗅ニ官ナルヘシ、聽二官ハ、脱去スル者ノ中ニテ、最後ニ位ス、故ニ睡リニ落ちタル時、喧嘩ハ、容易ニ我ヲ攪破ス、故ニ又、他人、我カ名ヲ呼ビ、或ハ、我ニ觸レテ、容易ニ我ヲ醒覺ス、故ニ、此二官ハ、醒覺ノ時ニ、最首タリ、而テ又、一官ハ、既ニ睡リテ、他ノ官ハ、猶醒ルコトアリ、今汝カ目ハ、既ニ睡リタル時、汝カ傍ヲニ坐スル人、言フ事アレハ、汝猶之ヲ聞クヲ得ルカ如シ、死ニ於

(第二)身體管束ノ失亡ヲ論ス

ケルモ、此ノ如ク、既ニ見ルコト能ハス、又言フコト能ハサルモ聞クコトアリ、此、自己意識ノ失亡ト相伴ヒテ、身體管束ノ失亡アリ、即チ、支體ノ官具ヲ、我カ意ニテ、管束所轄スルヲ、亡フナリ、是五官ト、神經ノ發作ヲ失フヨリ、起ル者ニテ、吾人、何時ニテモ、此身體上ニ、意ノ力ヲ陳フルハ、唯神經ニ依テ、然ルニテ、直チニ意ノ發出スルニハ、非ルナリ、故ニ、神經疲乏ニ至リ、其力ヲ費耗シテ、既ニ動力ヲ供スル能ハス、又、高キ靈智ノ命令ヲ施行スルコト能ハサルハ、意モ既ニ形體ノ官具上ニ、其管轄ヲ維持スルコト能ハス、其物質上ノ小王國ヲ、制御スルコト能ハスシテ、其政令モ廢シ、其王威モ息ムナリ、此時ニ當テヤ、忽焉トシテ、生活ノ急潮ヲ停メ、即時ニ、其王、其朝臣侍臣ノ五官ヲ、世々斷エサル、睡眠中ニ、閉鎖シテ、カノ幻劇ヲ演スル、迷宮ノ説話ヲ、現出スルナリ

睡眠ニ近ツク徵ヲ論ス

是チ以テ、睡眠ノ近ツク最初ノ、徵候ノ一ハ、筋維ノ弛緩、眼瞼ノ垂下、頭顱ノ低下、兩臂ノ痿放、體軀ノ眞立ヨリ、横臥ノ位置ニ、沈ムナリ、カノ禮拜堂ノ講説ニ於テ、頭顱、前面ノ横欄ニ請ヒ、親懇ニ支柱セムコトヲ、求ムルニ



類例ナル  
事ヲ論ス

際シ之ヲ引カノ猶且懇請スルヲ免カレシムルハ幸ナリト謂フヘシ、  
此論題ナル事項ハ形體ノ管束ヲ亡フコトニテ此睡眠ノ現象ハ密ニ醉  
醒ト眩暈ノ現象ト相似タリ是何レモ神經ノ發作ヲ失フハ同一理ニテ  
神經ハ意ノ力ヲ形體上ニ行フノ媒介タレハナリ然ルニ其神經ノ發作  
ヲ失フコト一ノ例ニテハ自然ニ生スル所トシ他ノ例ニテハ自然ナラ  
サル原因ニ由ルト雖モ意力ヲ失フノ直接效驗ハ同一タリ之ト同一ノ  
效驗一定ノ疾病ニテモ生シ又竟ニハ死ニ於テモ然ル者ナリ  
是ト類例ニテ心ノ運用ニ就テ意ノ管束ヲ失フコトアリ是實ニ心ニ於  
ケル所ノミニテハ睡眠ト其本體ノ姿勢ヲ同シ其品性ヲ具ヘタリ此時  
心上ノ發作ハ猶行ハルト假定スヘキ道理アリ其時多分ハ吾人心ノ  
發作ヲ知レモ思慮ハ其思慮ニテ自由ニ往來シ曾テ之ヲ規定シ之ヲ管  
束スヘキナシ是吾人醒時ニ在テ爲シ得ル如ク我カ思慮ニ於テ之ヲ管  
束スルノ首タル勢力ハ實ニ他ノ思慮ヲ省シテ中ニ存スレモ此時ニ當  
リテハ我カ勢力ニテ一定ノ思慮ヲ把握シテ他ノ念慮ヲ省キ去リ専ラ  
此ニ我カ心ヲ注着スルコト能ハス且又其意思ノ中ニ快カラサル脈絡

(第三)心  
ニ就テ管  
束ノ失亡

アルモ之ヲ廢シ之ヲ拋擲スルコト能ハス吾人如何ニ努力シテ之ニ克  
クムト欲スレモ此不愈ナル印象ヲ何如トスルナシ吾人ハ我カ自己ノ  
意思ト其偶然ナル伴生トノ掌中ニ在リ是此心ニ固有スル力管轄ヲ受  
ケス自在ニ運行シ唯其固有ノ理法ニ因テ開導ヲ受ケ以テ我ヲシテ至  
多至奇ナル幻影ヲ見セシメ恰モ其實在タルカ如シト雖モ其實我ハ唯  
其劇場ニ於テ受動ノ看客タル耳

心ノ能力  
ハ睡眠中  
ニ止息セ  
サルヲ論  
ス

或人ハ假定シテ以謂ヘラク睡眠中ハ心ノ能力或ハ其一分タケ或ハ全  
體ヲ舉リ止息シテ就中一層切ニ意ニ關スル一等高キ能力殊ニ然リト  
然モ心ノ作用ノ發動スル間即チ心ニ意思ノ存スル間ハ其發動其意思  
ハ一種ノ方向ヲ指シテ一種ノ目的ノ上ニ布陳セサルヲ得ス故ニ睡眠  
中ニ一次全ク止息スト云フハ一モ明證ナシ吾人此心ヲ理會シテ發動  
思慮スレモ其能力ハ少シモ布陳スルコトナシト思フコト能ハサルナ  
リ何トナレハ心ノ能力ト云フ者ハ即チ唯云々ノ方法云々ノ様法云々  
ノ物ニ就テ發動スルニ堪ヘタル者ヲ指セハナリ或ハ知覺タリ或ハ理  
會タリ或ハ記性タリ或ハ想像タリ或ハ辨決タリ或ハ論辨タリ或ハ又、



其發動スル瞬間ニ表ハル、他ノ能力タルヘシ、是必ス、此心ノ固ヨリ知  
ル所ノ能力ノ一タルヘシ、然ラサレハ、吾人、其存在ノ、他時曾テ意識ニ、供  
シタルコトナキ新能力ヲ、睡眠中ニ、發出ストセムカ、是豈果シテ然ラ  
ヤ  
然ルニ、其能力、睡眠中、其發動ニ於テ、實ニ少差ナキ能ハス、是前ニ指目シ  
タル源由ニ、係ハル者ニシテ、首トシテ二個ノ源由アリ、第一ハ、惡慮ノ接  
續ニ就テ、意ノ管束、全ク止息スルコト、第二ニハ、自己意識ノ失亡、殊ニ依  
テ以テ、或ハ身體官具ノ用、其時間空間、并ニ、凡テ知慮スヘキ物體トノ、關  
係ヲ失亡スルコトナリ、故ニ第一ノ源由ニ依テ、我カ思慮往來スルコト、  
定規ナク、連絡ナシ、故ニ、此時、事物總テ、相附着スルコトナク、伴生ノ理法  
ニテモ、之ヲ分解スルニ、十分ナラス、吾人、思慮ノ狂暴ナル潮汐中ニ、埋沒  
シテ、之カ爲ニ、流蕩セラル、コト、猶急流奔湍ノ際ニ、一輕葉ノ漂ヒ去ル  
カ如ク、猶颯瑟ノ舞蹈ニ於テ、彼此ニ旋回スルカ如シ、朦朧トシテ醒テ求  
メ、自己管束ノ繩勒ヲ持セムト欲スレバ、復只、之ヲ失ヒ、再ヒ、怖ルヘキ舞  
蹈中ニ、帶回セラル、ナリ

何ヲ以テ  
符合スル  
コトナキ  
ヤヲ論ス

第二ノ源由、即チ感覺ノ意識ナク、知覺スヘキ物體ノ、我ト關係ナキコト  
ニ由テ、我カ心ノ運用ニ、適宜ナルコト、符合スルコト、全ク欠ルニ至  
リ、時間空間、并ニ人身同一ノ理法ハ、擧リテ之ヲ視ルコトナク、而テ吾人、  
之ニ就テ、其理ニ合セサルモ、之ヲ覺ユルノ意識ナク、又奇々怪々、尤モ反  
言對ニ屬スル結合ニモ、驚異スルコトナシ、爰ニ在ルカトスレハ、彼處ニ  
在リ、今ハ此ト視、又其ト視、其景色ハ、孔尼コニチカツト可低加多ノ山間ニ、在ルカト思  
ヘハ、烏拉ノ山脈ニ、亞刺比亞ノ沙漠ニ、在リ、然ルニ、吾人、此ノ如キ變化ヲ  
見テ、曾テ至奇ナルコトトセス、今禮拜堂ノ偏間中ニ、徜徉スレバ、其時宜  
ニ適セサル、殊ニ襪縷ナル衣ヲ蒙リ、又忽チ野牛ノ我カ後ニ在テ、草ヲ喫  
スルヲ見ル、此ノ如ク、轉移瞬間ニ在リ、蓋シ、吾人、外界トノ關係ニ就テ、意  
識ヲ有セサルハ、何ソヤト謂ハ、之ヲ有スルハ、獨リ五官ニ在リテ、依テ  
以テ時間ト、空間トノ理法ヲ、認識スルナリ、然ルニ、睡眠中ハ、此五官迷沒  
ニ屬スルヲ以テ、時間ト空時トハ、我ニ於テ何カアラム

上ニ擧ル  
源由、其諸

上ニ擧ケタル源由ニテ、睡眠中ニ布陳セル心ノ諸種ノ能力ニ就テ、奇怪  
且支離ナル發動アルハ、十分ニ、其講釋ヲナスヘシ、記性ハ、過去ヲ擅マ、



現象ヲ解  
釋スルニ  
足ルヲ論  
ス

ニ、諸種ノ時限ニ於テ、之ヲ示シ、諸物競ヒ現ハレ、事件並ヒ過キ、尋常見ル  
所ノ形容顔面、其眞ニ存スル如ク、又其眞ニ在リシ如クハ、見エサルナリ、  
吾人動モメレハ、故人ト説話スルニ、其人數年前ニ死シタル事ニ於テハ  
毫モ意思中ニ生スルコトナシ、故ニ、此時、印象、感動、念慮、妄想、并ニ總テ此  
諸能力ノ伴生アリト雖モ、記性ト想像トハ、極メテ稀ニシテ、中ニモ辨決  
ト、論辨トニ至テハ、殆トアルナキカ如シ、然ルニ、初頭ハ、此ノ如ク、見ユレ  
ル、之ヲ密ニ查覈スレハ、其實、此ノ如キ心ノ、自然ナル運行中ニ、總テ此諸  
力ノ布陳アルハ、明カナレモ、唯上ニ舉ケタル、二ノ源由ニ依リ、變更ヲ受  
ケテ以テ、奇異怪々ノ效驗ヲ呈スルナリ

心ノ諸能  
力、直チニ  
意ニ關セ  
サルヲ論  
ス

今若、心ノ能力ハ、其發動ト、運用トニ於テ、何レモ、全ク意ニ關シテ、意ノ許  
可ナク、意ノ申合ニ於テセサレハ、一モ、其勢力ヲ有スルコト、能ハサル者  
ナリト、是實ニ證ス可ラシメハ、睡眠中ノ如ク、意ノ威權、一時止息シテ、之  
ニ、依頼スル諸能力、其勢力ヲ失ヒ、潛居セサルヲ、得サル時ハ、意ハ既ニ已  
ニ、其王位ヲ有セサルヘシトス、然ルニ、縱ヒ悉皆ナラサルモ、心ノ運用ノ  
多分ハ、其然ラサルコト、眞然ナルヲ知ル、此能力皆、自然ノ運用ニ屬スル

何ニ由テ  
意ノ勢力  
ノ止息ス

ハ、猶意ノ發作ニ屬スルカ如ク、加旃、其中或ハ、一二ノ時例ニ於テハ、直チ  
ニ意ノ管轄ニ屬セサルカ如ク、見ユル者アリ、譬ヘハ物ヲ記シテ、之ヲ追  
思シ得ルト、之ヲ忘ル、トノ如キ、又周匝ノ諸物ヲ、知覺スルト、依テ以テ  
後來、云々ノ意思、伴生ノ理法ニ依テ、觀念ト、印象トノ連絡ヲ、失ハサルト  
ノ如キ、皆我カ選ヒニ、供スル者ニ非ルカ如シ、又或ハ心ノ運用ノ中、其一  
ニハ、他ノ運用ニ比スレハ、一層意ト密ニ連絡シ、一層直チニ、意ノ媒介ヲ  
受クル者アリ、然モ、余謂フニ、何レノ能力ニテモ、意ノ指揮ナケレハ、發作  
スルコト能ハス、意ノ欲スル所ニ、抗スル能ハスト云フ如クニ、意ニ關屬  
スル者ナルコトハ、證ス可ラサルナリ、蓋シ、事實ニ據レハ、心ノ發作ノ端  
緒、意ニ依テ、一次運用ニ付セラレタル時ハ、其發作、後來一時、猶進行シ、意  
ハ既ニ引キ去リタルモ、猶進行シテ、或ハ睡中、若クハ、深ク幻想ニ、沈ミダ  
ル時ノ如ク、其主ナキモ、其業ヲ嗣クヘキコト、見ユマリ  
此ノ如クナレハ、何ニ由テ睡中ハ、心ノ運用ヲ管束スル、意ノ勢力ハ、止息  
スルニ至ルカ、何物カ之ヲ生スル、是猶、身體ニ就テ、意ノ勢力ヲ失フト、一  
般ニシテ、神經ノ機關ノ發作ナキヨリ來ルカ、蓋シ、意ノ止息スルハ、必ス



ルニ至ル 神經ノ發作ナキヲ伴ヒ之ト相連絡シテ見ユルト云フ事實ト神經ノ發作ヲ止ムル者ハ何ニテモ亦意ノ止息ヲ促スコト見ユルハ猶疾病癡

狂神遊麻藥醉中等ノ如キ事實ト又其一ヲ發スル度ハ其一部ノ亡失ニ

テモ全體ニテモ他ノ一ノ度ト相比例スルト云フ事實ト此三ツノ事實

ニ據レハ余ニハ神經ノ發作ナキニ由ルト云フ觀念勝レリト見ユ

然レハ即チ睡眠ノ首タル現象ナリト見ユルハ感覺スル意識ノ失亡身

體ニ就テ意カノ失亡心ノ運用ニ就テ意カノ失亡此三ツニ止ルナリ

然レハ睡眠ハ最首トシテ神經諸機ノ攪動ニシテ其疲倦缺乏ヨリ發ス

ルコト見ユ天然ノ理法ニテ神經モ恒ニ發作シテ息マサルコト能ハ

ス休憩ハ必ス努力ノ後ニ來ラサルヲ得ス故ニ一ノ原由アリテ愈速カ

ニ神經ヲ疲勞スレハ其睡眠ヲ促スコト愈速カナリ是吾人知ル所ノ事

實ニシテ小兒ノ時ノ如ク女子ニ於ケルカ如ク又詩人技術家等ノ感性

ノ強キ人ニ於ケルカ如ク其體質尤感動シ易ケレハ一層睡眠ヲ嗜ム者

ナリ是ト表裏シテ懶惰ナル性質ニテ何ニモ感動スルナク神經ヲ勞ス

ルコトナキ者ハ正ニ相反スル根源ヨリ睡眠ニ落ル者ニテ神經ノ發動ノ

疲倦ニハ非ス其神經十分ニ存在セサルナリ老智曰ク吾人若動物性ト

植物性即チ滋養性ト一次ニ睡ラシメハ竟ニ醒覺ニ至ルノ期莫ラシム

ヘシト是即チ死ノミ喜羅可利多斯曰ク睡中ニ在テハ人々各其世界ヲ

有シ醒時ニ至レハ人々相通シテ一ノ世界ヲ有スト又他人ノ言ニ恰モ

能ク之ヲ形容シテ曰ク睡眠ハ心潮ノ滿干ニシテ人生海中ノ事タリト

第二章 夢

前章ニ表章シタルハ睡眠ハ先首トシテ神經機關ニ係ハリ其疲乏ニ因

テ五官其發作ヲ止メ恰モ死ノ如キニ至ルコトナリ然ルニ同時ニ亦滋

養ノ機關ノ以テ此生活ニ欠ク可ラサル官能ハ運行シテ息マサルナリ

而テ其感覺器ノ發動ヲ停ムルヨリシテ(第二)意識ノ亡失ヲ生ス是少ク

モ外界ノ刺激ト相連絡シ相關涉スルコトニ就テハ必ス然ル者ナリ(第

二)身體即チ筋維ノ軀ニ就テ意カノ失失ヲ生ス(第三)心意ノ運用ニ就テ

意ノ管束ノ亡失ヲ生ス然レハ心ハ猶發動ニ屬シテ存シ其運用進行シテ

息ムナシ唯意之ヲ管束セサルノミ

今ハ乃チ一層別段ニ睡眠中ノ心ノ發動ニ就テ其種別ナル形狀ヲ取テ

五百五十九

以前ノ講  
究ニ反リ  
論ス



之ヲ論セムト欲ス、是即チ前既ニ論定シタル元理ニ據テ、容易ニ講解シ得ヘキ情狀ナリ

夢ハ何物 然ラハ夢ハ何物ナリヤ、余之ニ應ヘテ曰ク、夢ハ睡中ノ心ノ發作ニテ、一定ノ道理ニ因テ、吾人、其後ニ、之カ意識ヲ有スル者ナリ、然レ、意識ヲ有スルハ、睡中ノ心ノ發作ニ於テ、悉ク然ルニ非ス、恐クハ、多分ナルヘシ、感性ト意トハ、多分發作ナシ、故ニ、心ノ運用ヲ、率非先ンシテ、之ヲ指揮スル管束ノ本元、退縮スルヲ以テ、諸種ノ思慮ト、感動ト、心ノ製煉局ニテ、製造セラル、トモ、諸種ノ能力ノ布陳ニテ、奇怪ナル煉丹仙藥ヲ、製煉スルトモ、多分後來ニ至リ、之ヲ報告セサルナリ、然ルニ其感動、一部分ハ、生シテ存在シ、而テ、此感動ヲ、全ク失ハサラシムル爲ニ、夢ヲ破ル原因、其間ニ來リ、而テ又、此心ノ理會、尋常ヨリモ一層活潑ニ、印象ノ力ヲ添ヘテ、現ハレ、以テ吾人ヲシテ、其後ニ在テ、思慮シタルコトヲ記シテ、之ニ追憶セシム、是即チ夢ノ哲學ナリ、此ノ如ク、夢中ノ我カ思慮ヲ、追憶スルコトヲ、吾人、夢ト名ケ、殊ニ、一層多ク、此語ヲ用ウルハ、其睡中ノ思慮、理會、交互ニ、相附着シ、相連絡シテ、稍一種ノ合一ヲ、成ス者ニ於テス

吾人ノ夢ノ源因ヲ論ス

吾人ノ夢ハ種々ナル境遇ヨリシテ、其形容ト、品性トチ、取ル者ニテ、是全ク、偶然ナル者ニ非ス、又悉ク、理由ナキニ非ス、故ニ、既ニ其連絡ヲ、踪跡シ能ハサル時ニテモ、其夢ト、其時ノ體、若クハ、心情ノ形象トノ間ニ、云々ノ連絡存シテ、若知ル可ラシメハ、依テ以テ、夢中ノ形容、顔色ノ彷彿ヲ、解釋スルニ、足ルヘシト、思フ事アリ、吾人ノ夢ノ、首タル源因ト、云フヨリ、恐クハ、其變化ヲ、生セシムル他カト、云フコト、一層正シカルヘケレ、其質ハ、(第一)、吾人現在ノ體上ノ感覺、殊ニハ、形體諸機ノ内部ノ狀情ト、(第二)、吾人以前醒時ノ思慮、殊ニハ、一時心ニ、旺シタル情狀トナリ

第一ノ譬喩

此變化ヲ、生セシムル源由ノ、第一ニ就テハ、其運用ノ例、蓋シ、諸人ニ於テモ自己ノ經驗ニ、存スヘシ、汝若、疎硬ナル牀蓐上ニ、寢ス、若クハ、狹窄ナル位置ニ、臥シタル時ハ、骨ヲ傷ツキ、若クハ、楚撻ニ遭フト、夢ムヘシ、又若、汝カ衣帶ニテ、頸ヲ強シ締メタル時ハ、縊ルト、夢ミ、又汝カ晚餐ニ當リ、殊ニ鹽梅ニ佳ナレ、消化セサル食餌ヲ、饜ケタル時ハ、汝カ夢裏ニ、肥大ナル黑熊來リ、汝カ胸膈ニ當リテ、泰然トシテ坐シ、又或ハ、嘗テ一武人ノ、飽食ノ後ニ、夢ミタルカ如ク、暗黒ノ王公アリテ、足ヲ伸ヘテ、其胃部ノ上ニ、横



フルコト、猶今、楊丘 波士敦ニ在リ 碑上ノ藝ノ如シ又士低瓦的氏ノ說話ニ、一貴人アリ其寢ニ就クヤ數鐘ニ熱湯ヲ盛り、脚冷ヲ防キケルニ、其夜、挾德那山ノ噴火口邊ヲ徘徊シタリト、夢ミシト、是亦正ニ此例ニ當リテ、形體ノ感覺ニテ、足蹠ニ熱ヲ覺ヘ、以テ其地位ノ觀念ヲ提起ス、是其地モ、亦此ノ如キ感覺ヲ起スヘキ所ナルヲ以テ、竟ニ此念、其真ニ永續セル感覺ト、混同シテ、亦實在ノ品性ヲ取り、以テ、此夢ノ形容ヲ占メタルナルナリ、故ニ今若汝カ匪中ニ於テ、魁丘ノ落ルヲ聞キ、若クハ、不意ノ聲響ヲ聞キ、依テ以テ、汝ヲシテ、其真因ヲ知ラシムル如ク、朗然汝ヲ醒覺スルニ至ラス、汝其響ヲ聞キ、感受ノ器、唯一部分ノミ、醒覺シタル時ハ、恐ラクハ、汝正ニ之ヲ誤リ認メテ、砲聲トナシ、其瞬間ニ、汝ハ方ニ海上ノ戰中ニ在リ、或ハ、海賊ト奮闘ニ從事スヘシ、吾人ノ夢ハ、此ノ如クニマテ、此類ノ感覺衝動ニテ、感染ヲ受ル者ニテ、之ヲ巧ニニ裝置スレハ、汝カ思フ如ク、他人ノ夢ヲ提起シテ、之ヲ結ハシムルニ、少クモ、稍彷彿ヲ得セシムヘシ、一士人、自ラ此法ニテ、其匪中ニ決闘ヲナシ、委曲ノ技ヲ盡シ、竟ニ拳銃ノ打發ニ至ルマテ、夢ミタルヲ說話セリ、其拳銃ハ、其響ニテ、自ラ醒覺セシ所ノ瞬間

潜伏病ヲ論ス

ニ、其掌中ニ置キタル者ナリト、是唯受動ノ夢ナリ

第二ノ源因ヲ論ス

一定ノ形體ノ疾病、起首潜伏セル者、吾人醒時ニ之ヲ知ラサレ、匪中ニ、自ラ之ヲ感スルコト屢アリ、蓋シ此時、其體ノ機關、内部ノ感動ヲ、一層能覺ユルヲ以テ、其夢ヲ感化スルナリ、此ノ如キ事例ニテハ、夢ハ、形體機關ノ情狀ニ於テ、指針ノ類ノ用ヲナスナリ、カノ稍一定ノ夢ノ、陽ニハ、先兆ノ品性ヲ具スルコトアルモ、此理ニテ、之ヲ解釋スヘキコト疑ヒナシ

第二ノ源因ハ、吾人ノ夢ニテ、直チニ其事ヲ見ルニハ、非スト、雖、其以テ、一種ノ形容ヲナシ、品性ヲ取ル所ノ者ニ至テハ、少クモ、皆我カ前時ノ思慮、若クハ、正サニ心ノ旺スル業課、若クハ、平昔ノ性質ニ於テ、現ハル、ナリ、蓋シ、吾人、睡眠ニ落ル時、心ノ發作ハ、猶進行スルコト、睡前ニ異ナルナシ、故ニ何如ナル方向ニテモ、如何ナル流道ニテモ、既ニ衝動ヲ受ケタル所ニ從ヒ、又何如ナル事業ニテモ、終日我ニ深ク印象ヲ起シタル所ニ從ヒ、又何如ナル事ニテモ、極メテ久シク、尤モ強ク、我カ心ニ旺シタル所ニ從ヒ、其物、我ニ正ニ周匝ノ庶物ヨリ、我カ意ヲ失ハムトスル瞬間ニ、自ラ復現シテ、心ハ猶、新ナル奇觀ト共ニ進ミ、或ハ晝日、若クハ、暮夜ノ未ダ



同一理ヲ

解了セサル問題若クハ、煩難ナル課程ノ未タ通曉セサル者ト共ニ進ミ  
 思慮ノ端緒ヲ復取シテ、之ヲ一定ノ目的ニ達スルハ、稀ナル事ニ非ルナ  
 リ、而テ且ニ至リ、睡リ醒レハ、前夜夢中ニテ、之ヲ思ヒシ時ハ、超乘ス可ラ  
 スト、見エシ者モ、其問題ヲ解釋シ、若クハ、其煩難ヲ通曉シテ、其難キヲ覺  
 エサルナリ、是其實ハ、前夜之ヲ思慮シテ後、乘置セシトハ、非ス、睡中ニ猶、  
 我カ腦ハ、正ニ此事ニ工夫ヲ費シ、或ハ時トシテ、終夜ナルコトモアルヘ  
 シ、而テ朝ニ至リ、之ヲ曉解スルハ、是其時、此心一層新鮮ナルヲ、以テノ故  
 ニ非スシテ、終夜腦漿ヲ以テ、此ニ從事シタル結果ナリ、時トシテハ、吾人  
 醒ノタル時、此ニ就テ、意識ヲ有シ、睡中ニ經過シタル苦心ノ甚シク且久  
 シカリシテ、暗ニ追想シ得ルコトアリ、余以謂フニ、尋常此ニ就テハ、意識  
 ナシトス、然ルニ、唯其明證ハ、世ノ能知ル理法ニシテ、心ノ慣習ハ、其從來  
 ヨリ流通シ、來リテ、漸クニ耗損シタル流道ヨリ、注灌スルテ、常トスル者  
 ナリ加フルニ、カノ發時ニ難キ所、醒時ニ至リ、何故カ、曉解スルニ、至ルト  
 云フ事實モ、屢、視察ニ供スレハ、併セテ以テ、之ヲ證スヘキナリ  
 孔徳爾設多ハ、夜半ニ至リ、已ムヲ得ス、一問題ノ解法ヲ究メスシテ、之ヲ

猶譬喩ヲ以テ論ス

措キ、寢ニ就キタレハ、睡中ニ提醒ヲ受ケテ、其問題ノ、正シキ解法ヲ得タ  
 リト云ヒ、弗蘭哥林ハ、一ノ紛錯セル政略上ノ舉措ニ就テ、睡中ニ、十全ナ  
 ル決定ヲ得タリト云フ、然ルニ、是獨リ、孔徳爾設多ヲ推シテ、此事アル數  
 學家ト、ナス可ラス、又獨リ、弗蘭哥林ヲ指シテ、此事アル政事家ト、ナス可  
 ラス、是固ヨリ、有ルヘキ事ニシテ、吾人、前時心ニ、染ミタル事業、其時正ニ、  
 旺シタル情狀心ノ性質、思慮ノ慣習、感動ノ慣習ハ、皆以テ、我カ夢ノ體段  
 ヲ定メ、其形容ヲ成ス者ナリ、是皆、主觀ノ連絡ヲ有シ、何如ニシテモ、我、即  
 チ、我カ真ノ履歷ト、相離拆シタル者ニ非ス、故ニ通常、人ノ思フ如ク、偶然  
 ニシテ、相關セサルノ事ニ非ルナリ、故ニ、大統領義徳的瓦カ、夢ヲ以テ、其  
 心ノ情狀、其真ノ性質、偏癖ニ、指計ヲ假ス者ナリト、表章セルハ、道理ナキ  
 コトニ非スシテ、是夢ハ、此心ノ、何如ナル方向ニ在ルカヲ示スノ、纒旗ナ  
 リトス、今カノ院本ノ大名家索士ノ、諸本ノ中ニテ、馬加彼多ノ夫人ノ夢  
 ニ、其獨知ヲ罪シタルノ夢ハ、豈其真ヲ得タリト、謂ハサルヲ得ムヤ  
 吾人ノ夢中ニハ、其我カ天稟ノ資質ト、旺シタル思慮ノ儀象ト、現ハル、  
 耳ニアラス、又或著家ノ表章セル如ク、我カ生來ノ才能モ、此無意ナル心

此故ニ性質上ノ才



能モ顯ル  
チ論ス

ノ發動中ニ顯ハル、コトアリ、蓋シ其才能ハ我カ教育ト家業トニ拘ハ  
リテ、出現スル機會ヲ得サル者ナルニ、睡中ヲ時トシテ、機ニ乘スルヲ得  
ル者ニテ或ハ、詩人トナリ、或ハ、畫工トナリ、或ハ、説家トナリ、何ニテモ、其  
性ノ趨ク所ニ從ヒ、又何ニテモ、其壓住セラレタル心ノ、冀慕スル所ニ從  
ヒ、又我カ醒時ニ於テ、徒ラニ期望スル所ニ從ヒテ、出現スル者ナリ

夢ノ附着  
ナキヲ論  
ス

曩ニ云ヒシ所ノ、道理ニ因テ、夢ノ附着ナキコトハ、十全ニ解説スルヲ得  
ヘシ、余謂フニ、吾人睡中、我カ思慮ニ就テ、意力ノ算束チ亡失スルハ、固  
ヨリ、眞然ナリト雖、阿咸氏ノ思ヘル如ク、全ク是レニ係ハルニ非ス、其實  
吾人、此時ニ於テ、此ノ如キ附着ナキコトヲ知ラサル耳、故ニ、我カ意力ノ  
亡失ニ、係ハラサルハ、勿論ニテ、意力ハ縱ヒ増スアリトモ、意識ノナキ缺  
亡ハ、之ヲ補ハシムルコト、能ハサルナリ、故ニ、是ニハ關セザレド、全ク別  
ナル源由ニ關ス、而テ、其源由ハ、既云ヘル如ク、睡中ニハ、吾人、我カ周匝ノ  
物トノ關係ヲ亡ナヒ、我時間ト空間トチ亡フ、故ニ、其物ノ符合スルヤ、適  
當スルヤ、自在ニ獨立スルヤ、相附着スルヤ、之ヲ辨決スヘキ本則ヲ有セ  
サルナリ

其實在ニ  
似タルヲ  
論ス

何ニテモ、實在ニ似タル者ハ、夢ヨリ甚シキ者ハ非ス、カノ地形風光ノ若  
キ、動靜坐臥ノ若キ、不意ノ事變ノ如キ、總テ、特ニ的然トシテ出現シ、我カ  
前ノ空中ニ、像影ノ現ハシ、總テ、唯主觀ノ物ニハ、似サルナリ、或人ハ、之ヲ  
一事實ニ歸シテ、以謂ヘラク、是夢中ニ於テハ、我カ心ノ理會ヲ、攪擾シテ、  
別ニ注意ヲ呼起スル者ナク、吾人、專ラ此中ニ、在ルヲ以テ、實在ノ如ク、見  
ユルナリト、然レ、余ハ、醒時ニ在テ、我ノ注意、全ク一緒線ノ思慮中ニ、沈ミ  
タル時ト、比例シテモ、此ノ如キ理會ノ、表現シテ、言ハ、客觀上ノ實在ト  
シテ、浮動スル質アルヲ見ス、其理會ハ、徒ニ理會ニシテ、唯一層活潑ナル  
耳、是ヲ以テ余ハ、此夢中ノ實在ト見ユルコトヲ、他ノ源由ニ、歸セムト、欲  
スルナリ、蓋シ、吾人ノ慣習ハ、總テ我カ意ノ、指揮管轄ノ至ラサル所ニテ、  
我ト、我カ意トニ、拘ハラスシテ、往來スル者ハ、之ヲ視テ、客觀ノ物トス、是  
睡中、腦漿發用ノ第一理法ヲリト見ユ、故ニ、吾人、之ヲ管束シ、能ハサル所  
ノ理會ハ、理會トセスシテ、知覺、即チ實在ナリト信スルニ至リ、自然ニ、此  
ノ如ク、欺カル、ナリ

時間ノ長

或著述家ニ從ヘハ、事實上ノ時間ト、夢中伴象ノ時間トハ、全ク比例ス可



短テ論ス。テスシテ、是ヨリ隱微ナル者ハ、莫シト見ユト、是蓋シ、吾人ノ夢ハ多ク、時  
 ノ比例ニ於テ、極メテ僅少ノ時間ニ、結成スレドモ、我ニ見ユル所ニテハ、陸  
 續トシテ、久シク時間ヲ經タリト、見ユルコトヲ、指セルナリ、其一例ハ、一  
 士官ノ説話ニ、佛朗西顛覆ノ時、獄中ニ幽ハレシ時、一朝、備哨ノ交代ニ就  
 テ、番兵ノ叫呼ノ爲ニ、醒覺シタレドモ、再ヒ睡ニ就キケルニ、其夢中ニ、巴里  
 ノ一街上ヲ、騎馬ニテ、分列式ニ立テ、通行スル、帶銃シテ且勇猛ナル武  
 人ノ、極メテ長ク、又極メテ恐怖スヘキ行列ヲ見タリ、是其通行ノ間ニ、頗  
 ル時間ヲ、歴タリ、其時、之カ爲ニ、駭愕シテ、再ヒ夢覺メタル時ニ、曩ニ夢ノ  
 始リシ前ニ、番兵ニ叫ヒシ所ノ、問號ノ答ヘテ、明亮ニ聞ク比ホヒナリシ  
 ト、或人ノ云ヘルニ、此ノ如キ時ハ、心ノ運行、他時ヨリモ、一層速カナリト、  
 然レ、是明證ナキ事ナリ、余ハ、士低瓦的氏ノ説ヲ正シキ解釋ナリト思フ  
 其説以謂ヘラク、吾人ノ夢ハ、我ニ實事ナリト見ユ、而テ、此伴象ノ事件ノ  
 接續ヨリ外ニ、時間ヲ評價スルノ術ナキ故ニ、夢中ニ經過スル腦中ノ理  
 會ハ、其事件ノ事實タル時ニ、經過スルト同シク、正シク其タケノ時間ヲ  
 經タリト見ユルナリト、是極メテ、自然在ルベキノ効驗ニシテ、此説以テ、

吉凶ヲ前  
 兆スル形  
 容アルヲ  
 論ス

問題ナル伴象ノ例外タルコトヲ解釋シテ餘蘊ナシトス

夢ハ、時トシテ前兆ヲナスコトアリヤ、而テ、是如何カ、之ヲ解釋スルヲ、得  
 ヘキカ、西塞魯ハ、夢ノ前兆ト謂フヘキ一奇例ヲ、記セリト、余謂フ、是、カノ  
 二亞爾加的亞人ノ事ヲ指スナリ、昔此二人墨俄羅ニ來リ、各別ニ僑居シ  
 ケルニ、其一人夢中ニ他一人ニ來レルコト、二度ニ及ヒ、初度ハ、救援ヲ求  
 メタレドモ、後ニハ、既ニ殺死セラレタルヲ以テ、明朝夙ニ、此都府ヨリ出テ、  
 或門ヲ通行スル、被蔽セル車中ヨリ、其屍ヲ取ラムコトヲ、其友ニ報シタ  
 リキ、其人、此夢ニ驚キ、期ノ如クシテ、其處ニ到リケレハ、果シテ車アリケ  
 ルヲ以テ、竟ニ、其屍ヲ檢出シ、其兇犯ヲ捕ヘテ、之ヲ、官ニ付シタリト  
 他ノ一事例モ、恐ラクハ、亦均シク、驚クヘキ事ニテ、倫頓期刊紙ニ記セリ、  
 哥倫瓦拉ニ住メル、維廉氏ト云ヘル人、一夜、英國ノ内閣尙書、平民房ノ廊  
 下ニテ、殺サレタル夢ヲ、三度マテ、見ケルヲ以テ、深ク之カ爲ニ驚キテ、其  
 知人ニ、之ヲ説話セルコト、數人ニ及ヒケルカ、後其日夕ニ及ヒテ、内閣尙  
 書ノ、波期瓦拉氏、夢ノ如ク、暗殺セラレタルコトノ、確報ヲ得タリト、然ラ  
 ハ則チ、是果シテ、實ニ、湊合ノ一奇事タリヤ、是別ノ事理アルニ非ス、唯偶

同質ノ他  
 ノ一事例  
 ヲ舉グ



然ニ屬シ、其事ノ如ク夢ニ現ハレ、其事實ト、此ノ如ク、密ニ相符スルハ、唯  
偶然ルカ、然ルニ、是固ヨリ、此一事例ニ限ルニ非ス、此ノ如キ事記傳ニ多  
シ

學士予兒  
ノ記セル  
事例

學士予兒ハ、心體相關運用ト云フ、切要ナル書ノ著述者ナリ、其中ニ、自己  
ニ視察シタル事ナリトシテ、次ノ事ヲ載セタリ予氏ノ一友、曾テ郊外ノ  
追地ニ於テ、墓誌ヲ讀ムコトヲ好メリ、一夜夢ミテ、其慣習ノ如ク、塋地  
ニ到レハ、忽チ新墓アリテ、目ニ觸レ、意ヲ惹ケリ、就テ之ヲ見レハ、其親友  
ノ墓ニシテ、死没ノ月日姓名ヲ表シテ、的然クレハ、其友ハ、即チ其日ノ暮  
夜ニ、共ニ會話シテ、歡ヲ盡セシ人ナリ、是ヲ以テ、極メテ驚愕シタレハ、唯  
其夢ナルヲ以テ、再ヒ之ヲ思ハス、曾テ之ヲ追懷スルコト無リシカ、數月  
ノ後、其友ノ訃告ヲ得タリシニ、其死歿ハ、夢中ニ墓誌ヲ讀ミシ其日ナリ  
ケリ

亞比加爾  
論正ノ說  
話ナル事  
例

學士亞比加爾論正ノ、說話ナル事例ハ、又此湊合ノ一奇事ナリ、姉妹二人  
アリテ、其同胞ノ弟ノ病牀ニアルカ爲ニ、同シク其隣房ニ、臥セシニ、其姉  
夢ニ時辰鏢ノ過止シタル故ニ之ヲ妹ニ告ケタレハ、妹答ヘテ曰ヘラシ

是殊ニ好カラス、何トナレハ、獨リ是ノミナラス、弟ノ息モ、過止セリト、其  
姉愕然トシテ、覺ムレハ、即チ夢ナリ、依テ時辰鏢ヲ取テ、之ヲ檢スルニ、旋  
回異ナシ、又其弟ヲ視レハ、睡正ニ酣ナリ、然ルニ次日ノ夜、復夢ルコト、一  
ニ前夜ノ如クニシテ、別ニ異ナシ、翌朝ニ至リ、其姉正ニ晝机ニ就テ、時辰  
鏢ヲ把ラムトシ、其針ノ過止スルヲ見、喫驚スルニ方リ、同時ニ、其妹、病人  
ノ房ニ在テ、喊叫スルヲ聞キ、愕然タリ、而テ病者ハ正ニ此時ヲ以テ、最後  
ノ息ヲ絶チケリト

増加ノ事  
例

同質ノ一例ヲ、說話セル者アリ、然レ、余其說ノ由ル所、如何ナル信スヘキ  
人ニ、出ルカ、之ヲ知ラス、其說ニ云ヘラシク、老校安德列ノ女弟、一夜、其遠征  
セル兄、捕縛セラレ、軍法裁判所ノ訟庭ニ引カレタリト、夢ニ其諸士官ノ  
容貌、并ニ服章等、明亮ニ心中ニ印象シ、其夢中、囚人ト、裁判官トノ位置マ  
テ、的確ニシテ、且總テ審理ノ事情、其裁判、并ニ、其兄ノ處刑ヲサヘニ、夢ミ  
ケレハ、深ク痛心シテ、爲ニ、驚キ醒メテケリ、後、深ク之ヲ掛意シケルカ、果  
シテ、其捕縛、審判、裝刑ノ報知アリテ、其悲哀ヲ、確定シタリ、其奇トスヘキ  
ハ、其夢ト、符合シタル事實ニテ、其事ノ起リシ時、其地、其訟庭、其位置、裁判



官ノ服章等ニテ中ニモ此女子曾テ見サリシ人ナレド華盛頓ト那吉士  
 二氏ニ於テハ殊ニ其形容ヲ徴シテ之ヲ語レリト云フ  
 又他ノ一事例ハ之ヲ説話セル人嘗テ或ル島ノ近邊ニテ難船アリタル  
 チ夢ミタリ然ルニ其船ニハ其同胞船長トナリテ傍ラ貨物ノ主ナリケ  
 ルニ船ハ覆没シタル由人ハ皆助カリタリト見テケルニソ深ク之ヲ愛  
 ヒ直チニ保險會社ニ到リ其同胞ノ貨物ヲケニ就テ別ニ五千弗ノ保險  
 料ヲ償ヒタリ然ルニ次ノ郵便ニテ新報ヲ得ケルニ其船ハ果ジテ其人  
 ノ夢ミタル時ト處トニ符合シテ破船ニ及ヒタル由水夫ハ皆安全ヲ得  
 タリト

其湊合ナ  
 ルカヲ論  
 ス

然ラハ則チ總テ此等ノ事ヲ湊合相符スルナリト云フハ誠ニ容易ニシ  
 テ是皆其湊合タルコト確然タリト謂フヲ得ヘシ然レ其唯湊合タルハ  
 確然タルコトニ非ス蓋然ニ屬スト謂フヘシ之ヲ湊合ナリト稱シ湊合  
 ト見レハ依テ以テ其理由ヲ解釋スルコト容易ニシテ遺漏ナシトシテ  
 之ヲ經過スルハ是唯哲人ノ粉粧ヲナシテ人間ノ無知ヲ掩蔽スル淺慮  
 ノミ是附會タルニ過キスシテ其附會タルモ亦其隱微ヲ究ムルコト能

ハサルハ絶テ前時ニ異ナルナクシテ一モ依テ以テ解明スルコトナキ  
 附會ナリト謂フヘシ余カ見ル所ニテハ其附會タル爲シ得ヘキ附會中  
 ニテ最モ蓋然ナル附會ニ非スシテ其中ニテモ尤モ蓋然ニ近カラサル  
 附會ナリ上ニ擧ケタル諸例ハ前ニ定メタル吾人ノ夢ヲ生シ之カ情狀  
 チ粧添スルノ理法即チ約束ノ中ニテ孰レニ當ルヘキヤヲ見ルヘシ今  
 此等ノ夢ハ其言ノ如クナレハ夢ミル者ニ在テ現在其體ノ感覺ヨリ提  
 起セラレタル者ニ非ス又夢ミシ者其醒時ニ當リ何故ニ此等ノ事件ヲ  
 思ヒ其事件ノ接續ヲ思慮スヘキカ此事例ノ性質ニテハ此ノ如キコト  
 ナ思フ道理ナキ故ニ是亦唯醒時ノ思慮ヲ再現シタルニ非ス勿論先兆  
 ト云ヘル夢ハ此道理ニ依テ解釋スヘキ者尤モ多キコト疑ヒナク多分  
 ハ吾人現在ノ感覺衝動ニ由リ或ハ晝日其心或ハ感興シ或ハ掛慮スル  
 所アリテ思慮ノ緒餘ヨリ發スル者ナリ然レ上ニ援キタル事例ハ此類  
 ニ非ルナリ

之ヲ必ス  
 理外ナリ

然ラハ則チ吾人夢ハ時トシテ先兆タルヲ信スヘキカ既ニ其此ノ如ナ  
 ルヘキヲ疑フノ道理ナケレハ是此等ノ時ニ當リテハ理外ノ事件ナラ



ト、定ム可サルヲ得ムヤト、蓋シ、將來ノ事、理外ニ於テ夢中ニ通知ヲ得ルハ、疑ヒナラサルヲシ、カノ聖書ヲ信スル者ハ、皆之ヲ信セサルヲ得サルカ如ク、此事ノ有シコト、且僅々ナラサルコト、疑ヒナシ、然レ、是必ストスヘキ假定ニ非スシテ、夢ハ前兆タリトモ、理外ヌラサルコトアルハシ、蓋シ、吾人ノ知ラサル

一ノ理法、存スルアリテ、依テ以テ、神經甚シク振起セラレタル時、平常受ケサル衝動ヲ、感スルニ至リ、吾人ニハ、隱微ナル一道アリテ、此ノ如ク遠遠ナレド、其地形、其場所、其事件ヲ、通知スルニ至リ、以テ將來ノ事ヲ、認識スルノ奇異ヲ、致スナリ、今誰レニテモ、能其然ラサルヲ、證シ得ル者アリヤ、之ヲ證スルハ、カノ上ノ諸事例ヲ以テ、唯偶然ノ湊合トスルヨリモ、一層蓋然ナラサルニ、近カラスヤ、今若、生スル所ノ事件、其事例ノ多キコト彼カ如ク、其様法ノ驚クヘキコト、彼カ如クニシテ、前時ノ夢ト、相合スト雖レ、其適合スル源由ノ如何タルハ、固ヨリ之ヲ知ル可ラストセハ、然ラハ果シテ、蓋然ナリトスルニモ、足ラサルカ、之ヲ以テ、將來ヲ啓示スル爲ニ、神力ノ直チニ、媒介スルナリト思フモ、亦同シク、道理ナシトスルカ、神力ノ媒介アルヘキコトハ、余カ敢テ、否ミ肯ンセル所ニシテ、其唯然ル所

以テ、知ラサルノミ、故ニ此ノ如キ事ニ於テハ、或ハ、一ノ理法アリ或ハ、發ニ暗指セル如キ、一種ノ力アリテ、未タ其理ヲ、講解ス可ラスト、雖レ、一部分ニハ、身體ノ情狀ニ屬シ、其特ニ感發シ易キ時ニ於テシテ、共通用ノ法ハ、未タ曉解ス可ラスト、雖レ、其存在ハ、上ニ援キタル如キ事例ニテ、徵スルニ足ル者ニ非ル、莫キヲ得ムヤ、然レ、余敢テ、之ヲ以テ、眞ノ解釋ナリト、肯定スルコト能ハス、唯余カ見ル所ニ從テ、或ハ以テ、此問題ヲ解スルニ、足ルヘキ者ヲ、提起シテ、指示スルニ、過キサル耳

此事實ノ理由トナスニ供スル諸法ヲ論ス  
然レハ、此事實ノ理由トスヘキハ、唯四ツノ解法トナスヘキ者アルコト、較著ナリ、(第一)此ノ如キ事實アルヲ拒ムコト、即チ此ノ如キ夢ハ、絶テ無シト云ヒ、或ハ、縦ヒアルモ、現實ノ効驗アリテ、之ト合通スルコト無シト、謂フナリ、(第二)之ヲ呼テ、湊合相符セリトスルナリ、(第三)理外ノ力アリト、スルナリ、(第四)之ヲ體ノ感覺ヨリ提起スル者ト、スルナリ、余カ見ル所ニ

テハ、此假想ノ中ニテ、第二ト最後トノ、中間ヲ擇フヘシ

第三章 睡遊

睡遊ノ磁

原名、ソムナムプリスム、即チ睡遊ハ、或著述家ハ、之ヲ自然ノ磁染睡眠ト



關係スル 名ケ、カノ尋常、神遊ノ狀ト、名シル者トハ、異ニシテ、首トシテ、ニ屬シ、神遊ハ、人工ノ運用ニ屬スト、定メタリ

是他ノ同 質ノ現象 似タル 論ス 余尙、此後ニ於テ、言次、夢モ、ニ屬シ、神遊モ、神遊モ、癡狂モ、皆密ニ相似タルヲ、表章スルニ至ルヘシ、蓋シ、此諸狀ハ、各、皆同一ノ一大理法ニテ、其品性ヲ成シ、殆ト知覺ニモ、供セサル漸度ニ於テ、交、相通シテ、實ニ相共ニ、親密ナル關係ヲ、有スル者ナリ

之ヲ爲ニ 定メタル 方法ヲ論 ス 是カ爲ニ、第一ニ、ニ屬シ、神遊ノ現象ヲ叙述シ、次ニ、此諸狀ノ同一理ニテ、解釋スヘキヤヲ講究スヘシ

睡遊ノ叙 述 睡遊ノ首タル現象ハ、次ノ如シ、其本人ハ、熟睡ノ狀ニテ、己カ爲ス所ニ就テ、全ク意識ヲ有セスシテ、忽然トシテ起キ、周旋行歩シ、其道スル所ハ、危キ處ヲモ避ケズ、時トシテハ、到ル可ラサル處ヘモ到リ、談話ヲナシ、醒時ノ如ク、事ヲ作シ、暗中ニテ、兩眼ヲ閉チ、或ハ、兩目ヲ縛蔽スレヒ、猶、醒能時ニ在テハ、慎密ニ注意ノ、視力ヲ勞スヘキ運用ヲモ、爲シ得、其尋常醒時ニ於テハ、實ニ視エサル物ヲモ、知覺シ、恐ラクハ、其處ニ在ラサル物、若クハ、將來ノ事ヲモ、知覺スヘシ、而テ此狀ヨリ醒覺シタル時ハ、全ク何事ノ有

例 說話ニ傳ヘタル事

波多ノ總領牧師培養學校ノ書生マリシ時、其實験ニ出シ事例ナリトテ、佛蘭西ノ百學韻府中ニ、說話ヲ載ス、一牧教師アリ、歲猶少カクシテ、睡遊ノ名アル者、爰ニ住ミケレハ、總領此奇病ノ、性質ヲ究メムト欲シ、毎夜、其少年ノ睡後ヲ時トシテ、此室ニ到リケルニ、其少年、乍チ起テ、紙ト、筆墨トヲ取り、教訓講義ノ著作ニ從事シ、一片葉ヲ書寫スル、極メテ明亮讀ムヘシ、而テ、片葉ヲ書寫シ了レハ、朝々之ヲ讀ミ、上行ヨリ、下行ニ至ル、其聲調爽然ニシテ、抑揚亦、平日ニ異ナルナシ、若章句ノ意ニ適セサル者アレハ、之ヲ削リ、其改正ヲ書シ、削リタル行、若クハ、語ノ上ニ、於テスルコト、其位置ヲ失フコトナシ、總テ、此等ノ事ヲ爲スニ、兩眼ノ助ケヲ、假ルコトナク、兩眼皆閉チテ、睡眠中ナルコト、著明ナリ、此時、一厚紙ヲ取り、其目ト紙トノ中間ニ、間隔スルモ、妨ケナク、又其不便ヲ覺ユルコトナシ、其書紙ニ換フルニ、他ノ同寸法ノ紙ヲ、以テスルニ亦其變換ヲ覺ユルコトナシ、唯寸法ノ異ナル紙ヲ、以テスレハ、其人、即チ其異ナルヲ、聯破セリト云フ、是觸覺感動ノ覺性ハ、猶作用ニ供シテ、之ヲ以テ、先導ノ器ト、スルヲ見ルヘシ



同質ノ他 同様ノ事例ハ、其數殆ト限リナク、傳説ニ存シ、中ニモ、同一現象ヲ觀ルコト多シ、或事例ニテハ、其本人、一片紙ニ、全文ヲ書記シ、之ヲ復閱シテ細心

ニ句ヲ切り、讀ヲ點シ、地名人名ニ線畫ヲ施スヲ見、且此現象ヲ現ハスハ、夜中ニ限リタルコトニ非ス、人アリ、教院ニ在テ、神事ニ服シツ、磁染ノ狀ニ入り、竟ニ、兩眼ヲ閉チテ、其家ニ歸レル者アリ、而テ途中、車馬ノ往來、人行ノ繁キニ、細心ニ之ヲ避ケ、數里ノ遠キ處モ、此狀ニテ其使用ヲ辨シ、往來平安ニシテ、歸リ來ル者アリト、云フ

一珍奇ノ事例、一貴人ノ說話ニ傳ヘタリ、其人、其雞ヲ飼ヘル茅障、夜々騒喧ニシテ、之ヲ搶奪スル者アルヲ知リ、殆ト期スル所ヲ、全ク失ハムトスルニ至レリ、然ルニ、怪ムヘキハ、家ニ大狗アリテ、能夜ヲ守レ、絶テ之カ爲ニ、騷擾スルコトナキナリ、因テ此事ノ眞狀ヲ、的知セムト欲シ、其家僕ヲシテ、一夜之ヲ守ラシメタリケレハ、其夜果シテ、盜アリテ來リケルニシテ、拒捕ノ争ヒノ後、竟ニ拿捕ニ就キタルニ、能々視レハ、即チ其貴人自己此過惡ノ主ニテ、熟睡ニテ爲セル事ナリキ

一奇例

又他一事例ノ說話アリテ、全ク奇異ナル一狀ヲ、現ハセリ、余思フニ佛蘭

西ノ事ナルヘシ、小女學校アリテ、畫技ノ成功ノ爲ニ、褒銀ヲ注セリ、然ルニ、其爭競者ノ中ニ、一少女子ノ遲鈍ナルアリケルカ、自ラモ、其技ノ劣レルヲ、知リケレ、深ク其幸ヲ得ムコトニ、熱心セリ、然ルニ、一時ハ、其技ノ進マサルヲ以テ、深ク恨ミトナシダレ、其朝毎ニ、筆ヲ取ルニ臨ミ、漸次ニ、覺ユルコトアリテ、前日其畫ヲ描キシ後ニ、何物カ、之ニ加功シテ、増減スル所アリト知レリ、此ノ如キコト、既ニ日ヲ歴ダレハ、自ラ其奇異ナルニ、驚キケリ、然ルニ、其加功セル手ハ、極メテ、勝レタル手ニテ、其自己ニ比スレハ、巧ミナルコトモ、筆勢モ、遙上ニ出タリ、依テ之ヲ、其同塾ノ女伴ニ正スニ、各、皆其事ヲ知ラスト拒ミ、此ノ如キコト、數次ニ及ヘリ、其女子乃チ、其室ノ戸後ニ、其畫具諸器ヲ置キ、以テ室ニ入ル者アレハ、必ス醒覺スヘシト、此ノ如ク設ヲナシテ、少シモ、其諸器ハ、動カシタル跡無レ、其秘密ナル加倍ハ、猶前ノ如ク續キタリ、最後ニ、其女伴、意ヲ決シテ、室外ニ在テ、監守シ、一人モ、夜中ニ、其室ニ入ラシメサリケレ、其加功ハ、猶已マサリケリ、後其女伴、愈、疑ヒテ、竟ニ其女子ノ動作ヲ、視究メタリケレハ、是ニ於テ、始メテ、其秘密ヲ、解釋シ得タリシト、其女伴ハ、其女子熟睡ノ狀ニテ、